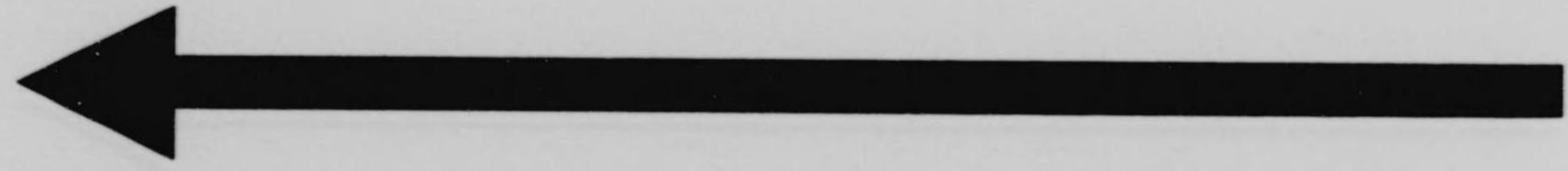


369

/3



始





369-1312

駒場  
叢書

花卉害虫篇

東京帝國農科  
大學名譽教授  
理學博士佐々木忠次郎著

大正  
12.7.27  
内文

東京大倉書店發行



## 緒言

余は既に駒場叢書作物、蔬菜、果樹の三害蟲篇を著し今回更に花卉害蟲篇を發行するに至れり、我邦花卉の發達は實に著しきものにして各地温室を設け之を栽培し嚴寒と雖ども尙ほ香色爛熳たる花卉類を側にして以て徒然を慰め或は客に接するの裝飾となす等其の用途頗る多し、其栽培をして完全ならしめんには必ず其害蟲の豫防驅除を攻究するの必用あり本篇載するところの花卉植物は四拾五種其害蟲は百有餘種ありて之に圖畫を加へたり、蓋し本著の目的は他の害蟲篇と均しく應用を主眼となす

大正十二年七月

理學博士 佐々木忠次郎誌



駒場 花卉害虫篇  
叢書

目次

第一 薔薇害虫.....一

鱗翅目.....一

1. バラ緑夜盗虫蛾 (*Amphipyra livida* L.) .....一

2. バラ象虫.....三

3. ハナモグリ (*Glycyphana piliifera*) .....四

4. バラハムシ (*Chaetocnema* sp.) .....五

5. バラ廣口象虫.....七

6. バラオトシブミ虫 (*Attelabus* sp.) .....八

膜翅目

目次



7. チユレンシ (*Hylotoma pagona* Parz.) ..... 一〇

半翅目

8. イバラヒケナカアブラ (*Macrosiphum ibarac* Mats.) ..... 一四

9. バラ介殼蟲 (*Diaspis rosae*) ..... 一六

第二 脚躑の害蟲

..... 一八

鱗翅目

1. しなの毛蟲蛾 (*Diacrisia infernalis* Butl.) ..... 一八

2. トラフ毛蟲蛾 (*Artaxa intensa* Butl.) ..... 二三

3. ツツジカレンハ蛾 (*Farias rosifera*) ..... 二五

膜翅目

1. ツツジ葉蜂 (*Dolerus* sp?) ..... 二六

2. チユレンシ (*Hylotoma similis* Volen.) ..... 三〇

3. ツツチ軍配蟲 (*Stenophanitis rhododentri* How.) ..... 三一

半翅目

2. ヒメワタカヒカラムシモドキ (*Phenacoccus azalae* Kuwana) ..... 三三

三 柘榴害蟲

1. 柘榴蓑蟲蛾 (*Clania minuscula* Bu l.) ..... 三六

2. 柘榴小鱗 ..... 四一

第四 李害蟲

1. ウスバツバメ (*Eleyama* Westwoodi Vollenh.) ..... 四三

第五 櫻害蟲

鱗翅目

1. キンケムシモトキ (*Acronycta tridens* Schiff.) ..... 四四

2. ウチスズメ (*Smerinthes ocellatus* L.) ..... 四八

3. 櫻毛蟲蛾 (*Phalera flavescens* Brem.) ..... 五一

甲翅目

1. ロリコガネ (*Euchlora cuprea* Hope.) ..... 五三

半翅目

目次



第六 梅害蟲

鱗翅目

- 1. 櫻五倍子蚜蟲 (*Myzus sasaki* Mats.) ..... 五
- 2. 桑介殼蟲 (*Diaspis pentagona* Targ.) ..... 五

- 1. コケムシ蛾 (*Mitochrista aberans* Butl.) ..... 三
- 2. チョナシ蛾 (*Caligula jonassii* Butl.) ..... 三
- 3. 梅腰高蟲蛾 (*Hilberis pruni* Dyar) ..... 六
- 4. コノハ蛾 (*Gastropacha quercifolia* L.) ..... 七
- 5. シヤチコムシ蛾 (*Stauropus fagi* L.) ..... 六

半翅目

- 1. 梅蚜蟲 (*Macrosiphum munecola* Mats.) ..... 六
- 2. タマカタカヒガラムシ (*Lecanium kunoensis* Kuw.) ..... 六

第七 梔子害蟲

鱗翅目

- ..... 八

- 1. 梔子蠟蛾 (*Cephonodis hylas*) ..... 八

半翅目

- 1. クチナシ粉負蟲 (*Aleurodes* sp.) ..... 八
- 2. カメノカフ蠟蟲 (*Ceroplastes floridensis* Comst.) ..... 八

第八 ボケ害蟲

鱗翅目

- 1. サミダレ蛾 (*Abraxas eurymede* Mats.) ..... 九
- 2. モモケムシ蛾 (*Malacoma neustria* L.) ..... 九

第九 桃害蟲

鱗翅目

- 1. 桃葉捲蟲蛾 (*Tachyptilia subsequella* Hb.) ..... 九
- 2. 桃穿葉蛾 (*Lyonetia eleckella* L.) ..... 九
- 3. 桃新芽尺蠖蛾 (*Hemitica Sasaki* Mats.) ..... 九
- 4. 桃イモムシ蛾 (*Amphipyra pyramidea* L. var. *monolitha* Gn.) ..... 一〇

目次



5. 桃緑尺蠖蛾 (*Alsophila membranaria* Christ) ..... 102

6. 桃ヤニ蟲蛾 (*Samina* sp?) ..... 107

7. 桃毛蟲蛾 (*Chisocampa neutra*) ..... 109

8. 桃鐵砲蟲蛾 (*Hepialis* sp.) ..... 113

9. 桃の豹紋蛾 (*Astura punctiferalis*) ..... 116

10. 桃の心折り蟲蛾 (*Laspeyresia molesta* Busck) ..... 119

甲翅目

1. 桃芽喰象蟲 (*Scoparius insularis* Roelof.) ..... 121

半翅目

1. 桃蚜蟲 (*Myzus momonis* Mats.) ..... 123

第一〇 サルベスリ害蟲

鱗翅目

1. 栗蟲蛾 (*Caligula japonica*) ..... 125

2. イラムシ蛾 (*Cnidocampa [monema] flavescens* Butl.) ..... 131

半翅目

1. サルスベリフクロ介殼蟲 (*Eriococcus lagerstroemiae* Kuw.) ..... 135

第一一 椿害蟲

鱗翅目

1. 茶毛蟲蛾 (*Artaxa compersa*) ..... 137

2. 椿穿葉蛾 ..... 143

半翅目

1. 椿の介殼蟲 (*Diaspis cameriacae*) ..... 145

第一二 ヒメコブシ害蟲

鱗翅目

1. オホアヤ尺蠖蛾 (*Pseudopteryx superans* Bu L.) ..... 148

膜翅目

1. ヒメコブシ葉蜂 (*Tenthredo gifui* Marl?) ..... 151

半翅目

目次



第一三 槭害蟲

鱗翅目

1. モミヂ白裸蟲蛾 (*Brachionyeoides atrovittatum* Brem.) ..... 一五六

半翅目

1. 槭介殼蟲 (*Diaspis* Sp.) ..... 一六〇

2. モミジワタカヒガラムシ (*Pulvinaria Horii* Kuw.) ..... 一六三

第一四 ムクダ害蟲

鱗翅目

1. ひくげ蛾 (*Cosmophila mesogona* Wk.) ..... 一六五

第一五 ネムノキ害蟲

鱗翅目

1. ネムノキ毛蟲蛾 (*Hypopyra dulcina* Fel.) ..... 一六八

第一六 ナツツバキ害蟲

一七〇

1. ヒモワタカヒガラムシ (*Takahashia japonica* Ckll.) ..... 一五五

33

32

31

30

半翅目

1. ナツツバキ介殼蟲 (*Lecanium* sp.) ..... 一七〇

第一七 サongo樹害蟲

甲翅目

1. サongo樹ハムシ ..... 一七二

第一八 ヒホラギ害蟲

甲翅目

1. テントウハムシ (*Orgopistes coccinelloides* Bailly.) ..... 一七五

第一九 アヲキ害蟲

半翅目

1. アヲキ介殼蟲 (*Mytilaspis* Sp.) ..... 一七六

第二〇 藤害蟲

甲翅目

目次

一八一



16  
第二一 南天害蟲……………一八二

鱗翅目

1. フジハムシ (*Phytodecta rubripennis* Baly) ……………一八二

21  
第二二 マンリヤウ害蟲……………一八七

半翅目

1. 桑ケナガケムシ蛾 (*Orgyia thyalina* Butl.) ……………一八四

第二三 ツルムメモドキ害蟲……………一九九

鱗翅目

1. マンリヤウカタカイガラムシ (*Lecanium* Sp?) ……………一八七

第二四 ウヅキ害蟲……………一九二

半翅目

1. キステ尺蠖蛾 (*Vithora agrionides*) ……………一九九

1. ウヅキ綿蟲 (*Pectio pera distinctissima*) ……………一九二

35  
第二五 忍冬害蟲……………一九五

鱗翅目

1. 忍冬毛蟲蛾 (*Apha tychoona* Butl.) ……………一九五

第二六 烟草害蟲……………一九八

鱗翅目

1. 烟草螟蛉蛾 (*Chloridia assulta* Gn.) ……………一九八

第二七 芙蓉害蟲……………二〇一

鱗翅目

1. ホウヅキ椿象……………二〇一

第二八 アチサイ害蟲……………二〇六

鱗翅目

1. 芙蓉尺蠖蛾 (*Xanthodes rursversa* Gn.) ……………二〇四

1. アチサイ鐵砲蟲 (?) ……………二〇六



目次  
膜翅目

二二

1. アヂサイ葉蜂 *Nematus* sp. ? ..... 六

第二九

ツタ害蟲 ..... 三一

鱗翅目

1. ツタ穿葉蟲蛾 ..... 三一

2. ツタ緑尺蠖蛾 (*Larentia venulata* Oeherth.) ..... 三四

3. ツタマタハムシ蛾 (*Zalissa subflava* Moore.) ..... 三六

第三〇

菊害蟲 ..... 三九

鱗翅目

1. 菊緑尺蠖蛾 (*Euchloris albocostaria* Brem ?) ..... 三九

2. 菊蠅蛾 (*Hadena viridimaculata* Graes ?) ..... 三九

3. をどりこ蛾 (*Arctia caja* L.) ..... 四〇

4. 菊ピストル蛾 ..... 四六

甲翅目

第三一

1. キクスヒ (*Dere thoracica* white.) ..... 三六

第三二

ニハセキシヨウ害蟲 ..... 三九

雙翅目

1. ニハセキシヨウ蛾 (*Eriopus* Sp. ?) ..... 三九

第三三

アヤマメ害蟲 ..... 四三

雙翅目

1. アヤマメ夜盜蛾 (*Polia illoba* Butl.) ..... 四三

雙翅目

2. アヤマメハムグリハイ (*Anthomyia* Sp. ?) ..... 四三

第三四

アケビ害蟲 ..... 四〇

雙翅目

1. アケビコノハ蛾 (*Ophideres tyrannus* Guen.) ..... 四〇

第三四

ヲミナヘシ害蟲 ..... 四三

雙翅目

目次

三三



第三五 ヲミナヘシ蠅蛾 (*Haemorrhagia fuciformis* L. var. *affinis* Brenn.) ..... 二四五

甲翅目

第三六 ネットヒハムシ (*Donacia aceraria* Paly) ..... 二四五  
アキノノゲシ害蟲 ..... 二四八

雙翅目

第三七 アキノノゲシ穿葉蠅 (*Anthomyia* sp?) ..... 二四八  
蘭害蟲 ..... 二五一

雙翅目

第三八 蘭ベッカウバイ (*Dicentra fasciata* Chy.) ..... 二五一  
蘭介殼蟲 (*mytilaspis* sp.) ..... 二五三

雙翅目

第三九 ツハブキ害蟲 ..... 二五八  
石竹バイ (*Anthomyia* sp?) ..... 二五六

雙翅目

第四〇 ツハブキ害蟲 ..... 二五八  
竹害蟲 ..... 二六一

雙翅目

第四一 タケノホソクロン (*Arlona funeralis* Butl.) ..... 二六一  
熊笹介殼蟲 (*Aclerda japonica* Newstead s. n. *Acl. tokionis* Kuwana.) ..... 二六四

半翅目

第四二 ホタル蛾 (*Chalcosia remota* Wk.) ..... 二六八  
ルリタマノキ害蟲 ..... 二六五

雙翅目

第四三 イハヒバ害蟲 ..... 二七〇  
イハヒバ蛾 (*Plusia* sp?) ..... 二七〇

鱗翅目

目次



第四十三 細辛害蟲……………二七

半翅目

1. 細辛介殼蟲 (*Lecanium* sp.) ……………二七

第四四 アマドコロ害蟲……………二七

膜翅目

1. アマドコロハバチ (*Tenthredo* sp.) ……………二七

第四五 ソナレ害蟲……………二七

二翅目

1. ソナレ穿葉蛾 (〜) ……………二七

附録

蚜蟲驅除法……………二乃至六

目次終

叢書場 花卉害蟲篇

理學博士 佐々木忠次郎

第一 薔薇害蟲



鱗翅目

一 ハラ緑夜盜蟲蛾 (第一圖)

學名 *Amphipyra livida* L.

族名 夜盜蟲蛾族

異名 カラスヨトフ

形態

成蟲 雌蛾は中庸大の蛾にして能く肥へ體軀黒褐色にして複眼觸鬚共に黒く胸部には厚く毛を生し前翅は同く黒褐にして其内縁と後縁との接する處

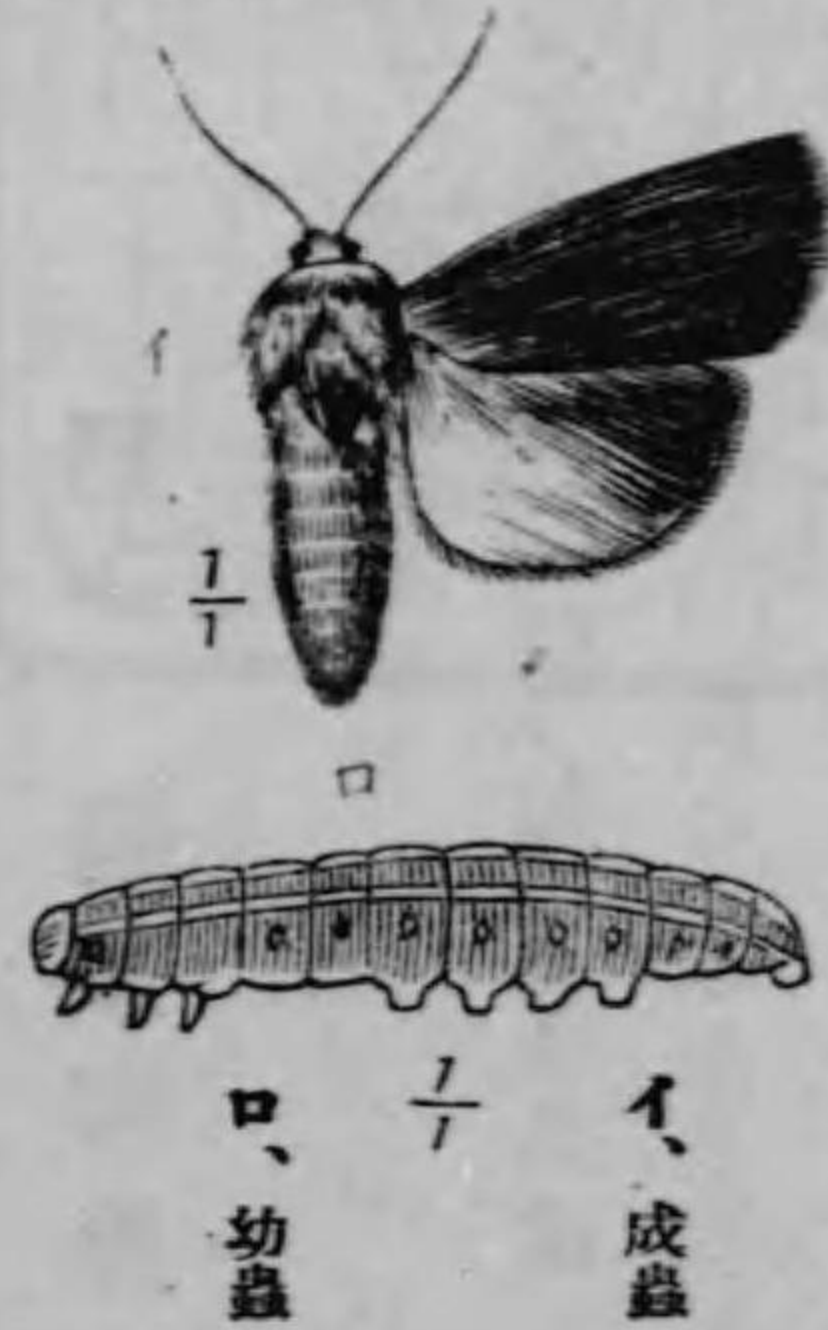
第一、薔薇害蟲



は淡赤褐なり後翅は同く淡赤褐なるも其前半と外縁とは淡黒褐なり體長七分翅の開張一寸五分あり。

幼蟲 老熟せる者は長さ一寸餘あり、體圓筒形にして鮮綠色を呈し背線及び亞背線は共に白色にして胸腹の兩脚は黄綠氣門は白色なり。

(圖一第)



繭はバラの枯葉を絲縷にて綴り造れるものにして其形不正にして完全ならず。  
經過習性 幼蟲は五月中旬頃より發生し薔薇の葉を食とし、六月中旬以來老熟し薔薇の幹枝に結繭し一週日前後に化蛹し七月上旬乃至中旬化して蛾となるなり。

加害狀況 害虫の發生は通常多からざるも一頭にても多く薔薇の葉を蝕食す。

豫防及驅除法 幼蟲の發生の時期に於ては時々薔薇を査檢し見當り次第之を捕殺するを良しとす。

甲翅目

二 薔薇象蟲 (第二圖)

學名 ?

族名 象鼻蟲族

異名

形態

成蟲

(圖二第)



體は小形黒色にして極めて堅く長さ八厘、頭、胸兩部の幅殆ど同一にして其面には小點紋と密布し頭部の後縁は前胸中に匿れ口吻は稍や長くして廣く觸鬚は十一節より成りて其末端をなせる三節は太くして紡錘狀をなす、複眼は黒し翅鞘は幅胸節に倍し其面には細點を密布す、脚は何れも同大にして比較的長く大腿節は長大にして兩端は稍や細まりたり。

經過習性 五月頃より多く現出し薔薇の新條に來集し嫩葉等を嗜食すると甚し其變態は未だ詳ならず。



**加害状況** 嫩葉蕾等は此象蟲の爲めに患害を受くこと敢て少しとせず。  
**豫防及驅除法** 害虫の棲息せる新條の側に少量の石油を入れたる金盞の類を支持し其上方に被害樹を折曲げ之を少く震動すれば害虫は直ちに金盞の中に落ち石油に溺れて斃死するものなり。

三 ハナモグリ (第三圖)

學名 *Glycyphana pilifera*

族名 金龜子族

異名

形態

**成蟲** 體軀は長橢圓にして稍や扁平皮膚堅くして暗綠色を呈して光澤あり翅鞘には左右平等に數點の白點を均列す觸鬚の末端を成せる三節は辨狀を爲し脚は太くして丈夫なり體長六分ありて幅三分五厘あり。

經過習性

(第三圖)



經過未だ詳ならず通常種々の花類に棲息して之を蝕害すること甚し其舉動は甚だ遲鈍にして花類に止まる時は容易に手にて之を捕ふることを得べし、但し天氣快晴の時は多少活潑にして之を捕へんとする時飛去ることあり。

加害状況

薔薇、百日紅其他種々花類に集り來りて之を蝕害

すること甚し。

**豫防及驅除法** ハナムクリを檢出することあれば手にて之を捕ふるか又は

細き棒の尖に麩を附着し之に害虫を固着し捕殺するを可とす。

四 バラハムシ (第四圖)

學名 *Chaetocnema* sp.

族名 葉蟲族 金花蟲科



形態

成蟲 體は殆ど楕圓にして濃藍色を呈し光澤あり其面には細點を存す腹部の腹面は暗褐なり觸鬚及び脚は黒く後脚の大腿節は強大なり體長は一分二三厘あり、

經過習性 バラハムシの發育經過は判然せず 約九十月頃薔薇に集り其花に襲來し之を食とす此蟲に觸るるものある時は忽ち飛跳して其所在を暗ま

すものなり斯く巧みに跳行するは著く大腿節の發達せる後脚を以て爲す。

(圖 四 第)



加害狀況 バラハムシは最も薔薇の花を蝕害するものにして此害蟲を受けたる花は大ひに其形狀を損し美觀を損すること甚し。

豫防及驅除法 花に集れる害蟲は之を捕ふること甚だ難く又種々の驅蟲劑を使用する時は花を損すること多きが故に之を使用するには一層の注意を

要す尤も害蟲は跳行するの特性あるが故に加害花枝の下に少く石油を入れたる金盞を平らに支持し右の花枝を少し振り動せば害蟲は跳んで金盞に入り石油に浸され斃死するものなり。

五 バラ廣口象蟲 (第五圖)

學名 ?

族名 廣口象蟲族

異名

形態

成蟲 小形の象蟲にして灰紫色を呈す頭部は小形にして口吻は鈍頭をなす眼は黒く觸鬚は臂形に曲り九節より成り根基の一節は最も長大にして末端の二節は共に紡錘形をなす前胸は長く其前縁は幅頭部に均きも後縁に向て



次第に太し翅鞘の幅は前胸より廣く淡灰黄にして歪の灰褐斑紋を存ず脚は比較的長く大腿節は長大にして第三蹠節は二片に分れた



(圖五第) 經過習性 未だ詳ならざれども夏日多く薔薇に來集するものなり。

加害狀況 薔薇の新芽其他花、蕾等を蝕害す。

豫防及驅除法 石油を入れたる器物を被害部の下に横へ置き之に害虫を振り落して驅除すべし。

### 六 バラヲトシファミ蟲 (第六圖)

學名 *Atelabus* sp.

族名 象鼻蟲族

### 形態

成蟲 小形の象鼻蟲にして體軀は稍や長く黒色にして極めて硬し頭部は小形にして其後縁は前胸内に入込みたり口吻は稍や長くして太く其中間部より圓頭絲狀の觸鬚を出す複眼は黒く前胸は殆ど橢圓にして其前縁の幅は頭部に均きも後縁は幅稍や廣りたり頭胸兩部及び翅鞘には密に小凹點を存したり翅鞘は前胸よりは幅廣し脚は何れも同大にして其腿節は著く發達す特に大腿節は大形なるも其兩端は稍や細し體長(雌)は八厘あり。



(圖六第)

經過習性 成蟲は四月下旬より現出し薔薇の嫩葉を蝕害す次て五月頃より

一枚の嫩葉を其先きより捲き其捲きたる葉の兩端を折曲げ恰も卷物の如き巢を造る通常此卷物の中心には一卵を産入れ置く此卵は數日にして孵化し白色の幼蟲となり卷物の内部を成せる葉を食して生長し六月中卷物内にて化蛹し從て成蟲となるもの如し斯く卵を含める捲物の中ちにて幼蟲の産出



する頃には灰褐色を呈し葉柄より垂下するを常とす。  
加害状況 此害虫の発生したる時は葉は多く其形態を存するが故に飾用の薔薇類に在つては此虫害に罹らざる様に注意することを要す又被害の葉は必ず暗褐色の巻物形をなし葉柄より垂下するものなれば害虫の所在は容易に認むることを得べし。

豫防及驅除法 害虫發生の時期に於ては毎日薔薇類を檢查し害虫の之に止まるものあらば竹箸の先に少量の麴を付け之にて害虫を捕へて驅除し或は葉柄より懸垂せる巻物を蒐集して中ちに存する卵子或は幼虫を潰殺するを要す。

膜翅目

七 チユレンジ (第七圖及第八圖)

學名 *Hyloloma pagana* Parz.

族名 葉蜂族

異名 薔薇鋸蜂、バラハハチ、

形態

成虫 中形の葉蜂にして頭胸の兩部は黒藍色を呈し光澤を帯び腹部は橙黄色なり複眼は橢圓にして黒く單眼ありて鼎狀に均列す觸鬚は黄褐色にして太く三環節より成り第一及第二の二節は短小にして第三節は長大なり其面には短小なる毛を密生す胸部は橢圓にして光澤を



帯び翅は前後共に茶褐色を帯び透明なり前翅は殆ど長方形にして其前縁は黒褐色を呈し翅脈は黒し後翅は小にして其外半に少しく褐色を帯び又其

前縁には十九鈎を並列す脚は何れも黒藍色にして後脚は稍や長し雌虫は長さ三分翅の開張七分雄虫は長さ二分七八厘翅の開張六分あり。卵子は淡橙黄色にして長橢圓長さ三厘。

幼虫 老熟せる者は長さ八分體は圓筒形にして頭尾兩端に向て稍や細し頭



部は黄褐色にして其額板にはム字形の黒斑を存す胸部は淡藍線にして背面には二條の黄縦線を走らし又た各軀節には三條の黒點線を横走し黒點には短小の毛を生ず氣門の後方及下部には各々一黒點を存じ腹部の基部には楕圓腫起ありて之に八個の小黒點を存す胸脚は五節より成り其先きには一爪と膜瓣とを具ふ腹脚は第五節乃至第十一と第十三節に存じたり。

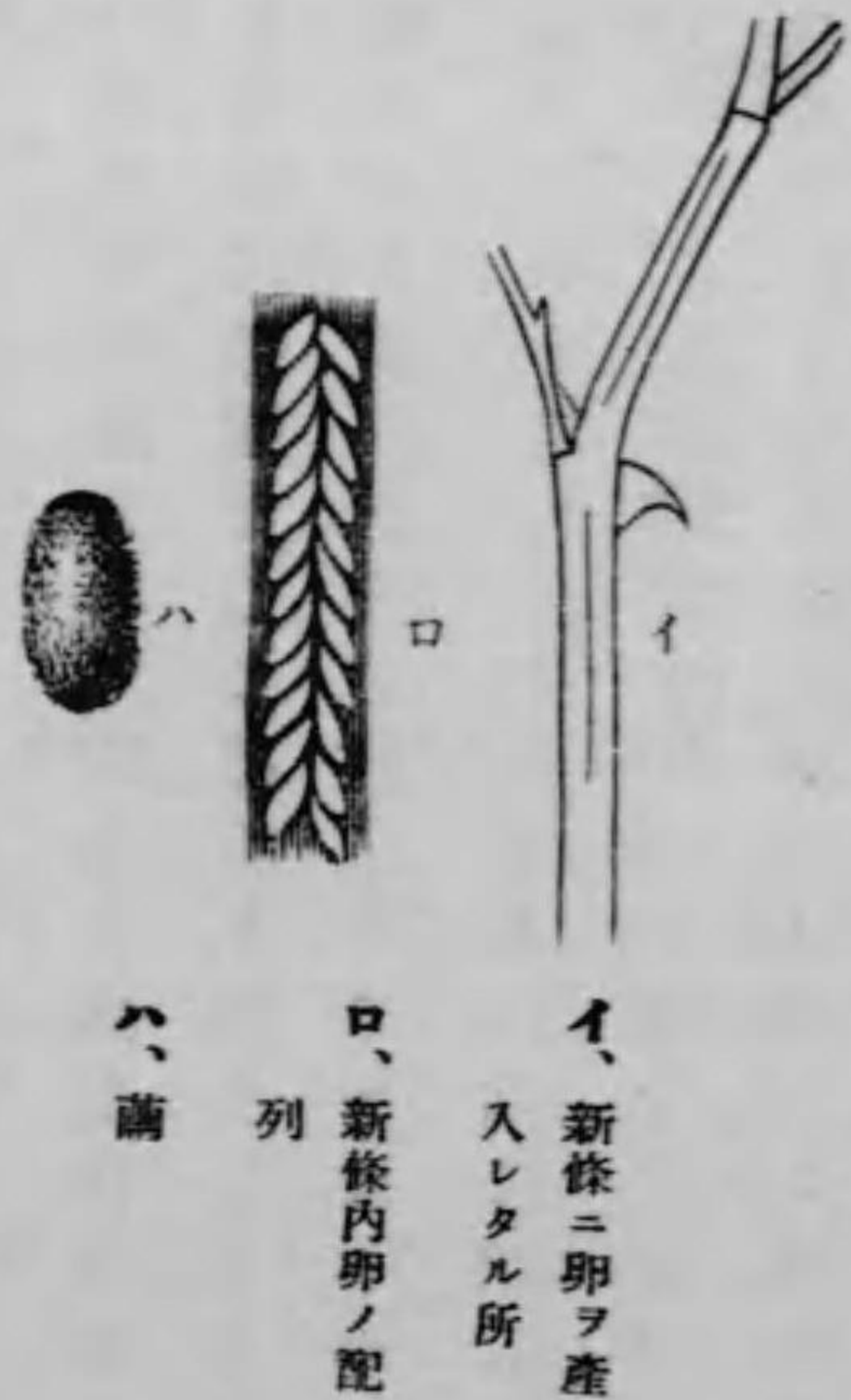
繭は長楕圓形にして土粒にて包まる長さ四分幅二分あり。

經過習性 幼蟲は五六月と九月との二回に産出し薔薇躑

躑等の葉を食とす第一回に産出した幼蟲は七月中老熟土中に入りて結繭化蛹し七月下旬

乃至八月上旬化して成蟲となり産卵す此卵は八月中旬乃至九月上旬に孵化し幼蟲となり十月上旬より土中に入り結繭之に蟄して冬日を經過し翌年四月

(圖 八 第)



月に到りて化蛹し次で成蟲となる。

雌蟲は重もに薔薇の新條に産卵す其産卵せんと欲する時は新條の側面に下卵器を刺入れ卵子を産む之を産み終らば下卵器を拔出し先きに下卵器を刺入れたる所に接して下卵器を刺入れ産卵す斯くの如く十數回も續けて卵を産入る大抵一新條に産込める卵數は三十顆内外にして且此等の卵は二列に産付けらる斯く新條に下卵器を刺入れたる痕跡は黒線の如くに見ゆ幼蟲は右黒線を蝕破りて産出し嫩葉に群りて之を蝕害するも生長するに従て次第に分散して虫害を及ぼすものなり。

**加害狀況** 新條に卵を産込まれたる時は必ず之より幼蟲は産出す其産出したる時は嫩葉上の黒線左右に開き爲めに新條の生長を妨げ開花悪くなり薔薇の美觀を損すること甚し又た幼蟲の稚若なる時は一二葉に群棲して葉の一縁より蝕ひ進み葉脈のみを餘す幼蟲の生長増長する時は分散するの特性あり。

**豫防及驅除法** 薔薇の新條を調査し之に黒縦線の存するものあらば之を切



採り卵子を潰殺すべし又た幼蟲の群棲する葉は幼蟲と共に之を摘取り害蟲を潰殺すべし又害蟲の分散したる時期に於ては幹枝を隈なく調査し害蟲を蒐集撲殺するを要す此害蟲は無毒にして嗅氣もなき故に指にて摘殺するも差支なきものなり。

半翅目

ハイバラヒケナカアフラ

學名 *Macrosiphum ibarae* Mats.

族名 蚜蟲族

異名 バラ蚜蟲

形態

有翅雌蟲 體軀は長橢圓にして淡褐を呈し中、後兩胸節は暗褐色を呈し觸鬚は體より長く前翅は長大にして縁點及び翅脈は淡黄、腹部の側面には二列づ

ゝ薄黒色の點紋を存ず排蜜管は縁褐にして其付元に近き處は擴がりて太く嚙具は淡黄にして黄色なり體長六厘餘翅の開張一分あり。

無翅雌蟲は體軀肥りて前端は少く狭まり黄褐色を呈す排蜜管は褐色其根元は太くして暗色を帶ぶ嚙具は淡黄にして其尖は頓に尖りたり體長五厘餘あり(松村氏日本蚜蟲目錄による)

經過習性 夏秋の二季に於て薔薇類の花、嫩葉等に棲息し蕃殖著し。

加害狀況 成蟲は幼蟲と共に薔薇類の花蕾嫩葉の養分を吸取し患害を加ふるものなり。

豫防及驅除法 害蟲を驅除するには除蟲菊の粉末を水に混じ之を浸したる毛筆にて被害部を拭ひ害蟲を除去するを良しとす。



九 薔薇介殼蟲 (第九圖)

學名 *Diaspis rosae*.

族名 介殼蟲族

異名 パラノカヒカラムシ

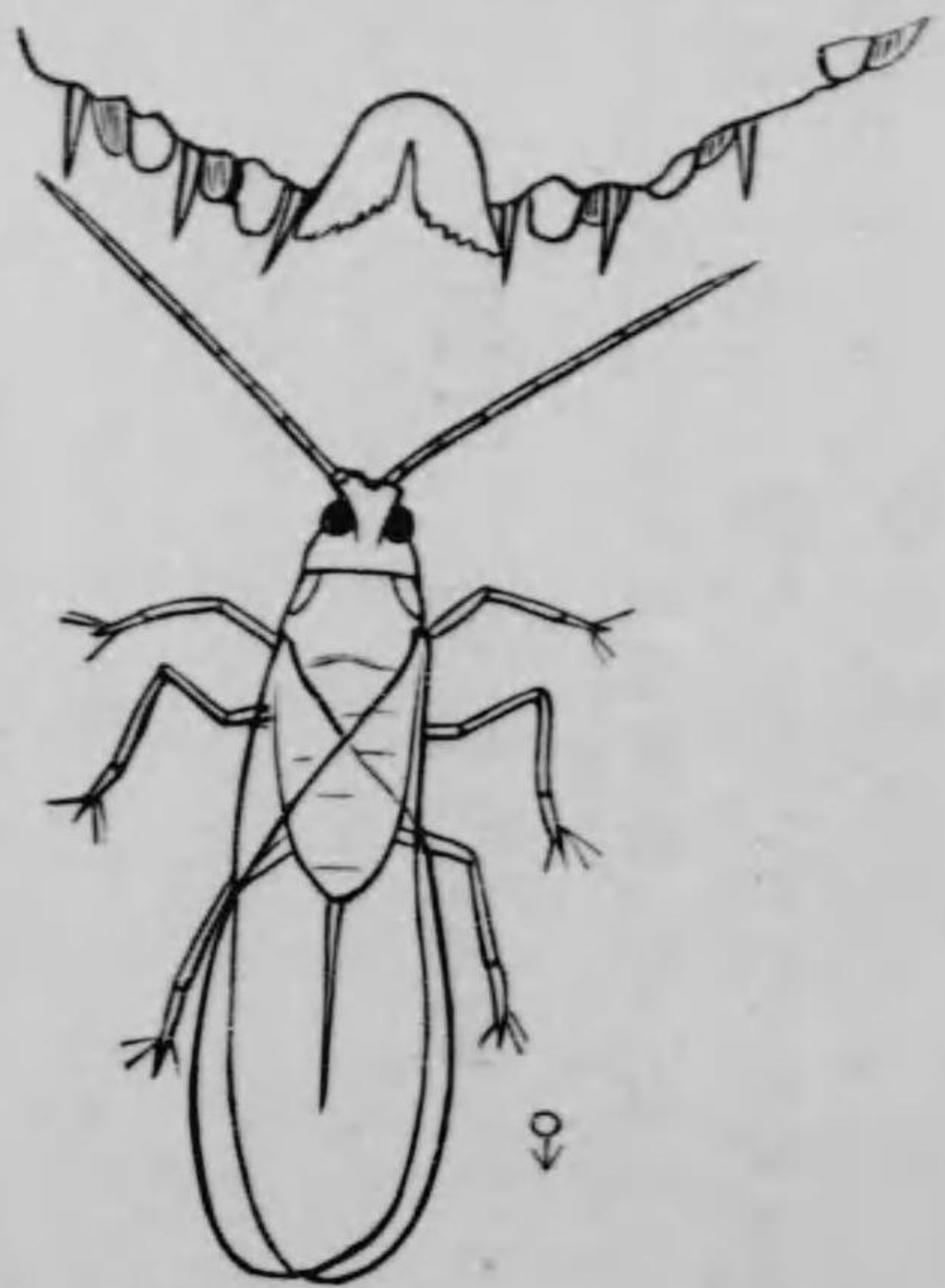
形態

雌蟲 體は楕圓にして其前半は幅廣く後半は尾端に向ひ狭まりたり其着色は淡黄なるも鬚板は橙黄色なり其腹面には五群の分泌孔を存じ左右各側に存ずる二群は相近接す又鬚板の遊離縁には四對の扁長板を存じ第一對即中央に存ずる扁長板は各々等脚三角形をなし其内縁には細かなる鋸齒を具ふ第二第三及び第四對の扁長板は何れも小形にして各對の扁長板は一個ならずして二個各々其一縁に於ひて相重なり一個の如くに見ゆるなり。介殼は殆ど同形にして大なる者は徑五厘白色にして殼嘴は濃橙黄色なり。第二脱皮も亦殆ど同色なり。

雄蟲は長さ約一厘橙黄色にして觸鬚は九節より成り眼は二對ありて暗赤褐

を呈し各脛節の末端には三本の擔球毛を生じたり。繭は扁長にして白く長さ三厘背面に三縱隆起を走らし其一端に存する蛻皮灰褐なり。

板臂 (圖九第)



卵子は長楕圓にして長さ三毛餘橙赤色なり。

經過習性 此介殼蟲は年に二回發生し、第二回に發生の雌蟲は九月十月に産卵し之より孵化し出でたら幼蟲は冬日を經過し翌年に至り成蟲となるものと雌蟲にて越冬するものとの二様あるが如

加害狀況 此害虫は主に薔薇の幹枝に寄生し之より養分を吸收す其寄生の甚き時は幹枝面には雌蟲の介殼と雄蟲の繭とにて包まれたるの觀を呈し之



を衰弱せしむること甚しく或は枯死せしむることあり。  
豫防及驅除法 幹枝を検査し介殼、繭等を檢出したる時は其部分を剛き刷毛にて摩擦し或は竹筴、小刀等にて之を搔取るを必要とす。

## 第二、躑躅の害蟲

### 一しなの毛蠹蛾 (第十圖)

學名 *Diacrisia infernalis* Butl.

族名 燈蛾族

異名 クロバネヒトリ

### 形態

成蟲 雌雄は其大きさ及び着色を異にす雌蛾は體軀肥へ複眼黒く觸鬚は淡褐

にして短橢齒を密生す前胸の後縁は丹赤色を呈す翅は前後共に灰黄なるも其内半は淡紅色を帶ぶ前翅の外半には斜めに淡灰の斜條を走せり腹部は丹赤色なるも其末端の二節は灰黄を呈し各腹節の背線は灰褐を呈す體長三分八九厘翅の開張一寸二分許。

雄蛾は雌蛾よりは小形にして腹端は尖りたり頭胸の兩部は黒褐なるも頭部の後端と前胸の背板は丹赤色を呈す腹眼黒く觸鬚は黒褐にして之に生ずる齒櫛は雌蛾より一層長し翅は前後共に黒褐にして別に斑紋を存することなく腹部は丹紅色にして毎腹節の背線には黒褐縦線を走らす體長三分八九厘翅の開張一寸二分あり。

幼蟲の老熟せる者は長さ八分前後あり頭部は赤褐にして胸部は黒く其側面には灰色の波線を走らし氣門線に沿ふては黄色波線を走らせり各軀節の亞背線には二對氣門線氣門上下の兩線及び腹脚の付元には各々一個の藍色腫起を存じ之に黒白の毛を生ず但し此毛には著しく長きものあり胸脚は暗灰脚は灰褐なるも其付元は灰色なり。



褐腹蛹は圓筒形にして長さ五分赤褐なるも體の前半は灰黒にして軀面には赤褐の斑紋を散在す尾端に一刺を具ふ。

卵子は圓く淡黄綠色なり、之を食樹の葉裏若くは幹枝に一層に群付し灰黄の軀毛にて被へるが故に卵塊は灰黄の斑紋の如く見ゆ。

經過習性 幼蟲は四五月より産出し檜

櫟、七葉樹、ウツキ、ハシバミ、ツクハネ、ツツ

ジ、柿、桑、クツハミ、タラ、ジナシ、カシハ、ドロ

ヌリカヘデ、落葉、松等の葉を食するを常

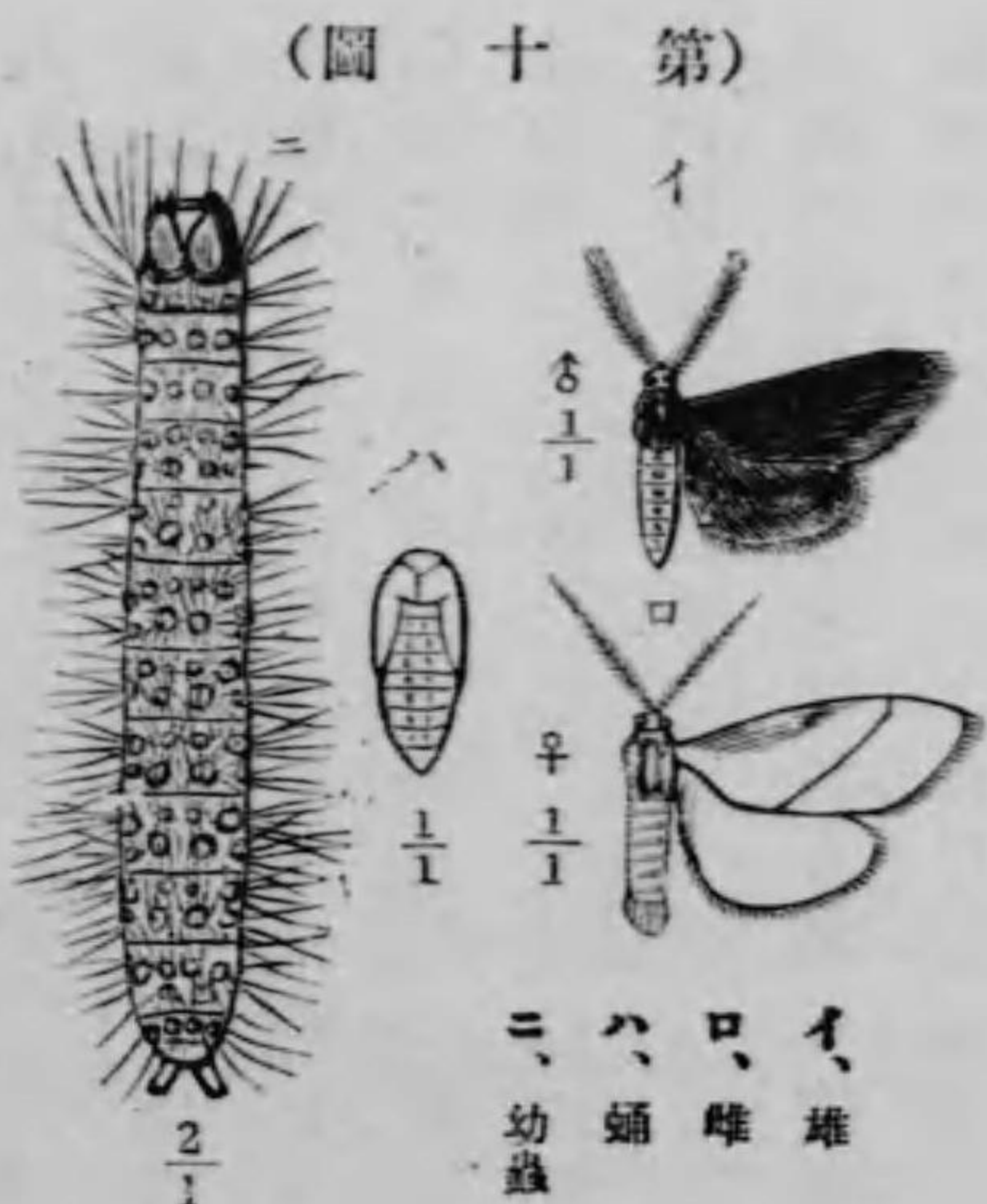
とすれども尙ほ牛蒡、豌豆、葱等をも食す

ると云ふ、六月上旬乃至中旬に老熟し土

中に入りて蛹となり同月下旬乃至七月上旬化して成蟲となり食樹の幹枝に

數百粒の卵子を群付す、此卵は八九月に孵化し幼蟲となり再び前記の植物を

食害し冬期に近づかば幹枝を傳ひ降りて根際の落葉の下或は土中に潜伏し



冬日を経過し翌年の四五月右潜伏所を辭し出で再び幹枝に上りて新芽、嫩葉等を食するものなり。

加害狀況 幼蟲は常に葉體のみを食して葉脈を避けて食することなし若し

此害虫發生地の側に畑地の存することあれば前記の畑作物をも食して厭ふ

ことなし、幼蟲は舉動頗る活潑にして這行速かなるものなり若し被害樹を振

動して害虫を落さば忽ち體軀を捲曲して動くことなく假死の狀をなす、又害

蟲の舉動の活潑なるは日中温度の高き時にして日中なりと雖ども温度の低

下せる時或は夜間は甚だ不活潑にして蝕害も亦從つて甚しからず、此害虫は

明治三十二年四月長野縣下に夥く發生し虫害酷しきことありたり。

豫防及驅除法 第一、害虫の發生したる時は人夫を使役し害虫を捕殺する

こと肝要なり。

第二、幼蟲は一局部の樹木の葉を蝕盡さば幹枝を降り他に移り行くものな

れば其通路に溝を堀穿ち之に害虫の陥入するを待ち一時に之を潰殺すべし

又太き竹を二ツ割にし其凸面を地に接して凹面を上方に向け同面にコール



タールに種油を混じたるものを塗抹し置かば害虫の竹を越へ渡らんとする者は皆右のコールターに膠着して斃死するものなり、

第三 産卵の時期に於て被害の幹枝を調査し卵塊を取集めて潰殺すべし。

第四 冬日幼虫の潜伏所を搜索し之を捕殺すること肝要なり。

ニトラフ毛蟲蛾 (第十一圖及第十二圖)

學名 *Artaxa intensa* But.

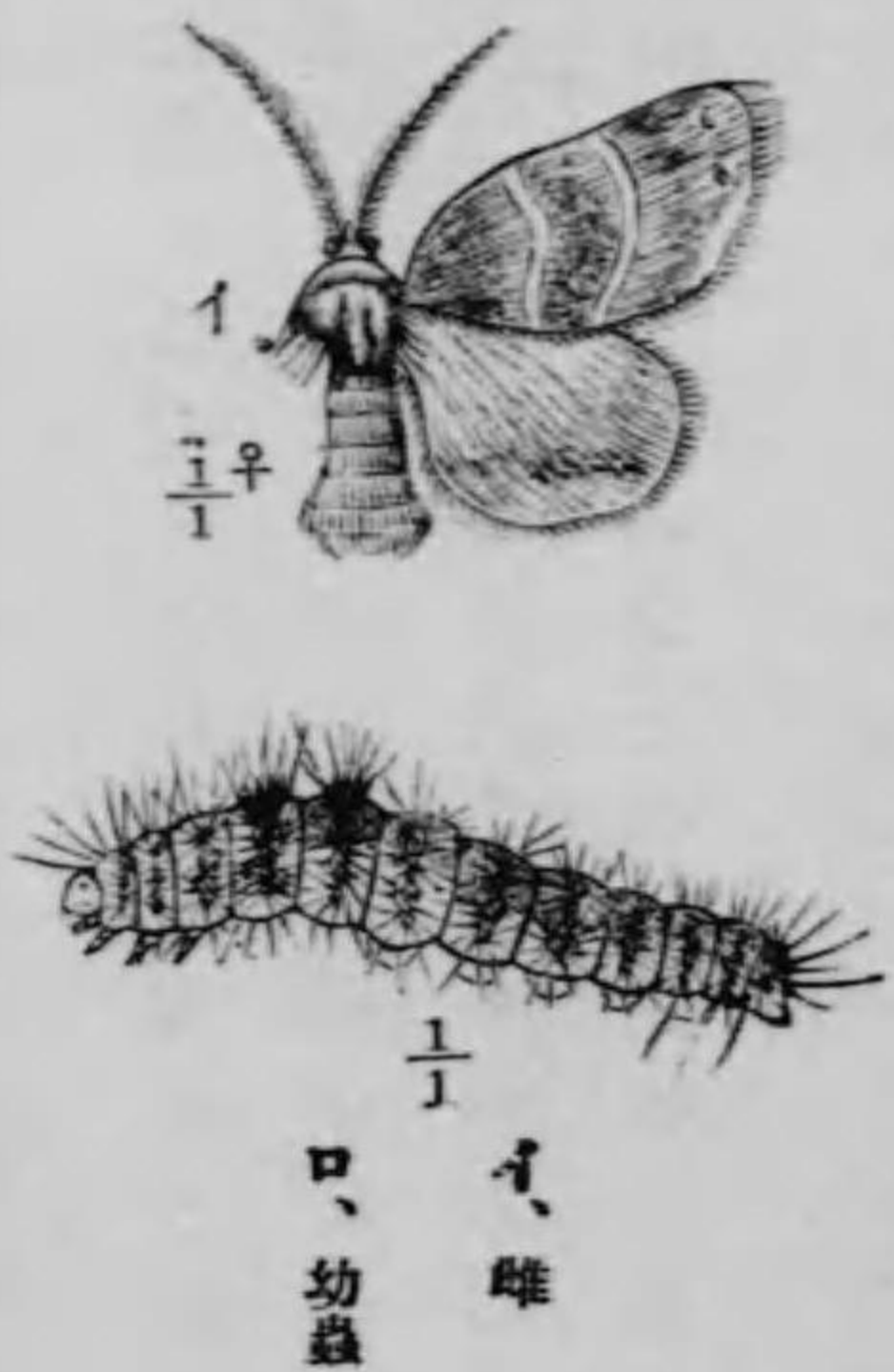
族名 ぶらんこけむし蛾族

異名 ドク蛾(松村)

形態

成蟲 稍や小形の蛾にして雌雄は着色斑紋等略ぼ同一にして只其大きを異にするのみ體軀は黄色にして頭胸兩部の着色は稍や濃厚なり複眼は黒く下唇

(圖一十第)



鬚は少しく頭部の前面に伸出し觸鬚に櫛齒を具ふ前後の兩翅は共に黄色にして其外縁には黄色縁毛を生ず前翅の着色は後翅よりも濃厚にして其中央には前縁より後縁に向ひ黄褐曲帯の走れるものありて其帯紋の兩側は淡黄を呈し外縁と前縁との接する處には二個の黒點を存するも後翅には之を存することなし雌蛾は體長五分翅の開張一寸一分餘雄蛾は體長四分翅の開張九分餘又雄蛾の觸鬚の櫛齒は雌蛾より長し。

幼虫の老熟せる者は長さ一寸一分頭部は黒く體背は茶黒なるも前部の數節は赤褐を帯び腹面は灰赤褐なり亞背線及び氣門上下の兩線には黒、白、褐等の長毛を簇出す。

繭は橢圓灰色にして蛹は濃褐なり。

經過習性 幼虫トラフケムシは四月下旬より産出しツツジ、モミジ、キイチゴ



ナハシロイチゴ、葎樹、梨樹、李、栗等の葉を蝕害す六月下旬乃至七月に老熟し土際に下り灰色楕圓の繭を營み蛹となり七月下旬乃至八月上旬化して蛾となる。

(第十二圖)



加害狀況 幼蟲は前記植物の葉を蝕害すること多し。

豫防及驅除法 幼蟲産出の時

期に於ては時々被害樹を見廻り之を蒐集して撲殺するを可とす尤も幼蟲を蒐集するには竹片の長さ鑷子を拵へ之にて摘採するを便利なりとす此鑷子(第十二圖)は薄くて長く削りたる二本の竹片を取り其幅廣き端と端との間に長さ木片を挟み之と共に是等の廣き端を糸にて括り製したるものなり。

### 三 ツツジカレバ蛾 (第十三圖)

學名 *Farias roseifera*

族名 夜盜蟲蛾族

異名 ベニモンアヲリンガ

#### 形態

成蟲 雌雄兩蛾共に小形なるも稍や肥へ大さ着色畧ぼ相均しく頭胸の兩部は淡綠色にして腹部は淡茶色なり前翅は淡綠色にして其中央には前縁に接して大圓形の紅色紋あり又た外縁に沿ふては薄黒の短縦線を並列し外縁には赤褐色の縁毛を具ふ後翅は腹部と同様に淡茶色にして灰色の縁毛を具ふ體長六分翅の開張一寸六分餘あり。

幼蟲の老熟せる者は長さ四分前後ありて頭部は黒色第一乃至第三軀節は淡橙色なるも第四以下の軀節は淡黄なり背線は赤褐なるも其左右の兩縁は白色なり亞背線は暗橙赤色にして幅廣く各節の亞背線には二對づゝ白色の毛瘤ありて之に毛を生ず氣門上線は白色にして波形をなし氣門下線には白色



波線を走らし各節の同線には一個の白色瘤を存ず氣門は黒く其後側には同く白色の毛瘤あり。

(圖三十第)



イ、成蟲  
 ロ、幼蟲  
 ハ、枯葉間ノ幼蟲  
 ニ、繭

繭は長橢圓にして暗褐色を呈し其長さは約三分あり。

經過習性

幼蟲は六月及び九月上旬頃に現出

しツツジ類に棲息し其葉を蝕して生成し同月下旬より漸々老熟し葉間に繭を營み蛹となり冬日を經過し翌年五月初旬に化して成蟲となりツツジの嫩葉に産卵するものゝ如し。

**加害狀況** 幼蟲は重もに新條の頂部に棲息し之を食するも主脈は之を餘まして食することなし此蝕餘されたる主脈は常に枯色を呈す斯く枯色を呈したる主脈に連なる葉柄の間に幼蟲は棲息す此等主脈、葉柄、幼蟲等の着色は酷似するが故に幼蟲を檢出すること容易ならずされど主脈及葉柄の枯色を呈したるものは大抵幼蟲の寄生を受けたること多きが故に此葉柄の間を査檢する時は大抵幼蟲を檢出することを得べし繭も亦枯色を呈したる葉柄間に營み此狀恰も枯葉の如く見ゆるものなれば之を檢出すること難し但し右等の如き枯葉を調査すれば繭を蒐集すること難からず。

**豫防及驅除法** 幼蟲を驅除するにはツツジの枝の枯葉に就きて之を蒐集するを良しとす、成蟲發生の際は多くツツジの枝上に止まるものなれば之を搦蟲網にて捕殺するも可なり。



一 躑躅葉蜂 (第十四圖)

學名 *Dolerus* sp.?

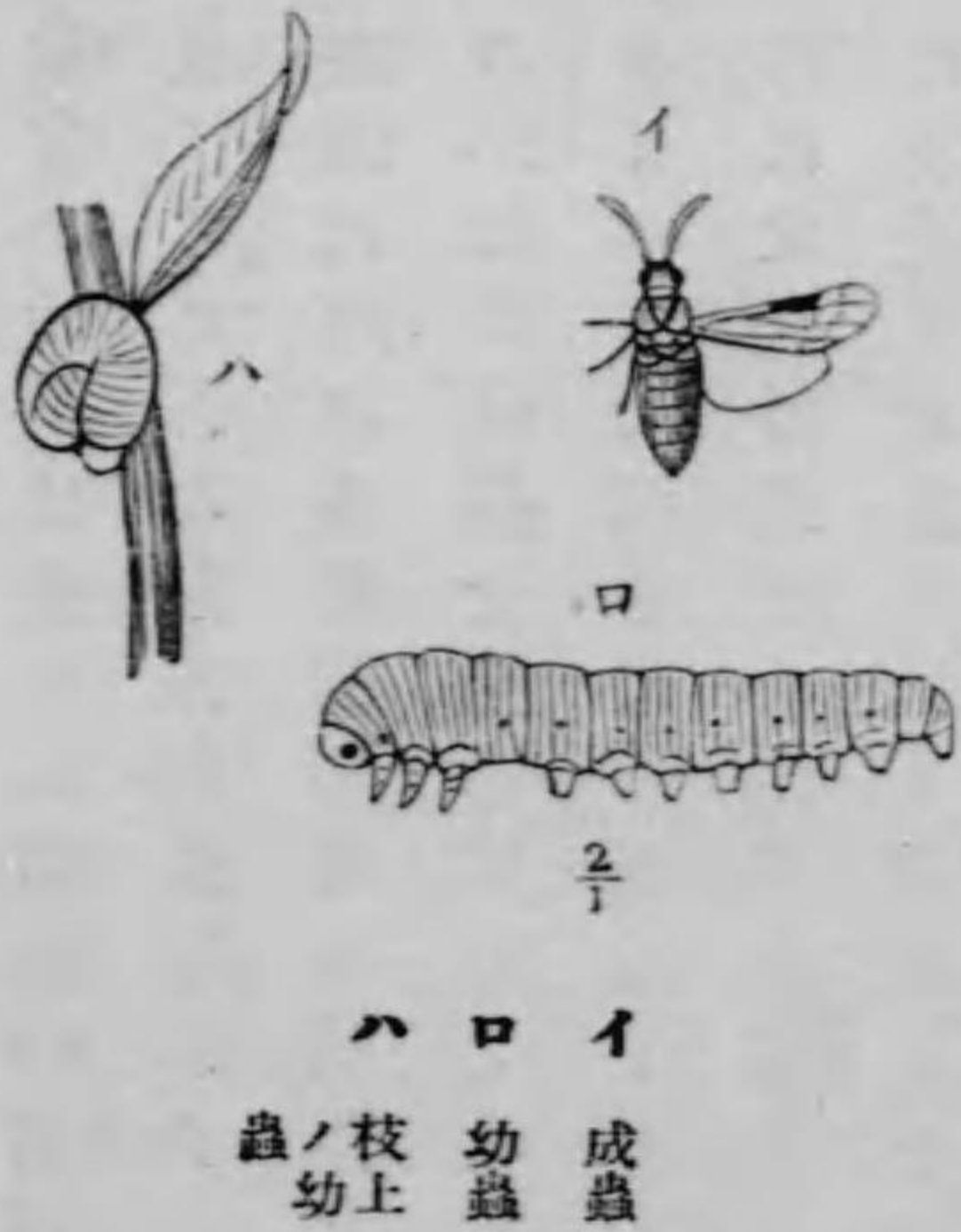
族名 葉蜂族

異名 ツツジミドリハバチ

形態

成蟲

(圖 四十 第)



雌雄兩蟲共に黒色にして橙黄色の斑紋を具ふ、複眼及び單眼は黒く觸鬚は九節より成る、胸部は殆ど長方形にして前胸は橙黄後翅には二個の黄紋あり、四翅は淡灰褐にして透明なるも翅脈は黒し脚は何れも黒色なるも大腿脛蹠の三節には橙色紋あり、腹部の幅は胸部に均し、雌蟲は長け二分五六厘、翅の開張五分餘あり、幼蟲の老熟せる者は長さ五

六分あり、體軀は圓筒形、頭部は淡橙黄にして二黒眼を具ふ、胸部は淡灰緑にして各軀節には數條の横皺あり。

**經過習性** 成蟲は五月下旬乃至六月上旬産出し躑躅に産卵す、此卵より孵化し出でたる幼蟲は右の葉を食して生長し七月上旬乃至中旬老熟し土中に入り結繭化蛹し八九月に成蟲となり再び産卵す、此卵より孵化し出でたる幼蟲は十月乃至十一月に老熟し土際に降り少しく土中に入り結繭し之に蟄して冬月を經過し翌年四五月頃化蛹し次で成蟲となるものなり。

**加害狀況** 幼蟲は主に躑躅の葉を蝕害するものにして特に新條の嫩葉を蝕害するものなり。

**豫防及驅除法** 幼蟲は淡灰綠色を帯ぶるが爲め躑躅の新條嫩葉に止まる時は認め難きが故に丁寧之を搜索捕殺すること肝要なり。



ニチユウレンジ (第十五圖)

學名 *Hylotoma similis* Volen.

族名 葉蜂族

異名 ルリコバチ又ルリチユウレンジバチ

形態



(圖五十第)

葉縁ニ卵ヲ産入レタル處

經過習性 成蟲は一年に二回産出し躑躅の葉縁に沿ひ卵を産入るものなり。  
加害狀況 幼蟲は常に多く産出し躑躅の葉を蝕害すること甚し。  
豫防及驅除法 葉縁に産入れたる卵を潰殺し或は幼蟲を蒐集撲殺するを良

しとす。

半翅目

一ツツチ軍配蟲 (第十六圖)

學名 *Stenophantia rhododentri* How.

族名 軍配蟲族

異名

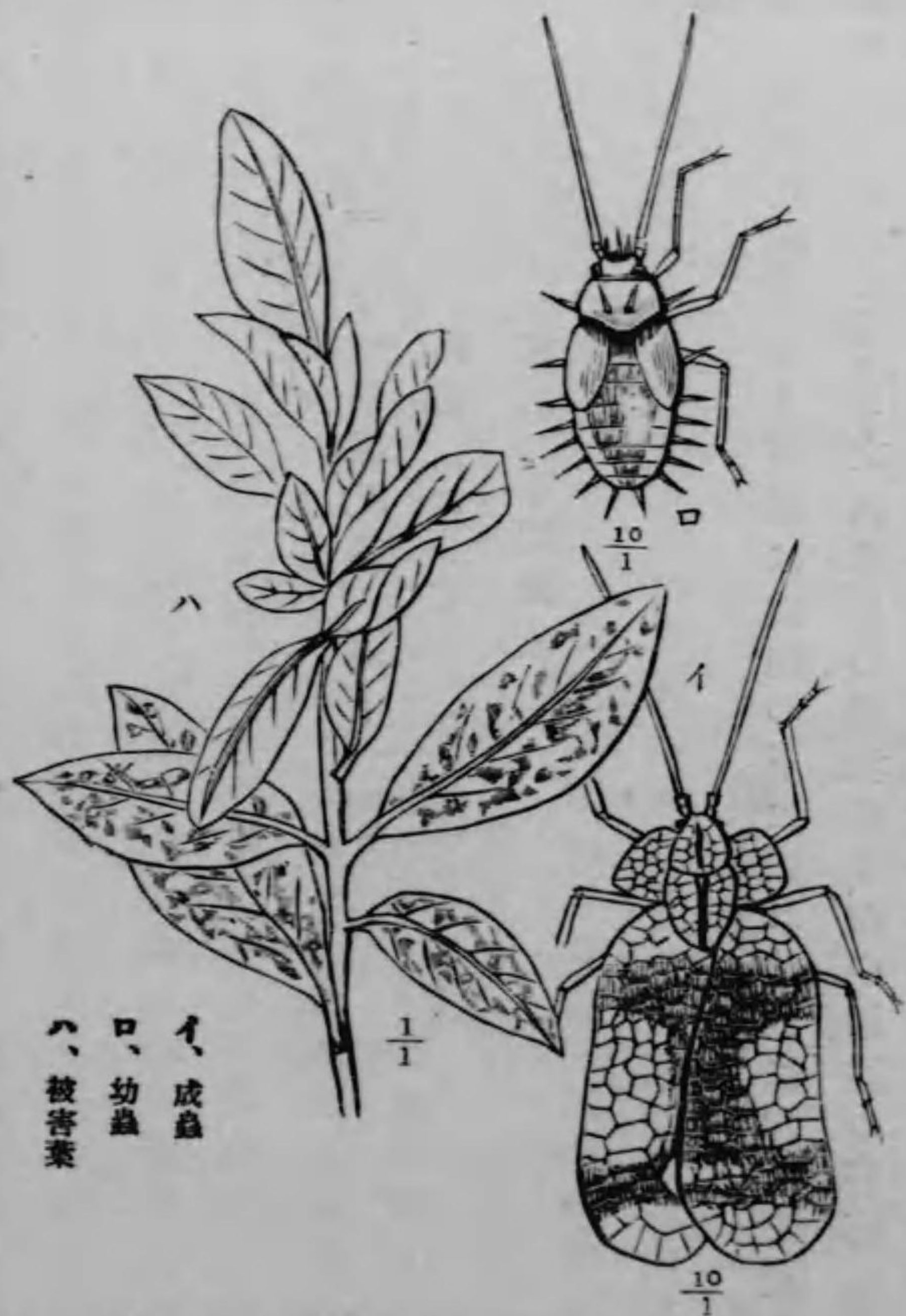
形態

成蟲 雄蟲は體軀黒く頭部は前胸の下に匿れ前胸は背面膨脹し其兩側は薄く擴がりて薄片をなし之に網形の模様あり前中兩胸の脊筋は高まりて黒く前翅は透明にして同じく網形の模様を存じ毎翅の内外に褐色の斑紋ありて之等の斑紋は同翅の後縁に存ずる褐色斑に連なりたり脚に淡黄、蹠節は二片



より成り脚端には二爪を具ふ體長九厘あり。  
幼蟲 老熟せる者は長さ三四厘あり體軀は紡錘形をなし稍や扁平にして淡

(圖 六 十 第)



頭部には五對の暗褐色の刺を存じ前胸には二對中胸には一對翅鞘には亦一

黄綠色を呈し頭部の前後には暗褐色の斑紋を存じ前胸の後縁翅鞘の基部中、後の兩胸節及び腹部の背面は暗褐色を呈したり又た

對の刺を生ず、腹部は六節より成り各腹節の各側に一刺を生じ第一、第三及び第五腹節には各一本の背刺を生ず。

經過習性 幼蟲は七八月頃より出でツツジの葉より養分を攝取して生長し八月下旬頃より漸々化して成蟲となる、成蟲は舉動不活潑にして之に觸るも容易に飛び去ることなく幼蟲の間に止まるものなり。

加害狀況 幼蟲及び成蟲は共にツツジの葉裏に棲息するものにして葉面には敢へて止まることなし故に葉面よりは害蟲を認め難し左れども蟲害に罹りたる葉面を見る時は何となく光澤を失ひ且つ灰白色の斑點の散在するものあり、是れ害蟲は葉裏にて養分を攝取するものなれば之を攝取せられたる個所は葉縁を失ふ、斯く葉縁を失ひたる所は灰白色の斑點となりて葉面に現はるものなり、又たツツジ株が著しく蟲害に罹りたる時は其全面は何となく光澤を缺けるが故に遙かに之を覗ふも容易に蟲害に罹りたるや否やを認定することを得るなり。

豫防及驅除法 躑躅に害蟲の蕃殖せる特徴を検出することあらば尙ほ念の



爲め其葉裏を見るべし、害蟲の蕃殖せる時は葉裏に夥多の小黑斑點の存するものあり、之等は皆幼蟲若しくは成蟲なり之等を驅除するには成るべく葉裏に相當の驅蟲劑を噴霧器にて撒布するを良しとす。

### ニヒメワタカヒカラムシモドキ (第十七圖)

學名 *Phenacoccus azalae* Kuwana

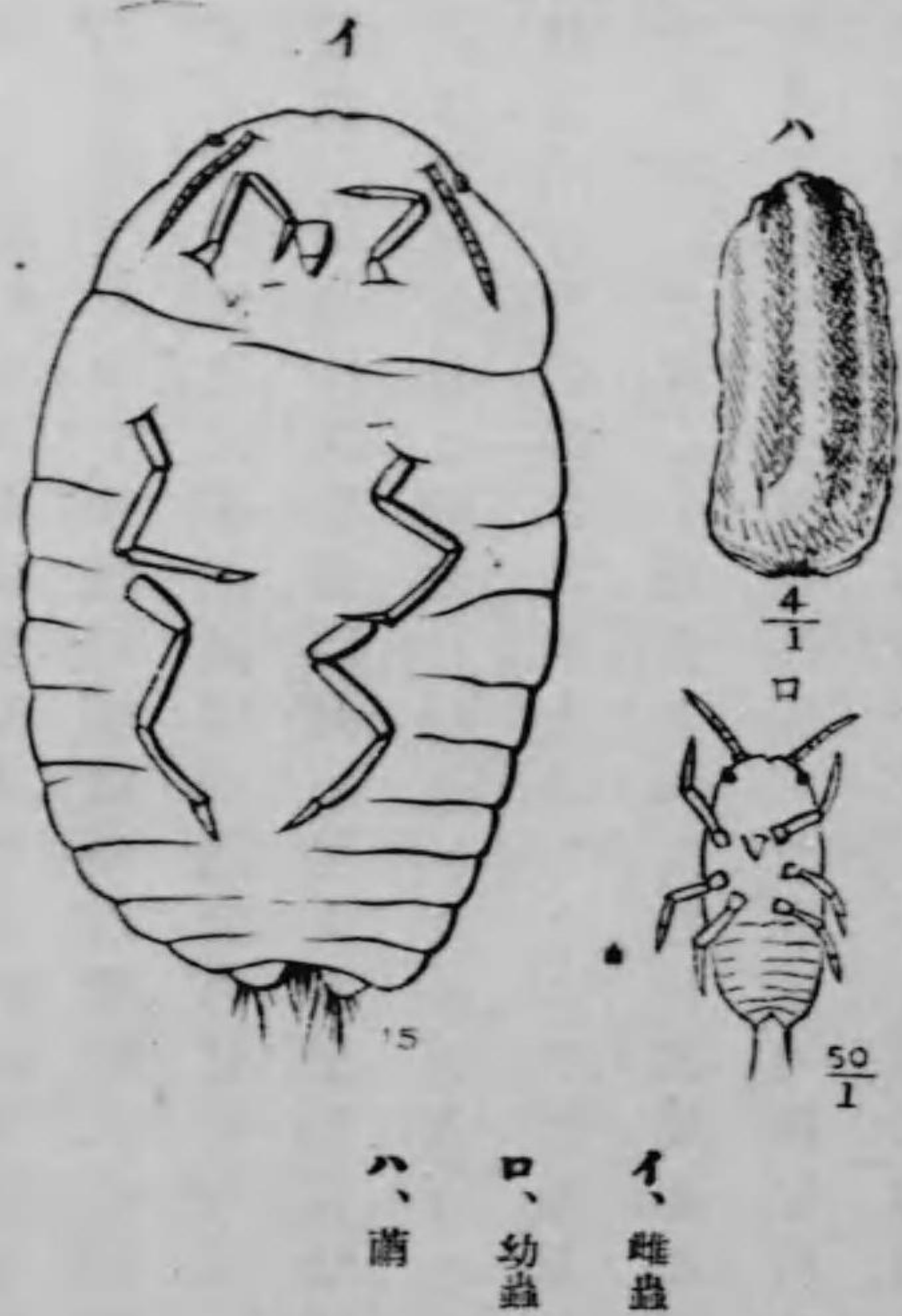
族名 介殼蟲族

異名 ツツジカイガラムシ

#### 形態

成蟲 雌蟲は體軀長橢圓形にして灰紫色を呈し蠟質の白粉にて被はる、眼は圓小にして黒く觸鬚は九節より成る、第一と第二の節は短大にして第九節は他節より一層長くして其末端は頓に尖りたり、尾端の一節は二辨に分たれ各

(圖七十第)



辨には一本の長毛と數個の短毛とを生ず、肛門輪には六對の粗毛を生じ内四對は長く二對は短し、右六對の粗毛は互に密接して一本の棘毛の如くなりて

白粉にて被はる脚端には

二本の擔球毛を生ず。

雌蟲の體背はマバラに白

色粉狀の分泌物にて被は

るも産卵期に近づく時

は只頭部を除き體の全部

は全く白粉にて被はる

のみならず白色分泌物は

絲縷の狀をなし體外に延

長して扁長純白の卵囊となり中に夥多の卵子を藏す、卵囊の背面の中央には縦隴の走れるものあり。

卵子は長橢圓にして淡黄緑を呈し長け〇、二六三、メ、幅〇、一四三、メ、あり。



幼蟲は長橢圓扁平にて淡黄緑を呈し體の前端の周縁には夥多の線紋を並列し各軀節の側部には一本づゝ短刺を出す、眼は深紅色、觸鬚は太くして長く五節より成り第五節は最も長くして殘餘四節を合せたる長けに均し、口吻は圓錐形にして絲狀の口具は表皮下に横はる、脚は強大にして脚端には爪と長短二對の擔球毛を生ず、最後の軀節の遊離縁には四陷ありて此處に一束の粗毛を生ず、是等の粗毛は殆ど圓錐形凸起の狀をなす。

**經過習性** 幼蟲は越冬し四月中旬より化して雌蟲となり産卵して卵囊を成す、卵子は數日にして孵化し幼蟲となり越冬するものなり。

**加害狀況** 此介殼蟲は幼蟲と共にツツジに棲息し其葉を初めとし幹枝より養分を吸収して甚しく蟲害を加ふ、特に躑躅園などにて此害蟲發生すれば躑躅の勢力著しく衰へ開花甚しく減少し美觀を損するものなり。

**豫防及驅除法** 雌蟲が卵囊を生じたる際は卵囊は大きくして純白なるが故に之を認むること容易なり、故に卵囊は嚴く蒐集して卵子を潰殺すれば害蟲の發生を豫防するに極めて有効なるものなり、又幼蟲の越冬する者は冬期に

於て鯨油、魚油乳劑類又は赤油に除蟲菊粉を混じ之に相當の水を加へ掻混ぜ噴霧器にて被害株に振掛け驅除すべし。

### 第三、柘榴害蟲

#### 一 柘榴囊蟲蛾 (第十八圖及第十九圖)

學名 *Clania minuscula* Butl.

族名 囊蟲蛾族

異名

**成蟲** 雌雄は全く其形態を異にするものにして雌蛾は體軀圓筒形にして淡黄色を呈し、翅脚共に之を缺く頭部は小形にして黄褐を呈し第一乃至第三胸節は其背面に暗褐のキチーン板を存ず、第一乃至第二の腹節(第四及第五軀節)

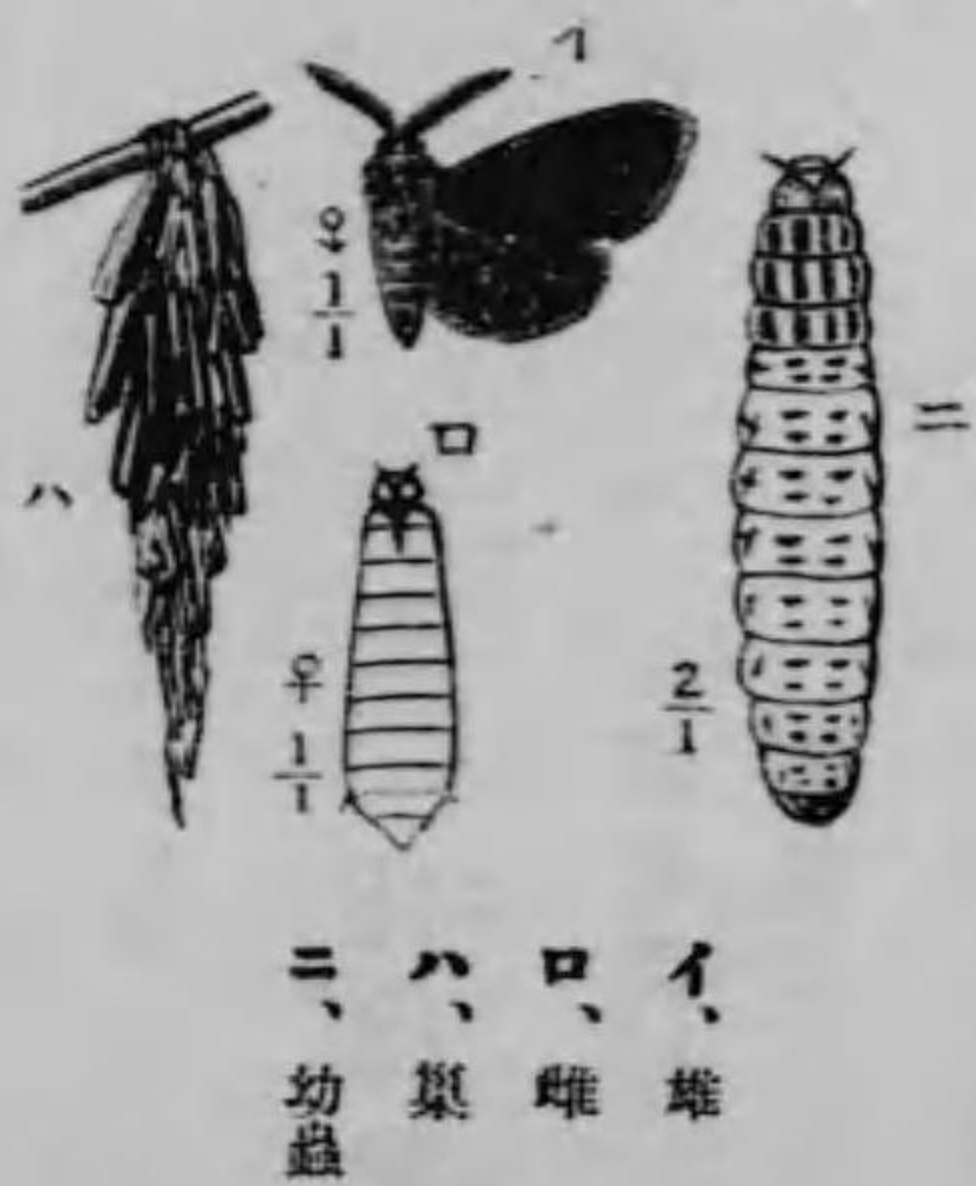


の背面には楕圓の暗褐キチン板を具ふ、第六腹節には灰黄色の毛を生ずるのみで其他の軀節には殆ど毛を生ずることなし。

雄蛾は普通の蛾の如く四翅を具ふ、體軀は黒褐にして觸鬚は櫛齒を具へ胸部は幅廣く頑丈にして厚く長毛を生ず、腹部は長くして其末端に向つて次第に細くなる、前後の兩翅は共に黒く前翅の外半の孔と中央には一個の朦朧としたる紡錘形の白斑を存じたり、體長四分二三厘、翅の開張九分あり。

幼蟲 俗に養蠶と云ふ其老熟せる者は體長五六分あり、頭部は地色淡黄にして黒色の歪條紋あり、胴部亦地色淡黄なるも第一乃至第三の胸節には黒褐色の太き縦紋あり亦尾端の一節は黒色なり、各亞背線には二個づゝ灰褐圓板ありて之に短毛を生ず、氣門上線には一個の灰褐橢圓形、氣門下線には二個基礎線には三個の同色板ありて各々一二本の毛を生ぜり。

(圖 八 十 第)



經過習性 成蟲は五月下旬乃至六月上中旬に産出す、雄蟲は能く飛翔するも雌蟲は巢内に在りて産卵するものなり、其交尾の状態は他の昆蟲類とは全く異なるものにして雌蛾は常に巢中に在りて敢て巢を辭し出づることなきが故に雄蛾は雌蛾の巢に飛び來りて其上部の開口より雄蛾の腹部を差入れて次で其腹端より陰具を出だして交尾するなり、雌蛾は常に數百顆の卵子を巢底に産落す卵子を産出するに従ひ雌蛾の體は次第に短縮し遂に斃るるなり。

卵子は一二週日にして孵化し幼蟲出づれば何れも食樹の樹皮を小さく咬取り絲縷にて之を綴り小形角形の巢を營み巢内に全軀を入れ其頭部と胸部とを巢外に出して幹枝面を這ひ歩き或は止まりて樹皮嫩芽嫩葉を食して生長す、幼蟲は柘榴を初めとしてボケ、桃、梅、柿等をも蝕害するものなり、落葉後に至らば幼蟲の小さなる巢は幹枝に多く固着せるを見るべし、第十九圖幼蟲は只だ幹枝に固着

(圖 九 十 第)



第三、柘榴害虫



したる儘食を絶ち冬日を經過し翌春新芽萌出期とならば再び巢より體の前部を挺出し新芽嫩條を食し生長す、五月中旬頃より老熟化蛹し後成蟲となり前陳の如く産卵するものなり。

**加害狀況** 幼蟲(養蟲)の多く發生したる時は其新芽、蕾、其他新條の皮を蝕害すること甚し、故に開花すること少く又新條は大いに衰弱し或は枯死することなしとせず。

**豫防及驅除法** 養蟲を驅除するには被害の幹枝を落葉後に於て搜索し蒐集するを良しとす、此期間には幹枝に養蟲の巢の垂下せるものを容易に認め得るが爲めなり、又五六月には巢は大形となるが故に之を認め易き道理なるも此期に於て幹枝共に葉を架するが故に此巢を蒐集するは冬日の如く容易ならず、巢の尖端より蛹殻の半ば出でたる者は雄蛾の産出したる證據なり、又蛹殻の出でざるものは蛹の未だ雄蛾に化せざるものと雌蛾の蟠居せる巢なれば何れも嚴く取集めて潰殺すべし、若し巢を切り開き之に存する者は雌蛾なる時は巢の底部に多數の卵子の積重するを見るべし。

二 柘榴小蛾 (第二十圖)

學名 ?

族名 殼蛾族

異名

形態

**成蟲** 小蛾にして雌蛾は頭部淡黄色にして觸鬚は前面に伸出し複眼は黒し、胸部は灰色にして前胸節の側面には一個宛黒點を存じ腹部は灰褐色なり、前翅は白色にして其中央には内縁より外縁に向ひ一本の黒褐線の縦走するものありて此線の處々に黒色の節あり、外縁に於ける縁毛は白色なり、後翅は暗灰褐にして其後外の兩縁には長さ灰色の縁毛を生ず。

幼蟲の老熟せる者は長け四分計あり頭部は暗赤褐にして第一軀節は淡褐にして其背面には一對の濃褐板あり第二以下の軀節は淡灰黄にして僅少の毛を生ず。

蛹は二分二三厘あり、圓筒形にして細長く暗赤褐色を呈す。



**経過習性** 幼蟲は六七月より出で柘榴の幹枝の樹皮下に棲息し其形成層を蝕害し、七八月中に化蛹し次で成蟲となり産卵す、此卵は後孵化して幼蟲を産す、此者は冬日を経過し翌春に至らば再び食樹に蝕害を加へ七八月中化蛹するものゝ如し。

(圖十二第)



**加害状況** 幼蟲は常に樹皮下に棲息し形成層を食とす、斯く蝕害に罹りたる幹枝に在りては其樹皮は粗糙となり歪に裂け破れ其處より小粒の如き蟲糞を漏出し積重せるを見るべし、害蟲は幹枝に發生したる時は其發生の多寡に依り幹枝は衰弱に止まるものあり或は枯死することなしとせず。

**豫防及驅除法** 柘樹の幹枝面に蟲糞の漏出せるものある時は其蟲糞を小刀の尖きにて掻取れば蟲孔の穿たれたるものを見るべし、此蟲孔の止まる處まで小刀にて穿つ時は大抵幼蟲を檢出すべし此幼蟲は嚴く取出して潰殺するを良しとす。

### 第四、李害虫

一 うすばつばめ (第二十一圖)

學名 *Eleyisma Westwoodi* Vollenh.

族名 ホタル蛾族

異名

#### 形態

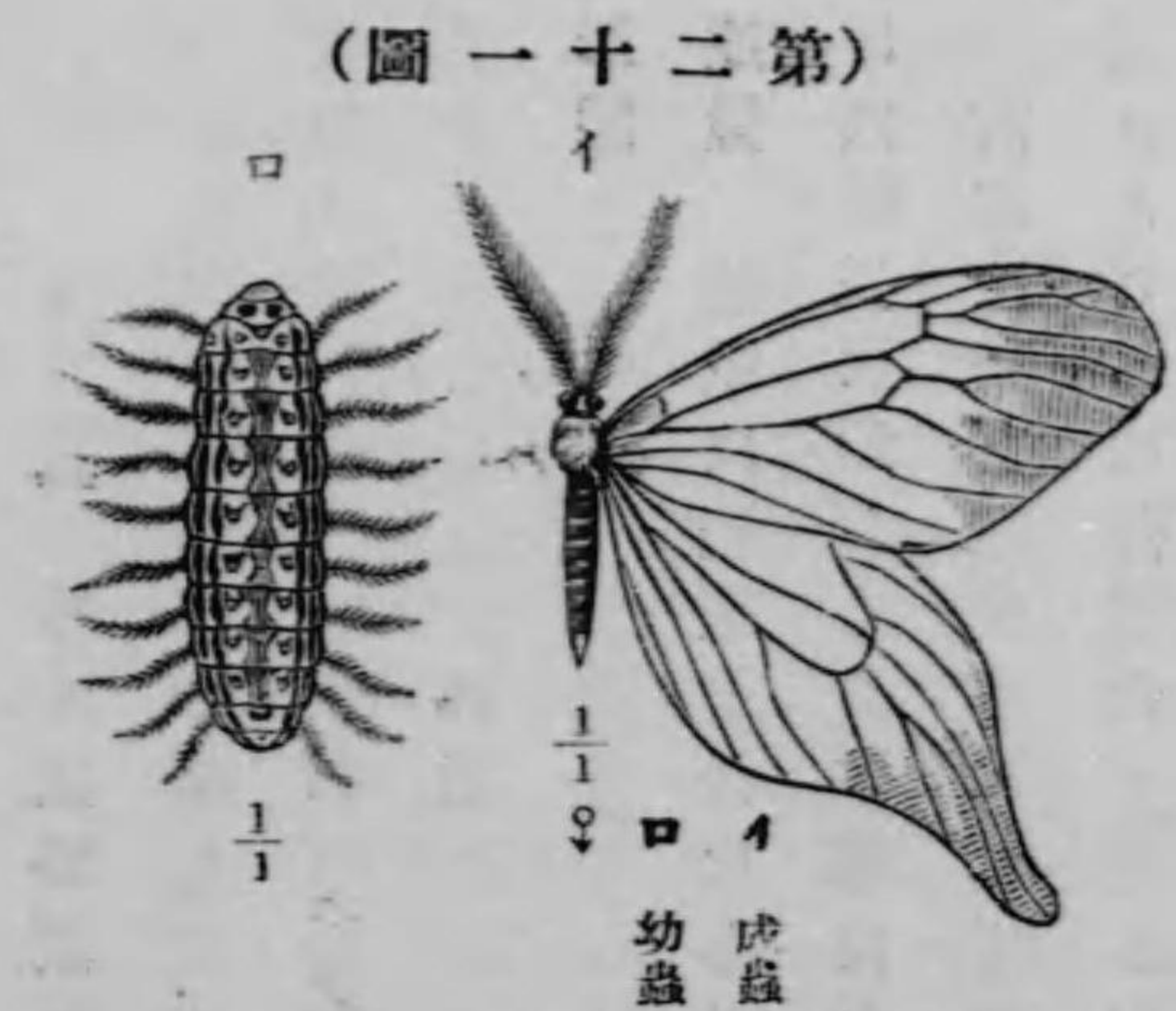
**成蟲** 雄蛾は體軀細長にして灰黄色を呈し複眼は黒く觸鬚は黒色にして長けは體長に均しく長き櫛齒を具ふ、前翅の兩翅は始ど透明にして翅脈は判然す前翅は殆ど三角形にして其内縁には小半球形の黄斑を存じ外半の外縁に近きところは薄墨色を呈したり、後翅は殆ど紡錘形にして鳳蝶に於けるが如き燕尾あり此燕尾のみ薄墨を呈す、體長五分翅の開張二寸一分あり。

**幼蟲** 體軀は稍や扁平にして幅廣く頭尾兩端は鈍頭をなす頭部及び胸部は共に黄金色にして第一軀節(第一胸節)には一對の黒點を存じ胸部の背線には



太き紅色の縦線を走らし亞背線及び氣門上線は同じく紅色を呈し氣門は黒く又背線と亞背線との間には二本の短き粗毛を生じ亞背線と氣門上線との間には一短粗毛を生じ氣門下線には一本の長き毛を生じ之に細き黒毛を密

生す、胸脚及腹脚は共に黄金色を呈したり、繭は長く紡錘形にして淡褐色を呈し其面には三縦畝を存す長け八分幅二分五厘あり。蛹は黄褐色にして長橢圓形をなし長け五分五厘幅一分八厘あり。



(圖一十二第)

だ緩慢なるを常とす。

加害状況 幼虫は李葉を蝕害すること多く發生多き時は李は多く其葉を失

ひ被害少しとせず。

豫防及驅除法 幼虫の發生を認めたる時は之を枝より打落して蒐集撲殺すべし、又成虫の産出せる時は其飛翔せるものを掬蟲網にて掬ひ捕へて之を撲殺すべし其飛翔は頗る緩慢なるが故に之を捕ふるは容易なるものなり。

### 第五、櫻害蟲

鱗翅目

一 キンケムシモトキ蚊 (第二十二圖)

學名 *Acronycta tridens* Schiff.

族名 夜盜蟲蛾族

異名 キンケムシタマシ蛾







蛹を潰殺するも肝要なり。

ニウチスズメ (第二十三圖)

學名 *Smicrinthes ocellatus* L.

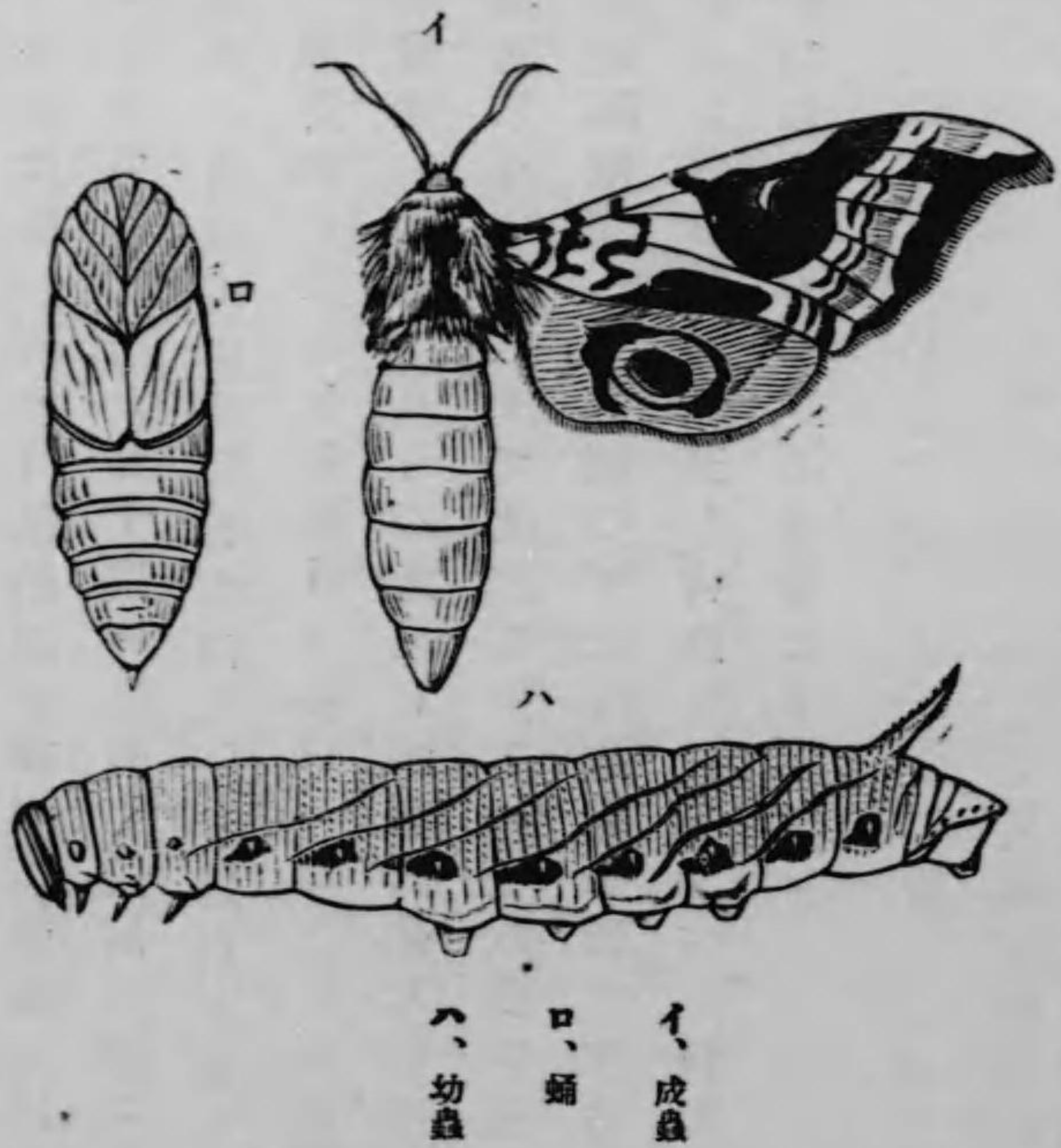
族名 柗雞族

異名

形態

成蟲 體軀は圓筒形にして頭胸の兩部は淡紫色なるも腹部は淡褐なり胸部の背面には一の廣き濃褐帶を縦走す、前翅は暗灰紫色にして其中央には二個の暗褐斑を存じ上部斑は下部斑より遙かに大形にして其中央には一個の白き弦月形の點紋あり、又前翅の外縁に接し廣き暗褐斑を存ず、此中央と外縁とに於ける暗褐斑の間には前縁より後縁に向ひ内外二條の暗褐波狀線を走ら

(圖 三 十 二 第)



す此内線は外線よりは着色淡くして細し、又外線が翅の後縁に接する位置の外方には一黒斑を存ず、同翅の内縁に接しては三個の濃灰色の縦、曲條を存す

又前翅の内半の裏面は鮮紅色を帯ぶ、後翅は淡黄褐色にして其中央には黒色橢圓環ありて環内には灰紫色の橢圓紋を存じ尙ほ此黒色橢圓環の周りは紅色を帯ぶ、體長一寸三分翅の開張二寸九分あり。

幼蟲 老生せる者は圓筒形にして長く長け二寸五分前後あり、頭部は殆ど三角形にして濃綠色を呈し其左右兩縁には黄條と黒條とを相接して存じたり



胴部は同じく濃綠色にして各腹節には九個の横條を走らし同節を十縱區に別ち各區には一列の白色凸起を存ず、亞背線には一個の紫點を存じ氣門の周りには大形の紫斑を存ず、胸脚は黒く腹脚は綠色なるも其外側には紫斑を存じ尾角の前側には黒短刺後側には黄短刺を具へたり。

蛹 圓筒形にして黒褐色なり長け一寸二分其後端には一短刺を具ふ。

經過習性 幼蟲は八月中産出し柳類其他萃樹、櫻等の葉を食とし九月中旬より老熟し土中に入りて化蛹し翌年の七八月中化して成蟲(ウチスマメ)となる。  
豫防及驅除法 被害樹の下には蟲糞の散在するものなれば蟲糞を認めなば其上方に在る枝を調査し、害蟲を捕殺すべし但し此幼蟲は常に發生多からざるが故に大患を爲すこと罕なり。

三 櫻毛蟲蛾 (第二十四圖)

學名 *Phalera flavescens* Brem.

族名 ノトトンチ族、天社蛾族又シリアケムシ族

異名 シリアケムシ蛾

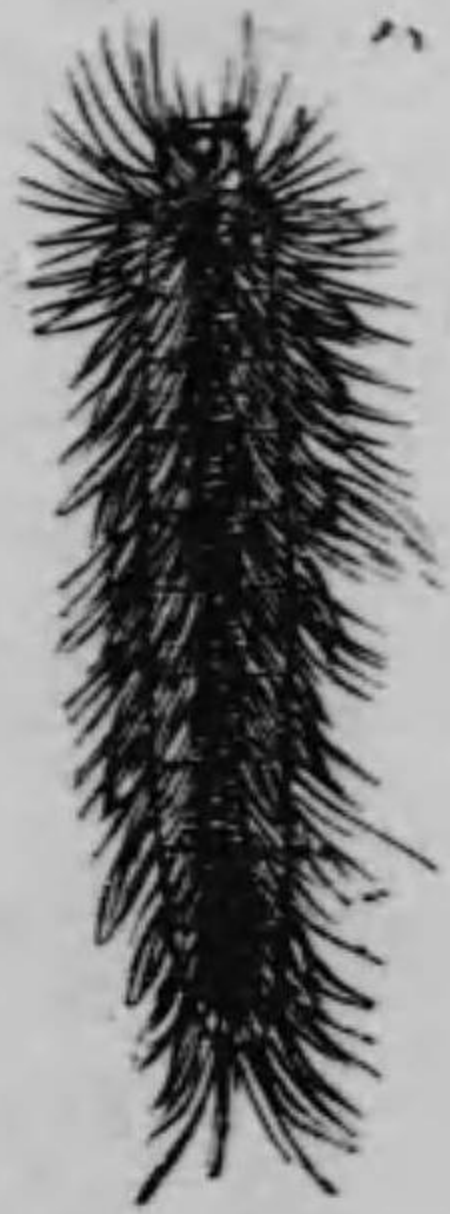
形態

成蟲 體軀は中広大にして雌雄は形態略ぼ同一なるも雌蛾は雄蛾よりは少く大形にして觸鬚の櫛齒短し體軀は淡灰黄にして觸鬚には櫛齒を具ふ、前翅は殆ど二等邊三角形にして淡灰黄色を呈して光澤あり、其内縁には一個の灰白斑紋ありて其外側には赤褐と黒褐との斑紋を並列し又内側にも亦同色の斑紋を存す、翅面には數條の朦朧たる灰黄の波狀紋の前縁より後縁に向ひ走れるものあり、後翅は大さ前翅に半ばし着色灰黄にして其外縁には淡灰褐の濁條を斜走す、雌蛾は長け八分、翅の開張一寸八分、雄蛾は長け六分、翅の開張一寸三分あり。

幼蟲(さくらけむし)の老熟せる者は長け一寸四五分ありて圓筒形なり、頭部は



深黒にして大形なり第一軀節の背面には深黒の背板を存じ第二以下の軀節



イ、成蟲

は黒色にして軀節の接線は暗赤紫色を呈し氣門は深黒氣門上線及び下線は俗赭色を呈し氣門の上位には二束の長さ白毛を生じ氣門下線にも一群の長さ白毛を生ず。

ロ、蛹

蛹は長け七分長橢圓形赤褐を帶ぶ。

ハ、幼蟲

經過習性 さくら毛蟲は八月頃より

(圖 四 十 二 第)



1/2



1/1

は其頭尾兩端或は其一端を上方へ向け折曲ぐる特性あり又老熟せる幼蟲は化蛹するが爲め連綿として幹枝を下たるものなり。

**加害狀況** 此害虫は往々多數産出し従て害虫の甚しきことあり、虫害の甚しき時は枝は悉く其葉を失ひて枯枝の如くに見ゆること敢て罕ならず又被害樹の下に常に夥多の蟲糞散在するが故に蟲糞にて害虫の多寡を鑑定することを得、又糞の落下する者は葉に觸れて一種の音を發することにて害虫の所在を認むることを得るなり。

**豫防及驅除法** 樹下に蟲糞の散在したる時或は枝の葉を失ひたるものある時は竹竿にして被害枝より害虫を打落し撲殺すべし、又害虫は老熟して幹枝を這ひ下る時は幹の根際より少しく上位にコールターを塗抹し置かば害虫の上方より降る者は多く之に膠着すべし、之を蒐集して撲殺するも可なり。

甲翅目

一 ろりこかね (第二十五圖)



學名 *Euchlora cuprea* Hope.

族名 金龜子族

異名

形態

成蟲 體軀は殆ど紡錘形にして濃緑紫色を呈し全軀面には細微の點紋を密布す、頭部は稍や小形にして複眼黒く前胸の前縁は幅頭部に均しきも後縁は之に倍せり、脚は丈夫にして中後の兩脚には各々二刺を具ふ、體長雌八分あり。

經過習性

經過は未だ詳ならざるも習性の如きは朝夕は不活潑なるも日中は活潑にして飛翔す、其舉動の不活潑なる朝夕に於て加害樹より之を振落さば其落ちたる者は脚を體の腹面に匿し地上に横り擬死の形態をなして暫くは動くことなし。



加害狀況 成蟲は晴天の時は舉動活潑にして盛んに櫻、李、葡萄等の葉を蝕害するものにして其虫害を受けたる葉は其葉體大抵蝕盡され只だ葉脈を除す

ものなり、且被害の葉には多く蟲糞の附着するものありて蟲糞は黒褐點の如くに見ゆるなり此虫害を受くること多きは八九月なり。

豫防及驅除法

被害樹は早朝検査し害蟲の葉上に止まるものを認めたる時は被害樹を振動かして害蟲を墜下せしめ之を蒐集して潰殺するを要す、若し日中に被害樹を振動かす時は決して地に墜下することなく何れも飛去るものなれば之を捕殺すること能はず。

半翅目

一 櫻五倍子蚜蟲 (第二十六圖)

學名 *Myzus sasaki* Mats.

族名 蚜蟲族

異名 サクラフシアブ



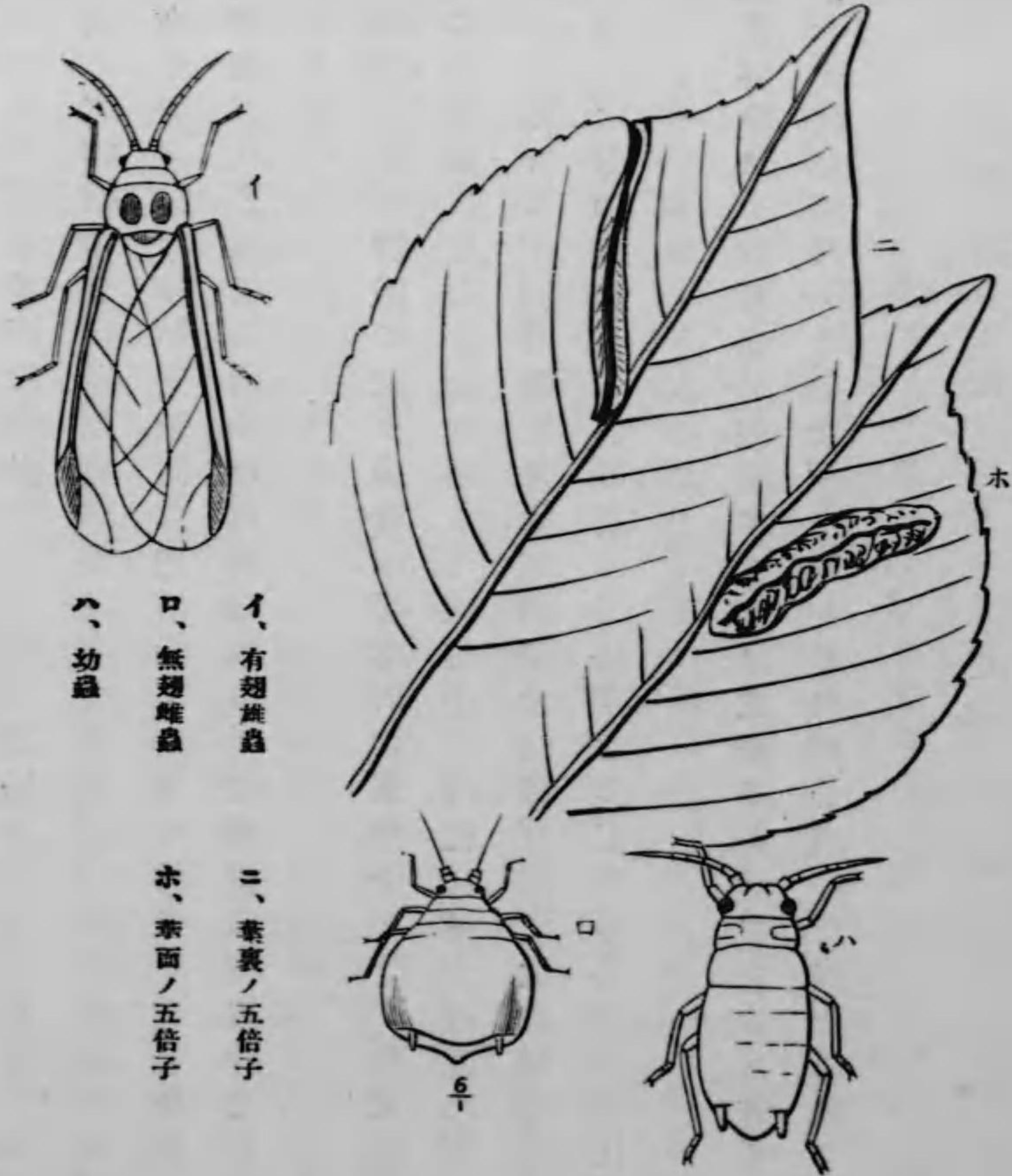
形態

成蟲 有翅の雌蟲は淡綠色なるも頭部と前胸は灰色なり、中胸には二個の灰褐楕圓紋を存じ小楯板も亦同色をなす單眼は青白にして複眼は紅色を呈し觸鬚は七節より成る、前翅には三本の斜翅脈ありて第三斜翅脈は二分し縁點は暗色後翅の前縁には二鈎を存ず、毎脚の脛節の外端に接し一個の膜質腫起あり、排蜜管は稍や長くして其末端は少く廣がり其全面には密に輪紋を存じたり、體長三厘餘あり、無翅雌蟲は體軀肥大にして尾端は俄に細まりたり、頭部は灰褐にして胸腹の兩部は暗綠なり、複眼は黑色にして觸鬚は五節より成り第三節は最も長くして第五節は之に次ぎ第二節は長け第五節に半ばす、第三及至第五節には輪紋を存じ第四及第五の二節には一個づゝ嗅凹を具ふ、口吻に短くして太く三節より成り末端は黑色なり脚は灰褐にして後脚は一層長し排蜜管は短小にして黑色なり體長六厘餘あり。

幼蟲 無翅雌蟲の産める幼蟲は長け三厘餘あり、體軀は長楕圓にして黄綠色を呈す複眼は深紅色、觸鬚は淡黄にして六節より成り第三乃至第六の環節に

(圖 六 十 二 第)

第五、櫻 害虫



イ、有翅雌蟲  
ロ、無翅雌蟲  
ハ、幼蟲

ニ、葉裏ノ五倍子  
ホ、葉面ノ五倍子

は若干の輪紋を存じたり、脚は淡黄にして各脛節の外端に接し膜質の腫起あり排蜜管は稍や短くして淡黄色を帯ぶ。

經過習性



五月上旬には櫻の葉面に海參形なまこの五倍子を見るべし、之を開き見る時は中ち  
に一頭の無翅雌蟲を存ず、此者は數疋の幼蟲を産し此幼蟲は又無翅雌蟲とな  
り幼蟲を産す、斯くの如く數回無翅の雌蟲出で、幼蟲を産じ最後の幼蟲は有  
翅の雌蟲となる此者の産みたる幼蟲は恐くは櫻樹の樹皮内に匿くれ越冬す  
るものなるべし。

**加害狀況** 前記蚜蟲は往々多數の櫻葉面に五倍子を生ず、此五倍子は常に葉  
面に生じ葉裏には長き裂孔ありて五倍子の内腔に通ず、裂孔の左右兩縁は常  
に少しく高まりて淡黄色を呈す、五倍子は淡緑にして之に縦走せる畝ありて  
其全面には歪の皺を存じたり斯く五倍子を生じたる葉は次第に弱りて遂に  
枯死して早く落葉するものなり。

**豫防及驅除法** 雌蚜蟲を驅除するには五倍子を生じたる葉若くは被害葉の  
付きたる枝を切採り之を踏みにじりて五倍子内の蚜蟲を壓殺するを要す。

二 桑介殼蟲 (第二十七圖)

學名 *Diaspis pentagona* Targ.

族名 介殼蟲族

異名 *Aulacaspis pentagona*; *Diaspis patelliformis* Sasaki.

*Diaspis anygdali* Tryon.

形態

**成蟲** 雌蟲は圓形灰色の介殼にて被はる、殼嘴は殼縁に接し横る介殼の徑は  
約六厘あり。

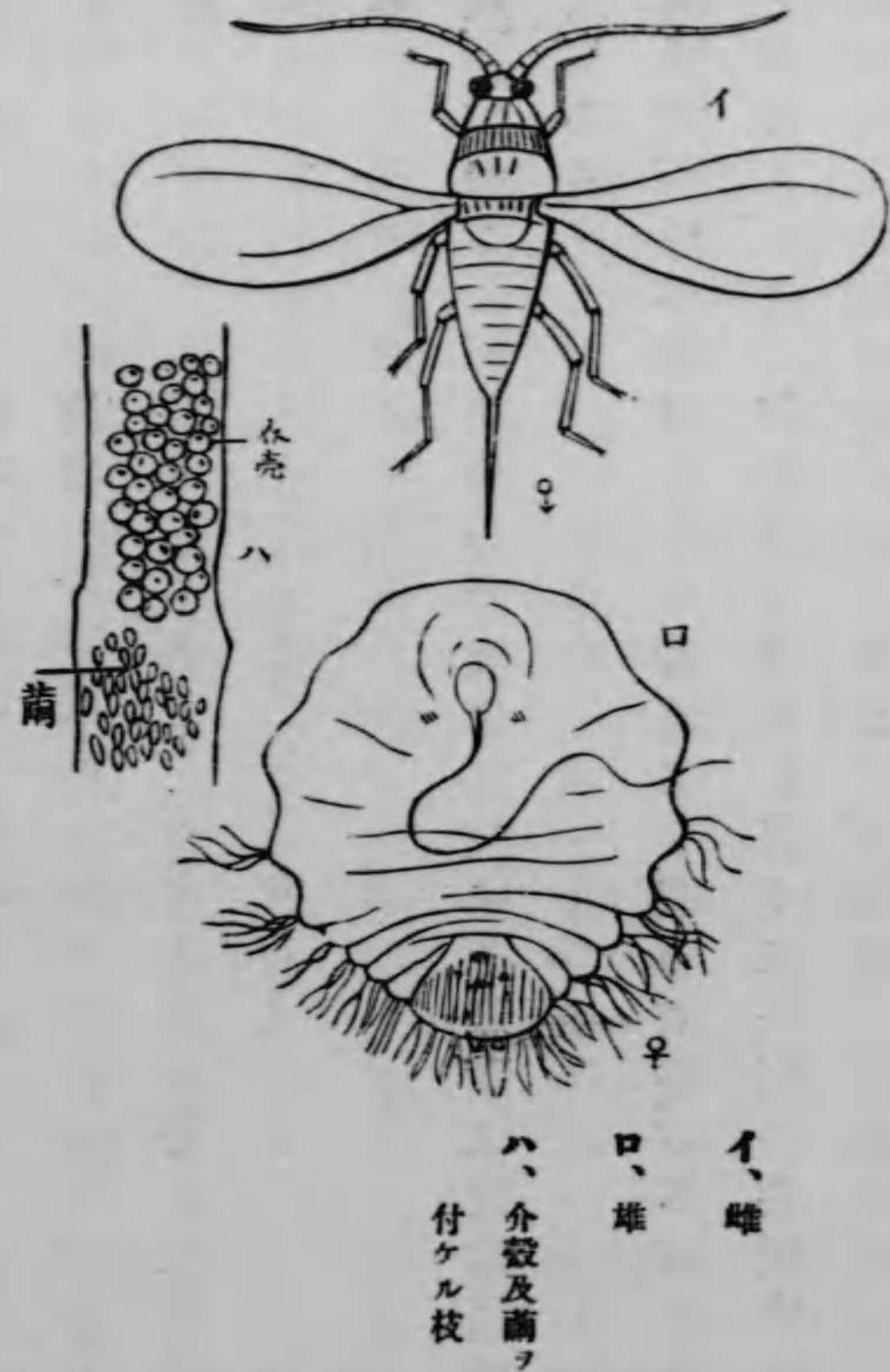
雌蟲は體軀扁平楕圓にして黄色なり體の末端の裏面には鬚板と稱せるキー  
チン板ありて之に五群の分泌孔を開く又鬚板の遊離縁に二枚の大なる長方  
形のキチン板を存したり體長は三厘五六毛あり。

雄蟲は體軀殆ど紡錘形にして橙色を帯び觸鬚は細長くして黄色を呈し脚、翅  
脈等は亦黄色なり、胸部の背面には二條の濃橙線を縦走し且中胸節の中央に  
は一個の橙赤條を横走す、前翅は膜質透明なるも後翅は變じて鍵形をなし交



尾器は針状をなす體長二厘餘あり。  
經過習性 雌蟲は五月頃産卵し之より孵化し出でたる幼蟲は桑を初として  
櫻、梅、桃其他數種の果樹に寄生し之より養分を攝取し老熟し雌蟲となる者は

(圖七十二第)



介殼にて覆はれ雄蟲となる者は繭を營みて之に蟄し化蛹す、斯く六七月に至り介殼内の幼蟲は雌蟲となり雄蟲は繭を破り出でて飛翔し雌蟲の介殼に止まりて交尾す、交尾終れば雄蟲は斃死し雌蟲のみ生存して産卵す此卵は八九月に孵化

し幼蟲となり次で雌雄の兩蟲出て交尾し雄蟲は死し雌蟲のみ宿主植物に止まりて越冬し翌春に到り産卵するものなり。

加害狀況 此害蟲の寄生を受けたる植物は勢力大ひに衰へ甚しきに至りて枯死するものなり、特に苗木類は此蟲害に罹り易くして其蟲害も一層甚し又幼蟲は常に橙黄色を帯びたるが故に幹枝に幼蟲の多く寄生したる時は恰も幹枝は橙黄色の塗料を塗付けたるが如き觀を呈するものなり。

豫防及驅除法 幼蟲の産出したる時は大抵幹枝の一部に群着するものなれば之に鯨油乳劑、テリス液等を振撒き尙ほ其上を靴刷毛の類にて強く摩擦し驅蟲すべし、又介殼にて覆はれたる雌蟲を驅除するには右等の驅蟲劑にて驅除するの外専ら摩擦驅除を行ふを肝要とす。



### 第六、梅害虫

鳞翅目

#### 一 コケムシ蛾 (第二十三圖)

學名 *Mitochristia aberrans* Hnl.

族名 コケムシ蛾族

異名

#### 形態

成蟲 雌蛾は雄蛾よりは稍や大きく雄蛾の着色は雌蛾より鮮明なり雌蛾は體軀及び觸鬚は橙黄色にして複眼は黒し、前翅は地名黄色にして其内半には十字形の斑紋ありて此斑紋と内縁との間には三個の褐色點を存じ又外半には褐色の橢齒形の斑紋ありて其橢齒の外縁に向へる一端は少しく太し、又前翅の内半と前外の兩縁に接する所は橙紅色を呈せり、後翅は淡黄色をなせるのみにて斑紋を缺く雌蛾は體長三分三厘、翅の開張八分五厘あり、雄蛾は體長

二分八厘ありて翅の開張八分あり。

幼蟲 (クロケムクムシ)の老熟せる者は長け四分五厘許あり、頭部は黒く胸部は全部密に暗灰褐毛を被むり其側面には長き灰色毛を生じ胸腹兩脚は共に灰縁を呈す、各軀節の亞背線及び氣門上下の兩線には大なる毛瘤ありて之に多く長短の毛を生じ特に氣門下線に生ぜる毛には更に長き枝毛を生じたり、繭は橢圓にして灰色なり常に灰褐色の軀毛と絲繭とにて成る其長けは約三分あり。

(圖三十二第)



經過習性 幼蟲は五月初旬頃より産出し梅、栗、櫻等の幹枝に止まり之に生ぜる地衣類を食して生活し

四月下旬乃至六月上旬幹枝の樹皮の下或は破れ目等の中にて結繭化蛹す、六月下旬乃至七月上旬化して蛾となるなり。

加害狀況 「クロケムシ」は種々の樹幹に止まるが故に或は之に虫害を加ふるが如く見ゆれども敢て有害ならず只だ幹枝に生じたる地衣類を食するの



みなり。

豫防及驅除法 幼蟲は別に之を豫防驅除するの必要を認めずと雖ども或は之を害蟲と誤認する者の爲めに之を本篇中に記入することとせり。

ニチヨナシ蛾 (第二十四圖)

學名 *Caligula jonassii* Butl.

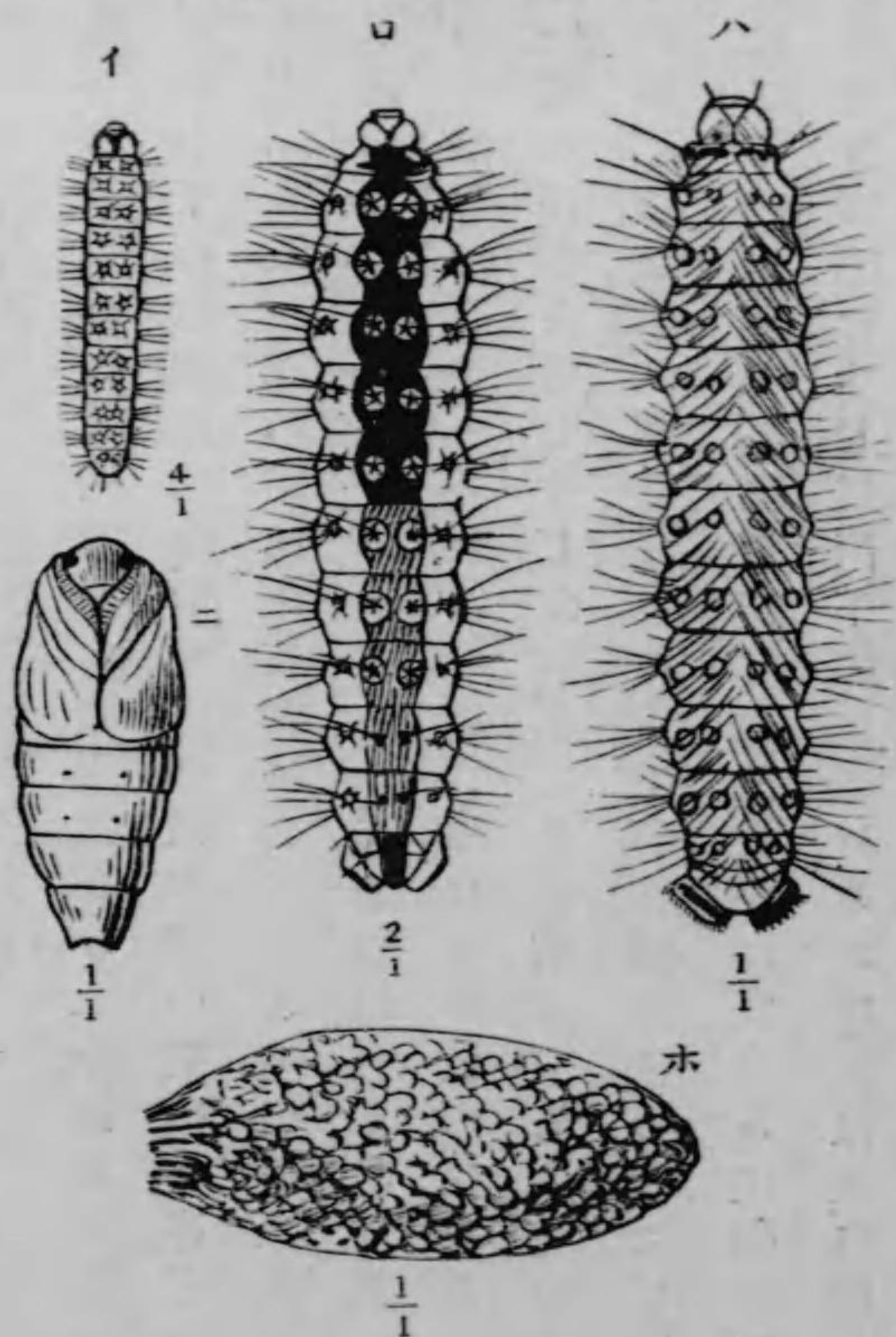
族名 天蠶蛾族

異名 ニハムメケムシ蛾

形態

成蟲 雌雄共に體軀茶褐色にして觸鬚に櫛齒あり前胸節は淡黄を呈し且胸部には長毛を密生す腹部は圓筒形にして稍や黄色を帯び其前縁に接し白横條を存じたり前後の兩翅は共に灰褐にして其外縁は茶褐色を呈し且兩翅の

(圖 四 十 二 第)



イ、一齡幼蟲  
ロ、二齡幼蟲  
ハ、四齡幼蟲  
ニ、蛹  
ホ、成蟲

の前縁に接せる翅部は灰白色にして少く桃色を帯び後翅の内半は鼠

中央には赭色の橢圓紋ありて其中には弦月形の白紋と一個の橢圓形の小眼點を存じたり、尙ほ兩翅の翅尖に近き處には一個の長黒斑を存じたり、又前翅

色にして褐色を帯ぶ雌蛾は雄蛾より少しく大形にして觸鬚の櫛齒は短く體長八分餘ありて翅の開張三寸七分あり、雄蛾は雌蛾よりは稍や小形にして着



色は稍や濃く體長七分翅の開張三寸あり。

**卵子** 卵子は圓筒形にして長け七厘幅四厘餘あり、卵殻は厚くして堅く暗灰色なるも其遊離端には灰藍色の斑紋あり。

**幼蟲** 初めて孵化し出でたる幼蟲は長け二分餘あり、體軀は深黒色なり、亞背線、氣門上下の兩線には毎節一個の圓錐形の毛瘤を存じ之に黒色灰色等の毛を生ず、第二及第三の軀節の亞背線に於ける毛瘤は朱色斑にて取巻かれたり、第三齡の幼蟲は體長一寸前後ありて全軀綠色を呈すれども背腹兩面には黒色の縦條を走らせり、各軀節の亞背線には黒色の毛瘤ありて之に黒白の短毛と一本の長き白毛を生じたり、第二及び第三軀節の毛瘤は濃朱色の環にて圍まれ第五乃至第八軀節に於ける毛瘤は淡赤色の環にて圍まる氣門上下の兩線には毎節綠色の毛瘤を存じ氣門上線に於ける毛瘤には數本の灰色毛と一本の長き白毛を生じ氣門下線に於ける毛瘤には灰色毛の外に五六本の長き白毛を生ず、頭部、胸脚及び最後の腹脚は黒色なるも殘餘の腹脚は濃綠色なり、第四齡及び第五齡の幼蟲は着色略ぼ同一なるも其大きさに於て異なる、即ち第

五齡の幼蟲にては頭部胸部共に綠色にして背面は稍や白色を帶ぶ、各軀節の亞背線、氣門上下の兩線には淡黃の平たき毛瘤あり、亞背線に於ける毛瘤には數本の淡黃毛と一本の長き淡黃毛を生じ又各節の氣門上線には數本の短き淡黃毛と一本の長き淡黃毛を生ず、氣門下線の毛瘤には三四本の淡黃の長毛を生ず、此等の毛の外全軀には厚く淡黃の短毛を生ず、此等の毛は大抵背線に向ひて生じたり、老熟せる幼蟲は長け一寸八分あり、繭は長橢圓にして金網狀をなす、但し此金網の目は栗蟲の如く大ならず、着色は淡褐にして其一極には開口あり長け一寸六分幅約六分あり。

蛹は圓筒形にして尾端は稍や細さも鈍頭にて終りたり、頭胸部は灰綠なるも腹部は灰黃色にして尾端には二凸起あり、長け一寸一分幅四分あり。

**經過習性** 幼蟲は四月下旬より孵化し出で梨、梅、エゴ、郁季、胡桃、オホナラ、ケヤキ、カマズミ、ウツギ、ミヅキ等の葉を蝕害し、六月上旬より老熟し其食樹に繭を營み之に蟄して蛹となり十月下旬より化して蛾となり、食樹の幹枝に産卵す、此卵子は越年し翌年の四月に孵化するものなり、幼蟲は舉動活潑ならず其幼



稚なるものは其背面に紅色の斑紋を存するが故に之を認め易きも老成するに従て右の斑紋は消失し淡綠色を呈するものなれば葉間に止まる時は之を認むること容易ならず。

**豫防及驅除法** 幼蟲は其發生多からざるが故に大害を爲すことなし、其發生は其止まる樹下に蟲糞の散在せることにて認知すべし、又稍や生長したる者は綠色なるが故に丁寧に搜索するにあらざれば之を捕殺すること能はざるものなり。

### 三 梅腰高蟲蛾 (第二十五圖)

學名 *Illiberis pruni Dyar*

族名 斑蛾族

異名 リンゴスカシクロバ、ナシホシケムシ

#### 形態

**成蟲** 雄蛾は體軀黑色にして複眼觸鬚共に黒く觸鬚には二列の櫛齒を具ふ前後の兩翅は共に殆ど透明にして其面には黒き鱗毛を散在し翅脈は亦黑色なり、前翅は殆ど長方角にして後翅は殆ど三角形なり、體長二分七厘、翅の開張七分五厘あり、雌蛾は形態着色共に雄蛾と異ならざるも雄蛾よりは少しく大なり。

**幼蟲** 老熟せる者は長け四分五厘幅一分五厘あり、體軀は稍や平扁にして幅廣く頭部は小形にして黒く、第一軀節(第一胸節)は洋紅色にして其後半には一對の黒斑を具ふ、胸部は灰紫赤色にして各軀節の亞背線及び氣門上下の兩線には各々一個の暗灰色の圓き毛瘤ありて之に灰色の短毛を生ず、但し亞背線の毛瘤には短毛の外に二三本の長き灰色の毛を混生す。

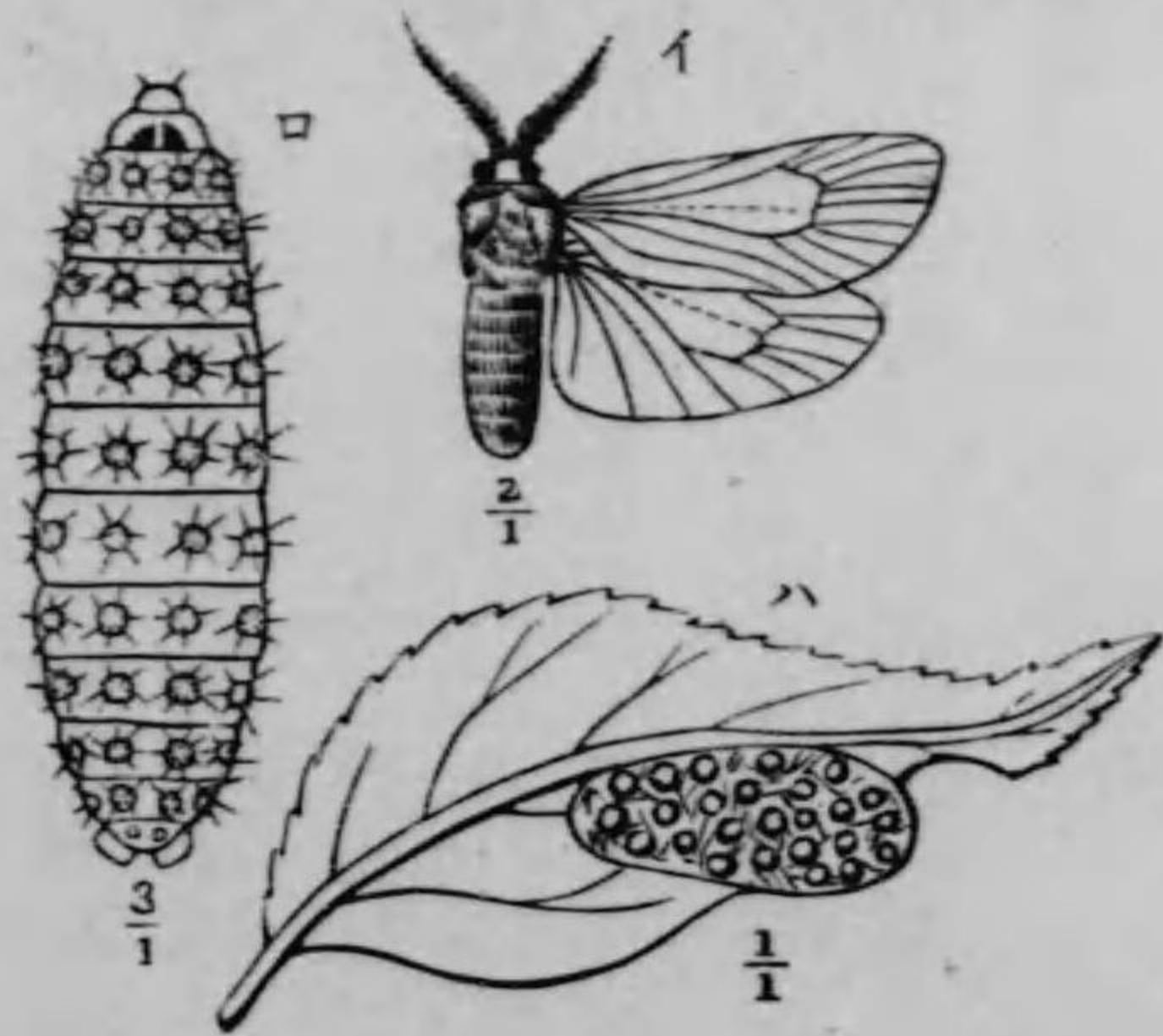
繭は甚だ粗にして白く橢圓形なり、其面には大小の孔を開き恰も金網の狀をなす。

**經過習性** 幼蟲は五月上旬より現出し梅、桃李等の花、蕾、其他新芽、嫩葉等を蝕



して生長し、六月上旬乃至中旬に老熟し葉裏に繭を營み之に蟄して蛹となり  
六月下旬乃至七月上旬化して蛾となり枝葉に産卵す、此卵子再び孵化して幼

(圖 五 十 二 第)



イ、成蟲  
ロ、幼蟲  
ハ、葉裏ノ繭

蟲となり九月中旬化蛹し同下旬  
に蛾となり幹枝に産卵す此卵子  
は冬日を経過し翌年の五月に孵  
化し幼蟲となる故に此蛾は一ケ  
年中二回産出して産卵するもの  
なり、幼蟲の静止する時は體背の  
中央を高むるの習性あるが故に  
腰高蟲の名稱を付したる所以な  
り。

加害狀況 幼蟲は専ら新芽、蕾等  
を食とするが故に蟲害に罹りたる新條は其芽蕾等を失ひ花を開くこと能は  
ずして結實することなし尙ほ花、蕾、新芽等を蝕ひ盡す時は嫩葉をも蝕するが

故に嫩條は大いに衰弱するものなり。

豫防及驅除法 花瓣の落下するもの或は嫩葉の落下し或は之を失ひたる嫩  
條は必ず此蟲害に罹りたるものなれば右等の新芽は丁寧調査し害蟲を捕  
殺すること肝要なり、又開花新芽萌出の際には相當の驅蟲劑を撒布し害蟲を  
驅除するも有效なり、驅蟲劑としては除蟲菊の火酒エキスを適當に稀薄なら  
しめたるもの或は魚藤の液汁を撒布し驅蟲するも可なり、又成蟲は飛翔甚  
だ緩慢なるが故に其發生の時期を見計ひ採蟲網にて之を捕へ殺すも可なり。

四 コノハ蛾 (第二十六圖)

學名 *Gastropacha quercifolia* L.

族名 桃毛蟲蛾族



異名 カレハ蛾

形態

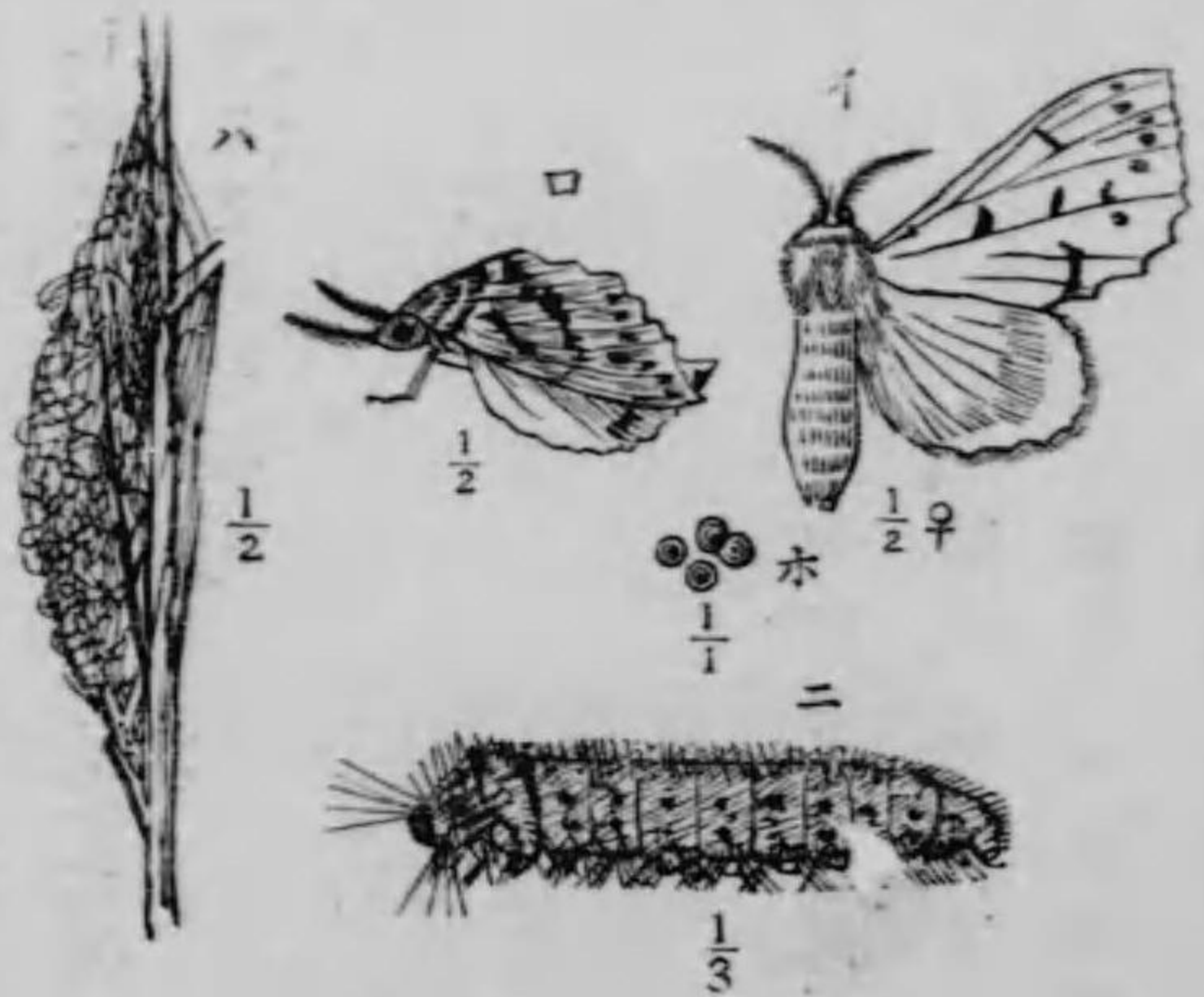
**成蟲** 稍や大形の蛾にして雌雄は其大さ及び着色を異にす、雄蛾は肥大にして黒褐色を呈し頭部は比較的小形にして觸鬚は短櫛齒を具へ頭部の前面に挺出す胸部は堅大、腹部は長大にして前後の兩翅は共に灰褐色を呈し前翅の大きさは殆ど後翅に倍し其外縁は著しく波状をなし翅面には長短三波條の前縁より後縁に向ひ走れるものあり、後翅も亦其外縁波状をなし翅面には一濃褐條の前縁より後縁に向ひ走れるものありて其前縁の内半は橙黄色を呈し内縁と後縁とは淡褐の長毛を簇生す、雄蛾は雌蛾より小形にして着色は濃厚なり雌蛾は體長一寸二分、翅の開張二寸三分、雄蛾は體長九分、翅の開張一寸八分あり。

幼蟲の老熟せる者は長け三寸前後ありて稍や扁平なり、體軀は密に毛を被むる着色は帶黃暗綠にして淡黒の斑紋を存じ、第一及第二環節の接線及第二及第三環節の接線には濃藍色の短毛を簇生す、背線、頭尾の兩端及脚の付元に白

黃褐等の長毛を簇生し體軀の側面には濃藍色の斑紋を存したり。

繭は紡錘形にして長く、長け二寸七八分あり、其質は粗、其着色は淡黒く其面には毛ば多し。

(圖六十二第)



イ、成蟲  
ロ、翅ヲ疊ミタル成蟲  
ニ、幼蟲  
ハ、繭  
ホ、卵

卵子は圓くして徑五厘、着色灰綠にして其面には三個の白環紋ありて大なる環紋の内に順次二個の環紋を入れ込みたり。

**經過習性** 幼蟲は四月より産出し桃、梅、李、栗、柳等に棲息し其葉を食し五月下旬より老熟し初め絲繭を吐き幹枝に大形の繭を營み蛹となり六月中旬化蛹後約三週

日より化して蛾となり食樹の幹枝に産卵す、卵子は常に幹枝に群付するの特性あり。



**加害狀況** 此幼蟲は食樹に蟲害を加ふるものなれども普通其個數多からざるが故差したる蟲害を及ぼすことなし。

**豫防及驅除法** 幼蟲は其着色幹枝に酷似するが故に之に止まるも容易に認め難し故に能く注意して之を搜索捕殺すべし又藪及び卵子も幹枝に就きて蒐集することを要す。

五 シヤチコムン蛾 (第二十七圖)

學名 *Stauropus fagi* L.

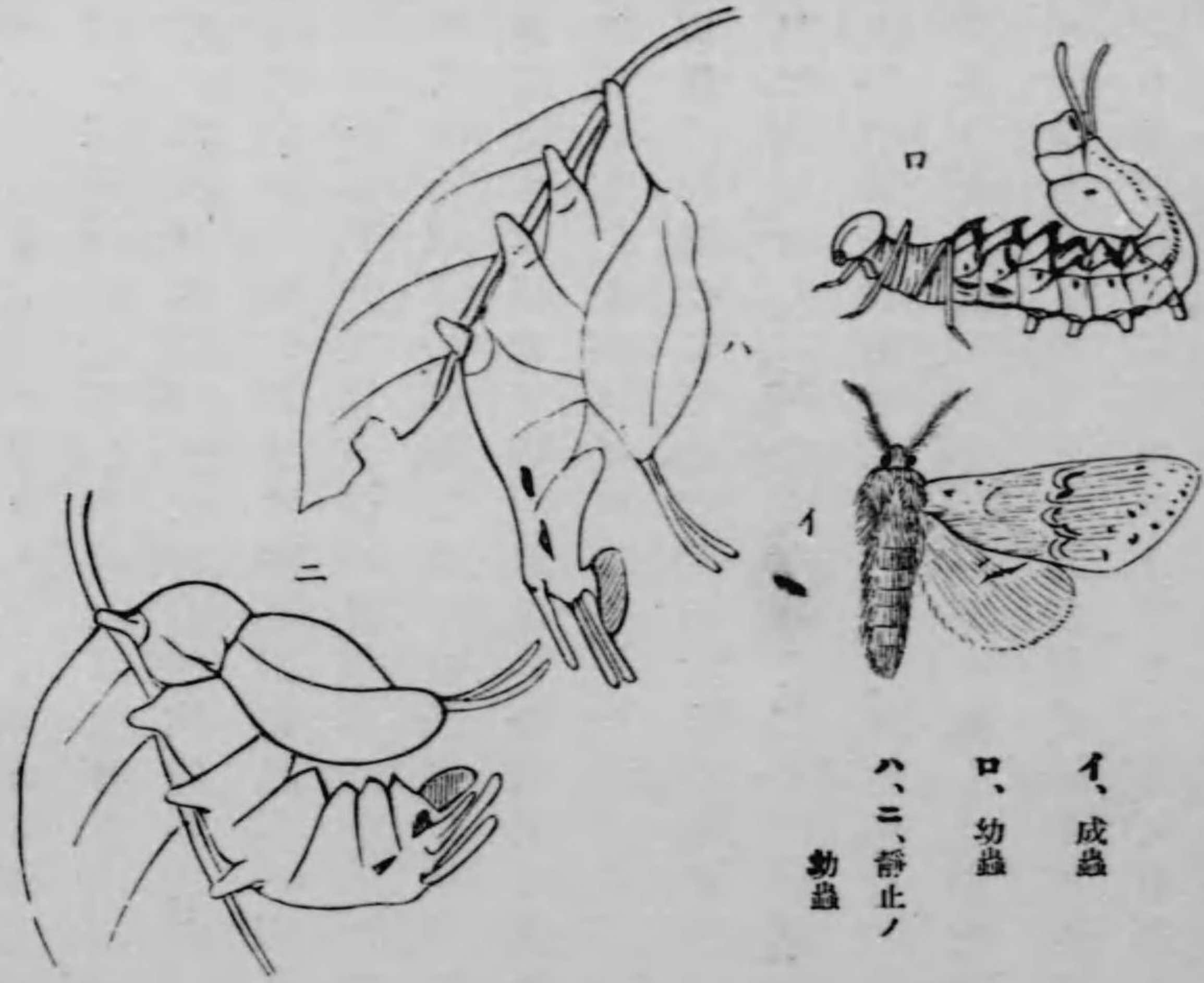
族名 天社蛾族

異名 シヤチホコガ

形態

**成蟲** 雄蛾は體軀濃灰褐にして胸部及腹部端には長毛を簇生す複眼黒く觸

(圖七十二第)



イ、成蟲

ロ、幼蟲

ハ、ニ、蛹止ノ

幼蟲

鬚は長さ櫛齒を具ふ、前後兩翅の着色は體軀と略ぼ同様にして前翅は幅稍や狭くして其中央は濃灰褐にして灰黄の横走波狀線を存す又前翅の外縁に接し灰褐點の横線と灰褐の波狀線とを存じたり、後翅は小形にして灰褐色を呈し前縁より中央に向ひ灰黄帶紋を出す體長七分翅の開張一寸七分。

**幼蟲** 老熟せる者は長け一寸六七分あり、體軀は暗褐頭部には二條の黒斑を存じ第



一乃至第五軀節は稍や細きも第六以下の軀節は頓に太くなり特に第十乃至第十二の三軀節は一層大形にして幅廣く恰も平盤の如く其左右兩側は薄平たくなり且其縁は鋸齒狀に凹凸す胸脚の内第一對は短小なるも第二對は著く長く第三對は第二對より短し腹脚は稍や長く尾脚は著く細長くして長刺の如く見ゆ、第四乃至第五節の各軀節の背面には一對づゝ廣き三角形の凸起を出すも第六以下の軀節に於ける凸起は次第に小形となる此等凸起の前面は黒色を呈す、第三乃至第六軀節の側面には黒色の波狀線を斜走、第六乃至第九の軀節の氣門上線は黒色なり。

**經過習性** 成蟲は五月乃至七月に産出し梅、モミジ、ヨソヅメ、梨等に點々産卵す、此卵は數日にして孵化し幼蟲となり右等植物を蝕害し七月乃至九月に老熟し食樹の葉を數枚を綴りて巢となし其中に灰褐の粗繭を營み之に蟄して化蛹し冬日を經過し翌年の春夏に化して蛾となる、幼蟲の胸脚の長さことゝ體背に凸起を存することゝ尾端數節の扁枝形を成せるは本蟲の最も特性とするところにして其靜止する時は尾部を背面に向け屈曲するが故に恰も「シ

ヤチホコ」の如く見ゆ、故にシヤチホコムシ又はシヤジコムシの名あり、又幼蟲の靜止する時は腹脚にて幹枝に止まり垂下することあり、此際には腹脚にて葉の中脈に止まり頭端を下向し尾端も亦體背に接して下向するものなり、或は幼蟲は葉の中脈に止り其頭尾兩端を著く背面に屈曲し兩者殆ど相接するに至る、又繭を包める葉は枯死して所謂枯葉色を呈するが故に繭は恰も數葉の集まりて幹枝より垂下せるが如くに見ゆるものなり。

**加害狀況** 此害蟲は一頭たりとも多數の葉を蝕して蟲害を加ふるものなるも其産出の個數は常に多數ならざるが故に蟲害も敢て甚きことなし。

**豫防及驅除法** 幼蟲は着色枯葉色を呈するが故に之を検出すること容易ならず然れども繭内に蟄したる時は數枚の枯葉は集まりて幹枝より垂下せるものなれば此等の枯葉を取集めて害蟲を驅除するを良しとす。



半翅目

一 梅蚜蟲 (第二十八圖)

學名 *Macrosiphum Mumeicola* Mats.

族名 蚜蟲族

異名 ムメヒケナカアブラ

形態

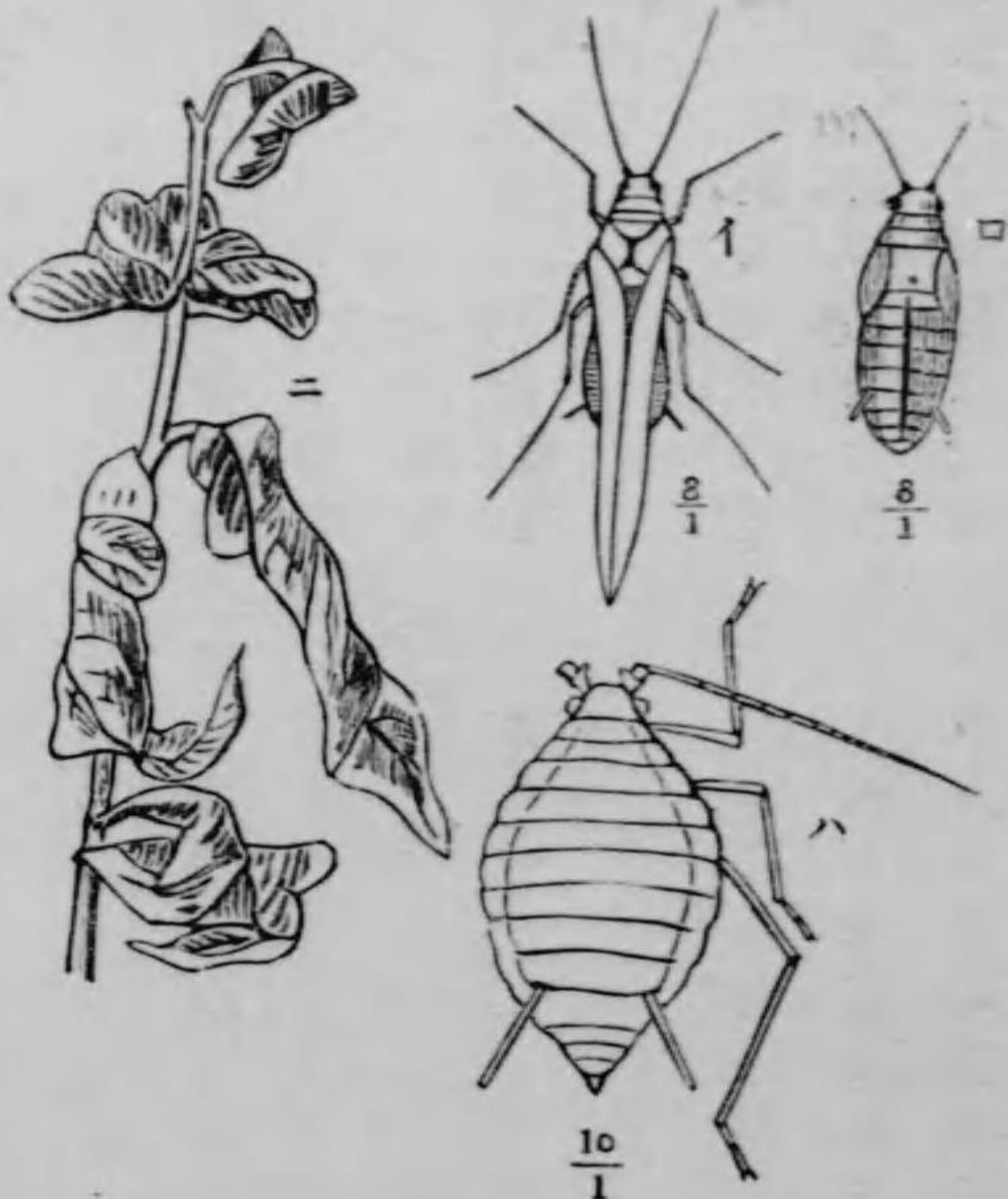
成蟲 有翅雌蟲は體軀藍黑色にして觸鬚は黒く複眼は暗褐色、翅は透明にして翅脈は黄緑を呈し前翅の第三斜翅脈は三枝に分たる縁點は灰色にして後翅には三鈎を具ふ、脚は黄緑にして黒斑を存じ排蜜管は稍や長くして黒し體長七厘餘あり。

無翅の雌蟲は體軀紡錘形にして肥へ淡黄綠色なり、觸鬚は六節より成り、第一と第二の二節は短大にして第一節の側部には肉瘤を存ず第三節は最も長く第四と第五の二節は稍や短く第六節は細長し口吻は脚の付元まで延び排蜜管は黄緑にして稍や長く其末端は暗褐にして廣き橢圓板にて終りたり。

經過習性

此蚜蟲は梅、李、よねもの等の葉に多く棲息するものにして通常萎縮したる葉の中に

(圖 八 十 二 第)



イ、有翅雌蟲

ロ、蛹

ハ、無翅雌蟲

ニ、被害葉

縮したる葉の中に蕃殖す大抵六月上旬頃より無翅の雌蟲は盛んに幼蟲を産みて蕃殖し同月下旬乃至七月上旬には幼蟲は化して有翅の雌蟲となりて飛翔するものなり。

加害狀況 虫害を受くるは主に嫩條に付ける嫩葉にして被害葉は著しく萎縮し其表には夥多の白き脱皮を存ず斯く萎縮したる葉は早晚枯死落下し幹枝の勢力は從て衰るものなり。



豫防及驅除法 萎縮したる葉を付ける葉は可成之を切取りて燒棄て害虫を殺し翌年の虫害を除去するを要す。

ニタマカタカヒガラムシ (第二十九圖)

學名 *Lecanium Kumocensis* Kuw.

族名 介殼蟲族

異名

形態

雌蟲 體軀は殆ど球狀にして大なる者は徑一分四五厘あり着色は暗赤褐にして其面には尾端の裂目より起り放線狀に走れる黒凹點線あり桑名氏の調査に依れば觸鬚は七節より成り尾端の裂目罅隙は深く之に存する一對の三角板は大にして其外角は稍や圓しと云ふ、木枝より介殼を取去りたる跡には

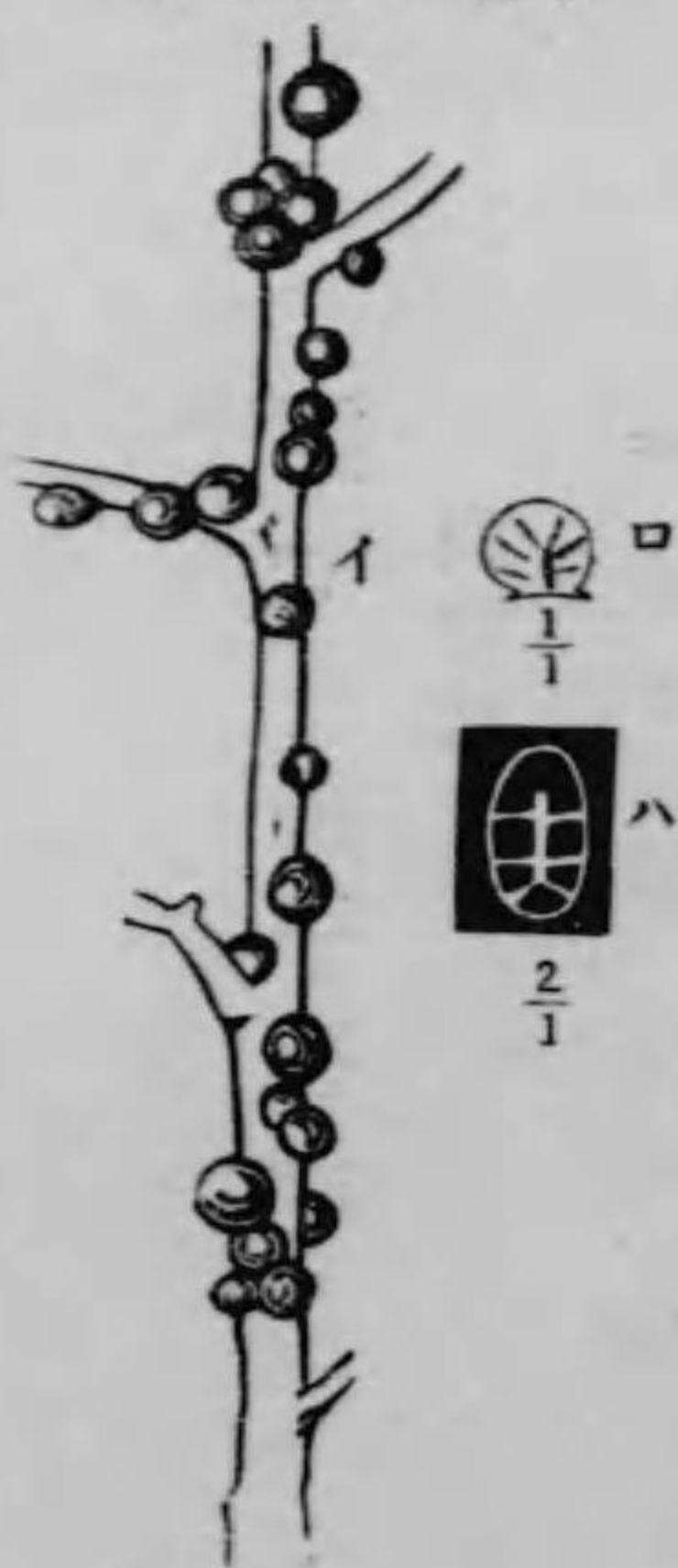
白き橢圓の痕跡を存じ之に(夫)の字形の白き模様を存す。

雄蟲は長け五毛餘ありて頭胸の兩部は赤褐腹部の淡黄褐色を呈し觸鬚と脚は淡黄なり(桑名氏ニ依ル)卵は殆ど紡錘形にして淡橙黄色を呈すれども其孵化に近づく時は赤橙色に變ず。

色に變ず。

幼蟲は扁平長橢圓にして觸鬚は六節より成り末端の一節には

(圖九十二第)



イ、介殼蟲ラ付ケタル

ロ、介殼蟲

ハ、介殼蟲ノ着痕

數本の長毛を生じ其中一本は極めて長し脚は何れも同大にして其蹠節の末端には長短二對の擔球毛を具ふ、尾端の裂目内に存する三角板と板との間には二本の稍や長き粗毛の相接して存するものあり。

經過習性 雄蟲は五八月に老熟し球狀となり産卵す、之より孵化し出でたる幼蟲は冬日を經過し翌春に到り老熟し産卵す、幼蟲は初めは移動するも後には一場に止まる雌蟲も一場に固着して移動することなきも雄蟲は飛翔す



るものなり。

加害状況 雌蟲は往々梅、桃、杏等に寄生し一枝に多數固着して養分を吸収して患害を加へ幼蟲も同じく蟲害を加ふるものなり。

豫防及驅除法 幼蟲は之を認むること容易ならざるも雌蟲は其形の大なると大約群着するものなれば之を検出すること難からざれば可成雌蟲を蒐集して之を潰殺し同時に卵子をも潰殺するを良しとす。

### 第七、梔子害蟲

鱗翅目

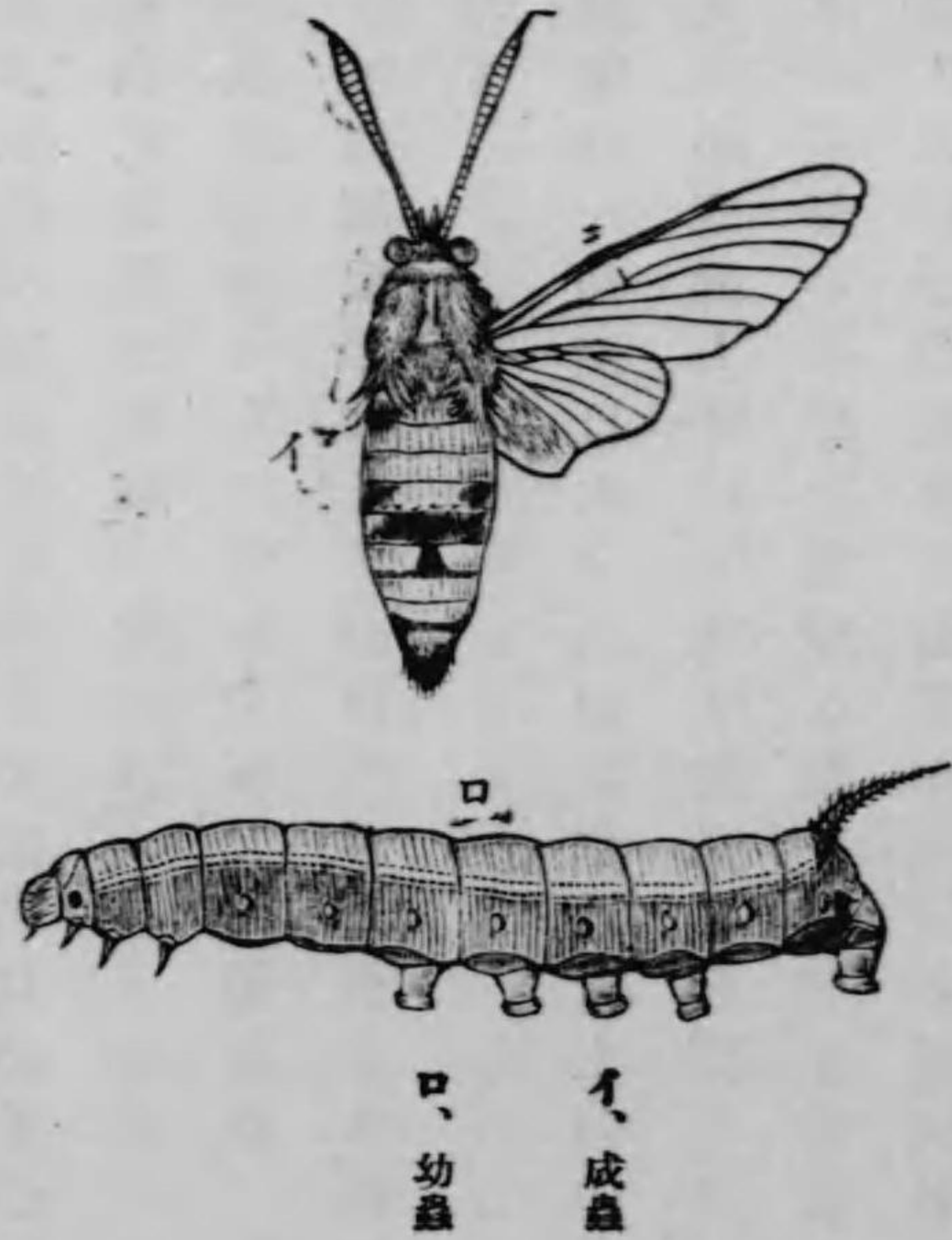
#### 一 梔子蠅蛾 (第三十圖)

學名 *Cephonodis hylas*.

族名 標雞族

異名 アキツバメ

(圖 十三 第)



形態 雌蟲 雄蛾は中庸大にして稍や肥へ外形蜂類に似たり、體軀は灰黄綠色を帯び頭部は大にして複眼は球狀にして褐色を帯ぶ、觸鬚は黒く其末端は太くして俄に尖りたり、胸部は幅廣く

其前縁と兩側に生ぜる毛は長し腹部は幅胸部に均しきも其末端は鈍頭をなす、第四腹節の左右兩側は濃赤褐色を呈し第五腹節は全面同色を帯ぶ、尾端には黒毛を簇生し、且其左右には同色の毛束を具ふ、翅は前後共に透明にして前翅は長さ三角形をなし翅尖には小黑斑あり、後翅は小形三角形にして長け前翅に半ばす雌蛾は體長九分五厘、翅の開張二寸二分、雄蛾の體長九分翅の開張二寸あり。



**卵** 卵は球状にして白色なり。

**幼蟲** 幼蟲の老熟せる者は長け二寸二三分ありて各軀節には七八個の横線を具ふ、氣門上線は白色にして氣門は赤く體の腹面と胸腹兩脚は茶褐色を呈し肉角には黒色の短刺を具ふ。

**繭** 繭は橢圓にして常に土塊にて覆はる。

**蛹** 蛹は圓筒形にして長け一寸三分あり、圓筒形にして尾端稍や尖り濃褐色を呈す。

**經過習性** 幼蟲は六月上旬及び八月上旬の二回に發生し八月發生の幼蟲(蠅)は九月中老熟し土中に入りて結繭化蛹し冬日を經過し翌年五月化して成蟲となり梔子の葉に一粒づゝ點々産付す、此者は六月上旬中に孵化し幼蟲となり盛んに梔子の嫩葉及蕾等を蝕害し或は幹枝を裸かに爲すこと多く從て之を衰弱せしむるなり、又八月中産出の幼蟲も同じく嫩葉、蕾等を蝕害すること甚し幼蟲は舉動頗不活潑にして之に觸るゝも只だ頭尾の兩端を左右に屈曲するのみにて敢て逃げ匿るゝことなし、但し幼蟲の着色は葉色に酷似するが

故に能く注意するに非ざれば之を検出すること難し、又幼蟲を摘む時は必ず口より緑色の液汁を吐出するの特性あるものなり。

**豫防及驅除法** 成蟲産卵の時期には多く梔子に飛び來りて其葉に産卵するものなれば採蟲網にて之を掬ひ採り撲滅するを要す、又卵子は主に新條の嫩葉に産付するが故に之に就きて卵子を採り集めて潰殺すべし、又幼蟲は主に夜間に貪食し、晝間は主に葉間或は葉裏に止まり貪食すること少なし、幼蟲の着色は葉に酷似するが之を検出すること容易ならず、されども幼蟲の棲息する幹枝の葉面には蟲糞を存するものなれば此蟲糞の側に於ける幹枝葉等を取調べれば必ず幼蟲を検出することを得るものなり、右の如く蟲糞にて幼枝を捕へ盡くすならば其蟲糞は悉く拂ひ落とし翌朝更に梔子を取調べ蟲糞を認むるならば復た其側を調査し害虫を驅除するを要す、此害虫は普通の梔子其他白梔子等何れも其葉を嗜食するものなれば梔子類は種類の如何に拘らず厳く検査して害虫を捕殺すること肝要なり、又幼蟲の小形穉若なる者の如きは之を認むること容易ならざるも葉上の糞と虫害を受けたる葉に就きて之



を取調べれば容易に害蟲を検出することを得るものなり。

半翅目

一 クチナシ粉負蟲 (第三十一圖)

學名 *Aleurodes* sp.

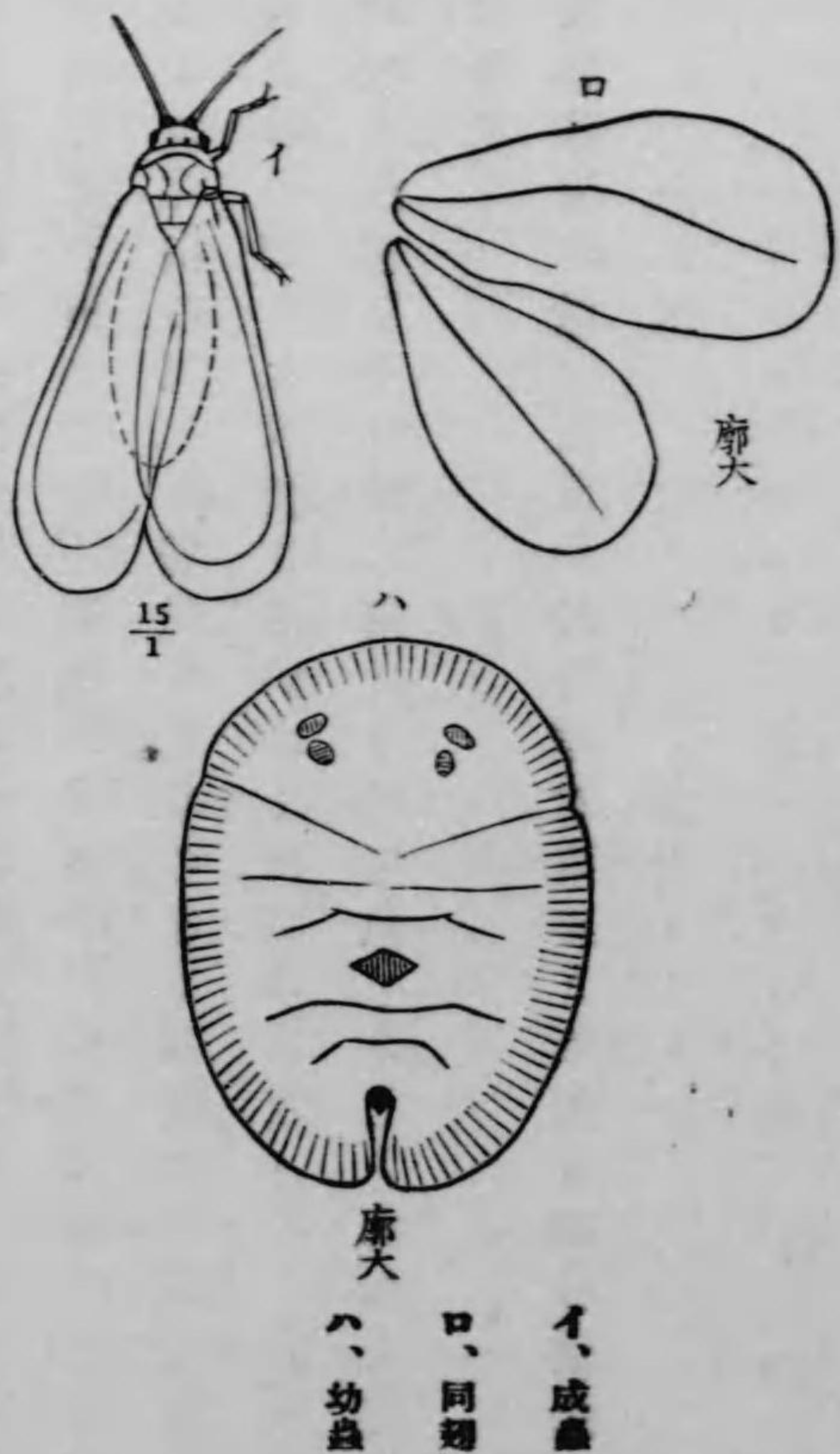
族名 負粉蟲族

異名

形態

成蟲 體軀は橙黄色にして白粉にて被はる、複眼は洋紅色にして其半ばは深く絞れて二眼となる、單眼は二個ありて紅色なり、觸鬚は七節よりなり第三節は極めて長く第四と第五の二節を合せたる長けに均し、口吻は三節よりなりて中脚の付元に終る、第二節は最も長く第三節は短くして其末端は暗褐色を

(圖一十三第)



廣大

廣大

イ、成蟲  
口、同翅  
ハ、幼蟲

呈したり、體長六厘翅の開張一分三厘あり、着色は淡黄緑にして透明なり、體の周縁には平行せる數多の細線を均列し體の前半には左右に一對づゝ紅色楕圓の斑紋あり、之れ成蟲の複眼となるものなり、尾端の中央には深き切れ込みありて其止まる處にはV字形の褐色キ

一チンの附器を具ふ。



**経過習性** 幼蟲は越冬し翌年五月下旬より化して成蟲となる。幼蟲は常にク  
チナシの葉裏に固着して動くことなし。幼蟲は體殆ど透明なるが故に葉裏に  
止まる時は葉の葉縁は蟲體を透して見ゆ。故に幼蟲を搜索するには右の特徴  
を心得置くこと肝要なり。成蟲産出する時は同じく葉裏に止まり静止するも  
往々多く加害樹の周りを飛翔するものなり。其飛翔する状況は恰も細かさ白  
粉が加害樹の周りに飛散するが如くに見ゆるなり。

**加害状況** 蟲害を受けたる葉は多少變色することあるも差したる蟲害を受  
くることなし。

**豫防及驅除法** 被害には左の合劑を葉裏より振り掛け驅除すべし。

- 一天水 九七、リートル
- 一十プロのニコチン液 一、リートル
- 一火酒(九十%) 一、リートル
- 一石鹼 二、〇〇グラム

**ニカメノカフ蠟蟲** (第三十二圖)

學名 *Ceroplastes floridensis* Const.

族名 介殼蟲族

異名

**形態**

**成蟲** 雌蟲は體軀橢圓にして厚く淡洋紅なるも常に白色の蠟質にて被はる  
ゝが故に白き橢圓塊の如くに見ゆ。右蠟被の周縁には六個の蠟瘤を存じ前縁  
の一瘤には大小三本の蠟角あり。各側には二本宛蠟角を存じ後端に存する瘤  
は殆ど弦月形をなし三對の蠟角を存じ中央に於ける二蠟角の間には濃厚の  
洋紅色を呈せる鈍頭の角ありて之も同じく蠟質にて被れたり。右角の末端は  
往々濃灰色を帯ぶ。右洋紅色の鈍頭角の前面には二個の相並びたる等脚三角  
板ありて後面は膜質なり。此三角板と後面の膜とて一個の漏斗形の凹腔を成  
す。此漏斗の底は直腹に連なれるが如し故に漏斗の開孔は肛門を成せるに似  
たり。觸鬚及脚は稍や發育し觸鬚は六節より成りて脚は四節より成り其先き



には二對の擔球毛を生じ其一對は小にして他對は大なり、體長一分幅六厘餘あり。

雌の幼蟲の稍や大なる者は同じく白蠟にて被はる、此背面には中央に長橢圓の蠟塊ありて其前端に近く小橢圓の脱皮あり、又蠟塊の前部には三個角狀蠟

角を存じ後部には二個の長さ

蠟角を存じ其間に小隆起を挟

む、是れ洋紅色を帯びたる鈍頭

角の發達せざるものなり、體長

五厘、幅二厘弱なり。

(圖二十三第)



鈍頭角

イ、雌蟲  
ロ、幼蟲

經過習性 幼蟲は五六月に産卵す、卵は數日にして孵化し幼蟲となりクチナシ、柿、山茶等に寄生し其養分を攝取し生長し九月下旬成蟲となる、雌蟲は越冬し翌年五六月に産卵す。

加害狀況 幼蟲は共に餌樹の葉裏に棲息し養分を攝取するが故に葉の勢力衰へ多少其光澤を消失す、成蟲は主に枝幹に固着して移動することなし。

豫防及驅除法 成蟲は體軀白蠟に被はる、故に其所在を検出すること容易なり、此者は見當り次第に鋸子にて摘取り潰殺するを要す、又幼蟲は主に葉裏に止まり蠟に覆はれざるに先ち石油乳劑、鯨油乳劑等の稀薄なるものを噴霧器にて振撒き驅除するを要す。

### 第八、ボケ害蟲

鱗翅目

一 サミタレ蛾 (第三十三圖)

學名 *Abraxas curymede* Mots.

族名 尺蠖蛾族

異名



形態

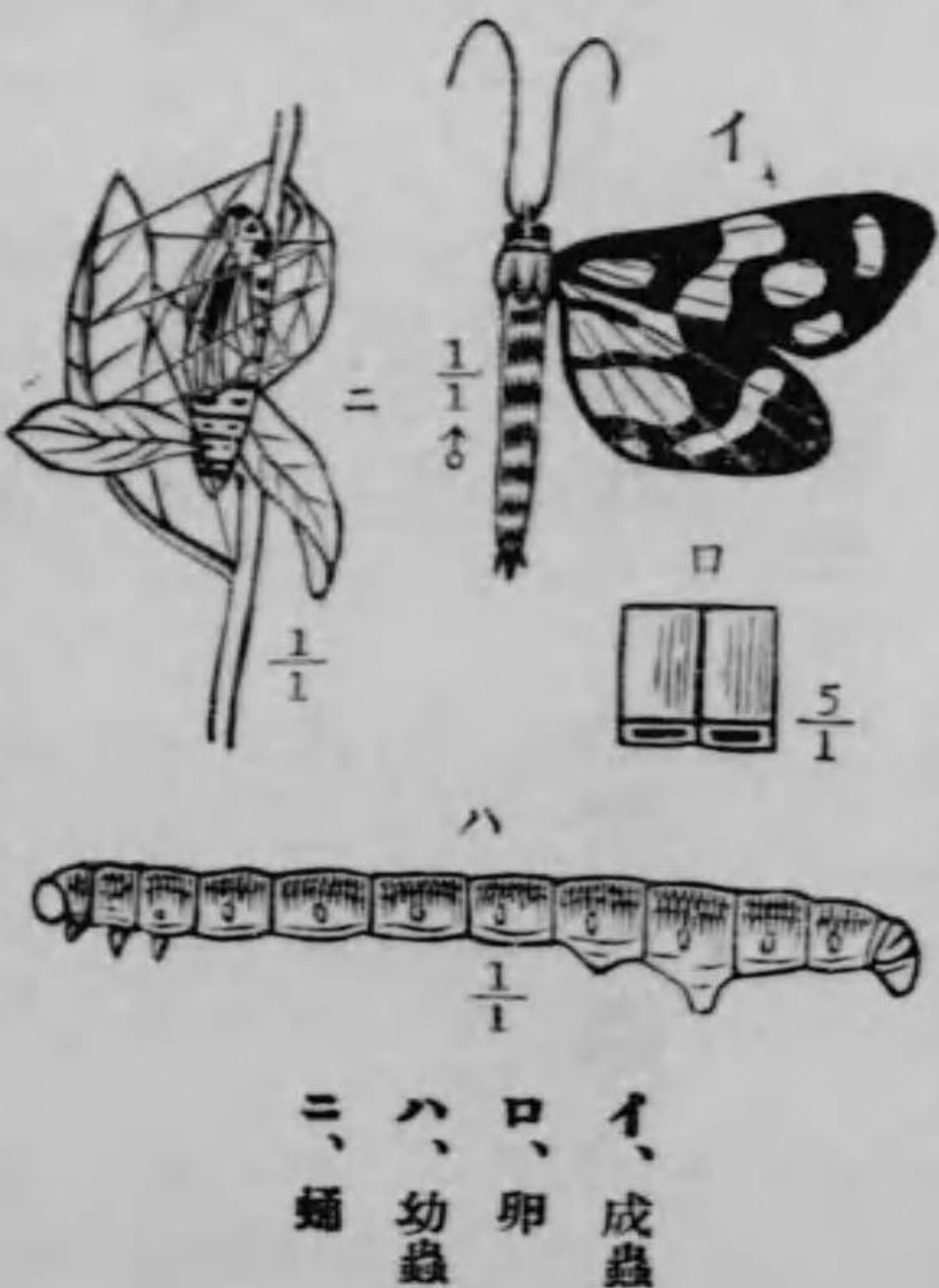
成蟲 體軀は細長く頭部は橙黄色にして複眼及び觸鬚黒し胸腹の兩部は亦橙黄色なるも胸部の中央及び腹節の背面は黒色を呈す前後の兩翅は共に幅

狭くして長く白色なるも其面に雲形の黒き大斑を存す翅縁は總て黒し雌蛾は長け七分、翅の開張一寸七分雄蛾は長け六分、翅の開張一寸五分あり。

幼蟲の老熟せる者は長け一寸四分ありて頭部黒く胸部亦黒色なるも其背線は白く亞背線は濃黒側面

には黄褐、黒、白等の點紋を交へ存じ且皮膚には短毛を散在す、腹脚は只だ二對を存ずるのみ蛹は長け七分黄褐にして體背には黒點紋を存じ翅鞘には數條の長黒條を存じたり。

(圖 三 十 三 第)



イ、成蟲  
ロ、卵  
ハ、幼蟲  
ニ、蛹

卵子 長方形にして薄平たく暗綠色を呈し長け四厘、幅三厘あり。

經過習性 幼蟲は大抵五月上旬頃より産出しボケ、ガマズミ等の葉を蝕害し五月下旬乃至六月上旬に老熟し絲縷を吐き數葉を纏めて巢となし之に蟄して蛹となり六月中旬より化して蛾となり幹枝に一、二粒宛卵子を産付するなり幼蟲の止まる幹枝を搖せば絲縷に縋りて垂下するの特性あり。

豫防及驅除法 産卵の時期に於ては卵子を搜索し之を蒐集して潰殺すべし、幼蟲の止まれる幹枝を敲かば幼蟲は容易に絲縷に縋りて垂下するに依り之を取集めて潰殺するも可なり、又蛹は數葉を絲縷にて纏めたる巢内に蟄するものなれば右の巢も可成蒐集して驅除すべし。

ニモケムシ蛾

學名 *Malacoma neustria* L.



族名 桃毛蟲蛾族

異名 ムメケムシ蛾

成蟲幼蟲等其他加害狀況豫防驅除法等は桃の害虫部に就きて見るべし。

### 第九、桃害虫

鱗翅目

一 桃葉捲蟲蛾 (第三十四圖)

學名 *Tachyptilia subsequella* Hb.

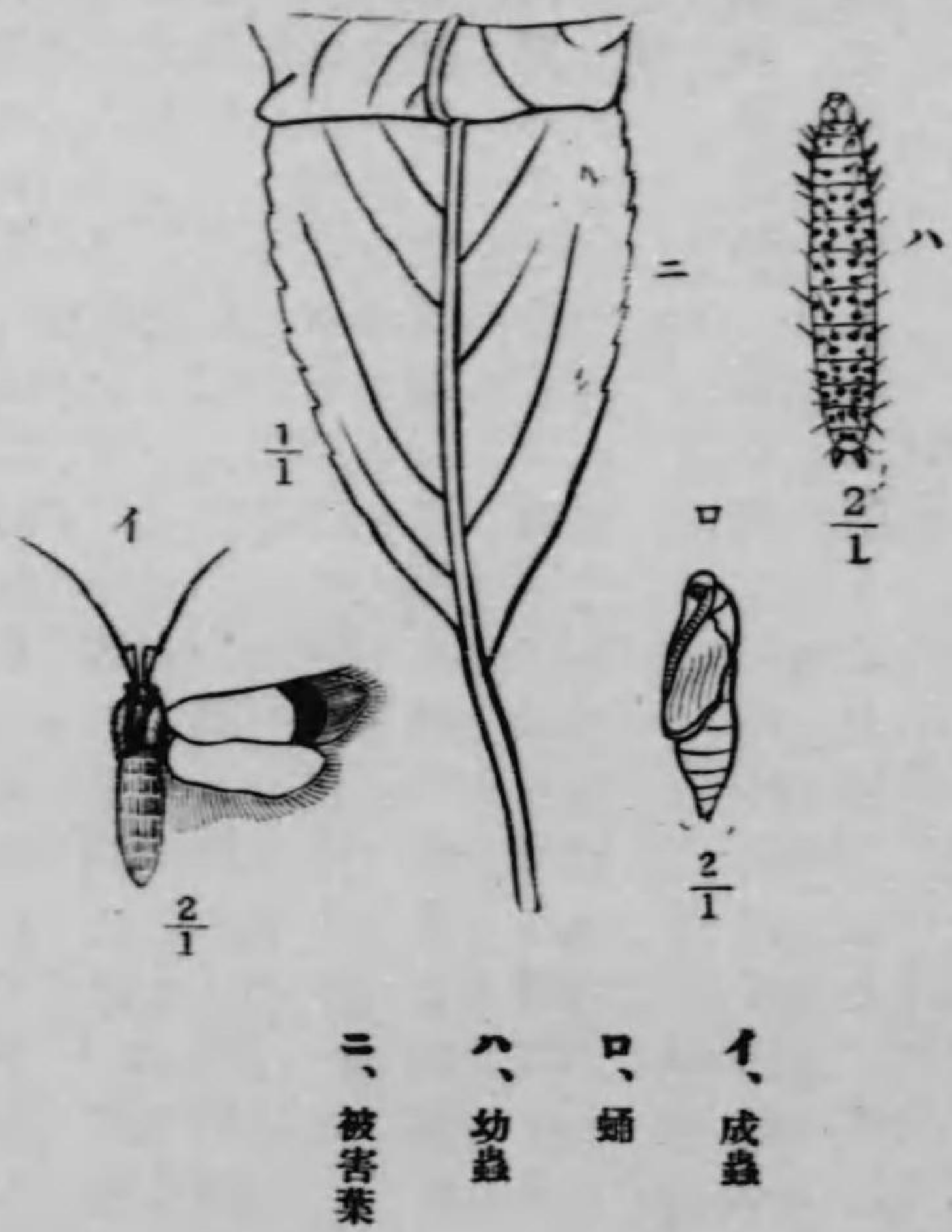
科名 穀蛾首族

方言

成蟲 體軀翅共に暗煤黑色にして複眼は赤褐、觸鬚は絲狀をなし下唇鬚は細

長し、前後の兩翅は共に煤黑色にして前翅の外縁は急に尖り其外半には前縁より後縁に走れる廣き黒帶ありて之と翅尖との間は暗褐を呈し翅尖の上部に於ける翅縁には三個又其下部に於ける翅縁には五個の黒點と存ず後翅は幅廣く灰黑色にして其後縁の内縁に近く生ぜる縁毛は長きも翅尖に向て次第に短くなれり此縁毛は暗灰褐なり、脚は淡灰黄にて蹠節の尖は黒く後脚の脛節には二對の小刺を生じたり體長二分三厘翅

(圖 四 十 三 第)



の開張六分なり。

變態 幼蟲は五月上旬乃至中旬に産出し桃の嫩葉の尖端を卷物形に捲き其



内に棲息して葉を蝕す五月下旬乃至六月上旬に老熟し右捲葉内にて化蛹し六月上旬乃至下旬に化して蛾となるなり幼蟲の老熟せるものは長け四分頭部は淡褐にして胴部は黄色各腹部の亞背線には二個氣門上線には一個の稍や大なる圓黒點を存じ此等の黒點には一毛を生じたり。

蛹は紡錘形にして長け二分五六厘あり圓筒形にして其尾端は稍や尖りたり蛹體は赤褐なるも翅部は淡橙色なり。

加害狀況 此葉捲蟲は専ら桃の嫩葉を蝕害するものにして往々甚しく其蝕害に罹ることあり此蝕害に罹りたる新條は多少其生長を妨げらるゝものなりとす。

豫防及驅除法 幼蟲發生の時期に於ては時々桃園を見廻り蝕害に罹りたる嫩葉を目撃する時は嚴く之を掻き取りて笈などに入れ多く之を蒐集したるを待ち一纏めとなして燒棄て害蟲を燒殺すべし。

### 二 桃穿葉蛾 (第三十五圖)

學名 *Lyonetta clerkella*, L.

族名 穀蛾首族

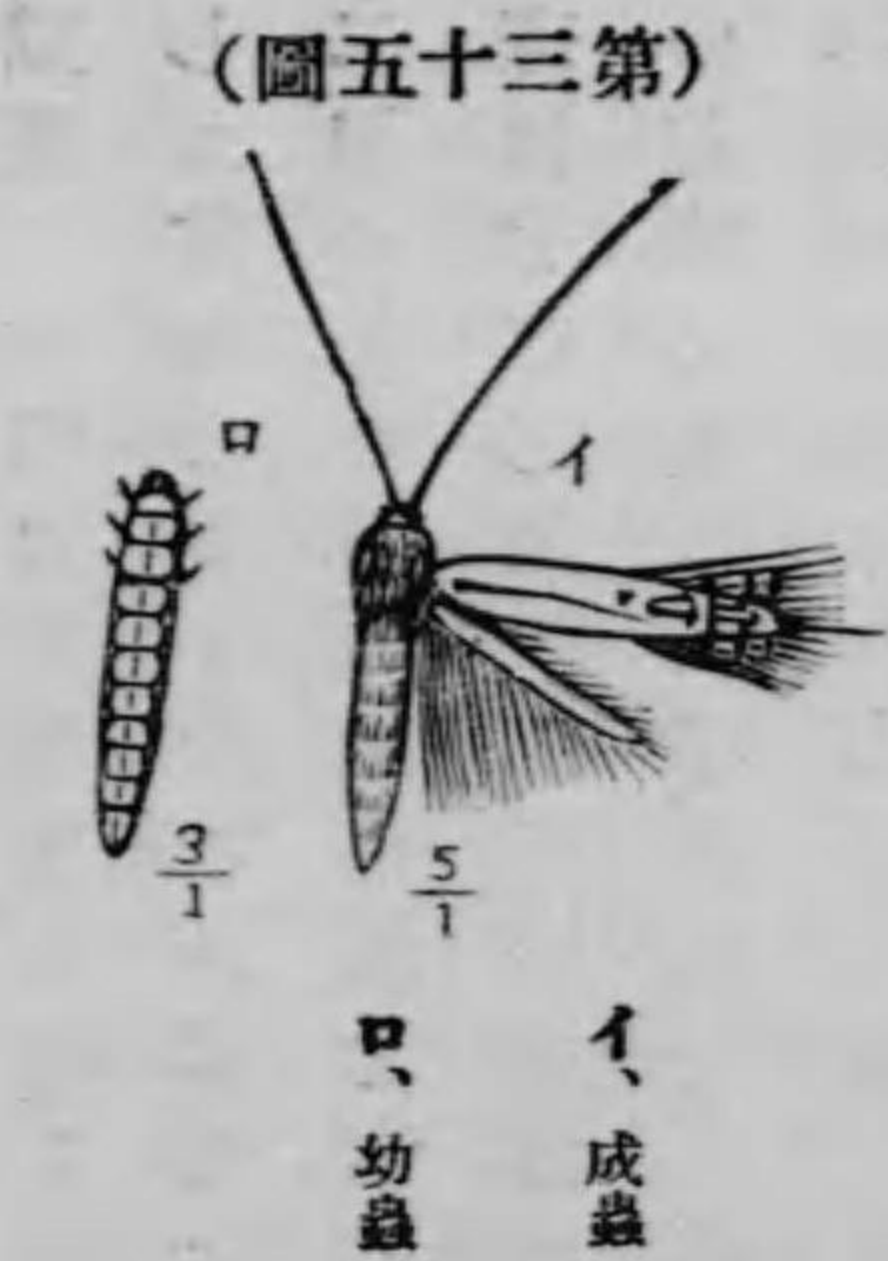
方言 桃えかきむし蛾、モモノハムグリ蛾

成蟲 雌蛾は體軀雪白にして觸鬚は體より長し翅は前後共に同じく雪白にして前翅の尖りたる外縁部には二個の橙黄色の橢圓紋あり此兩紋の間には二個の矢の羽の黒褐斑を存じ外部の橙黄紋の尖端に黒色其左右には黒褐の斑紋を存じ又内部の橙黄紋は同じく黒褐斑にて取巻れたり尙ほ前翅の外半の前縁に短き縁毛、後縁には著しく長き縁毛を並列せり、後翅は幅極めて細く其外縁は尖り其前後兩縁に於ける縁毛は淡灰紫色なり、前縁の縁毛の短きも後縁の縁毛は著しく長し、但し此縁毛は外縁に向て次第に短かくなれり、雌蛾は體長一分一厘、翅の開張二分七厘あり。

變態 幼蟲(穿葉蟲又えかきむし)は桃類の新葉開發の時期(五月)に出で其嫩葉の縁より蝕入りて組織を食し進行するに従ひ其跡に蠕形の細溝を穿つ幼蟲



は成長するに従つて次第に溝幅廣くなる此溝の止まる處は他の部分よりは常に幅廣きを常とす、是れ幼蟲は次第に成長し體の肥大するが爲めなり、又幼蟲が通り過ぎたる溝の中央に黒き一線の走れるものあり、是れ幼蟲の排出する糞の連続せるものなりと知るべし、斯くて五月下旬乃至六月に至り幼蟲の老熟する時は溝を辭し出で加害葉の縁近く



這ひ行き此所にて絲繭を吐き小さき紡錘形の繭を營み之に蟄して蛹となり後數日を經て化して蛾となる、此蛾は再び桃類の葉に産卵し之より出でたる幼蟲は再び嫩葉を蝕害するが如し故に此幼蟲は少くとも二回發生

するもの如し。

幼蟲の老熟せる者は長け約二分、體は扁平にして長く尾端に向て次第に細まりたり、頭部は橙黄色なれども口部は褐色なり、軀節と軀節との接線は絞れたるが故に各軀節の側面は多少腫起したる如くに見ゆ、第一乃至第三胸節には

各々一對の暗褐色點を存じ胸腹兩脚は之を缺く。

繭は紡錘形にして長く雪白なり、長け約一分、通常其兩端を葉裏の縁に絲繭にて緊着す。

**加害狀況** 幼蟲は主に嫩葉に寄生し之に蠕蟲様の蟲孔を穿てるが故に葉は衰弱し従て嫩條の生長を妨ぐることも多し。

**豫防及驅除法** 被害葉は多少其着色健康より異なり、且其面には蠕蟲の這ひたるが如き痕跡あるものなれば此特徴を呈せる葉は嚴く蒐集して燒棄て之に寄生する幼蟲を殺して其蕃殖を杜絶すること肝要なり。

三 桃新芽尺蠖蛾 (第三十六圖)

學名 *Hemiteha Sasaki Mats.* (*Gelasma illurata* Walk.)

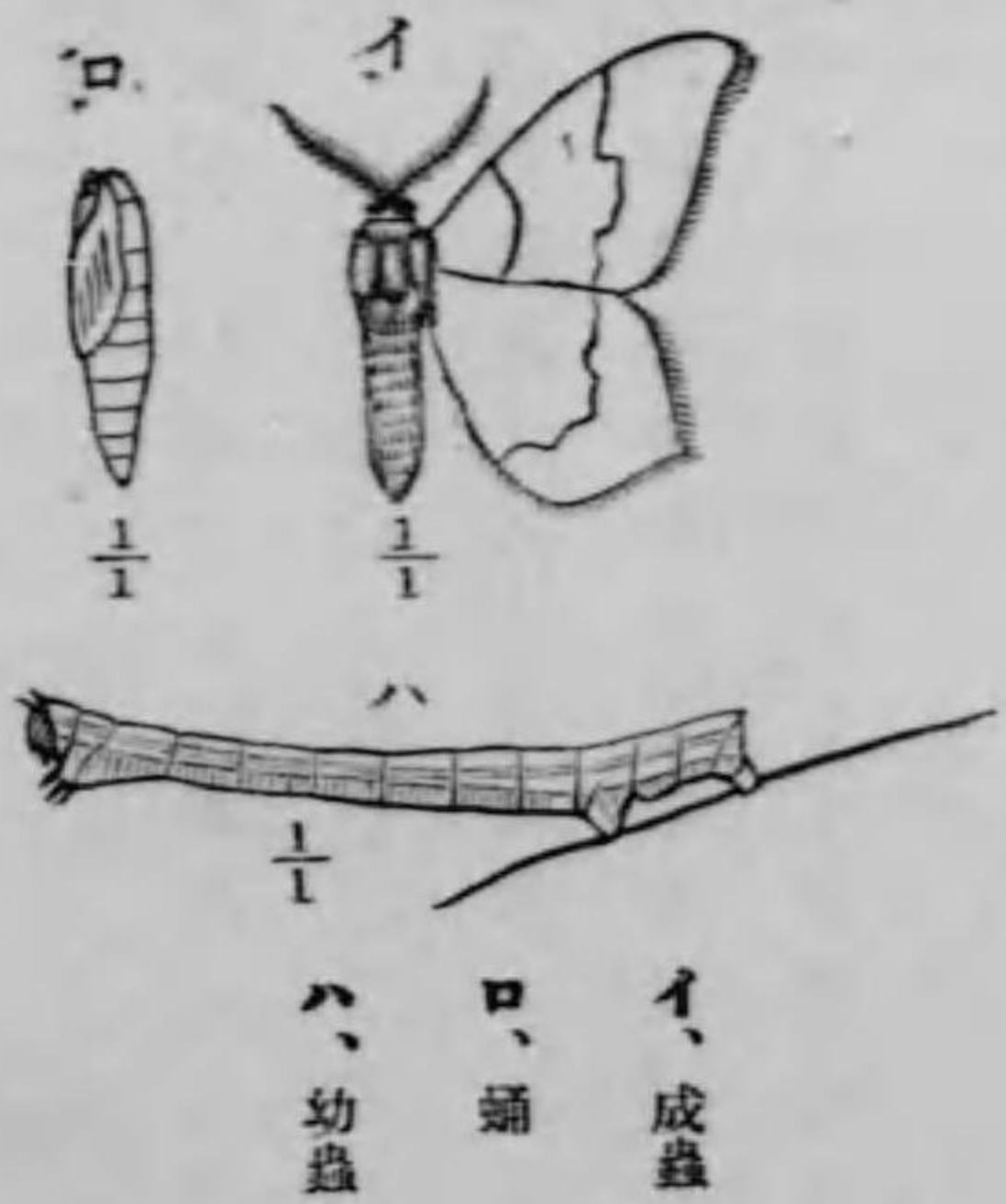
族名 尺蠖蛾族



形態

成蟲 雌蛾は體軀綠色にして複眼黒く觸鬚には櫛齒あり、前後の兩翅は共に綠色にして其外縁には淡黄の縁毛を生ず、前翅の中央部は着色稍や濃厚にして其内外兩側には翅の前縁より後縁に向ひ淡緑波狀線の走れるものあり、後翅にては其中央部に前縁より後縁に向ひ一條の淡緑波狀線を縦走せり、體長は約五分、翅の開張一寸一二分あり。

(圖 六 十 三 第)



層濃厚なり、胸脚は黄緑にして少く桃色を帯び、腹脚は二對ありて綠色なり。

幼蟲 老熟せる者は長け一寸以上あり、頭部は赤褐色にして同色の二角を具へ、且第一軀節の背面にも極めて短小なる赤褐の二凸起を具へたり、胴部は綠色なるも少く黄赤色を帯び、其腹面は着色一

蛹は圓筒形にして長く長け五分六厘あり、着色は灰褐にして尾端は尖り翅鞘は稍や灰色を帯ぶ。

經過習性 幼蟲尺蠖は四月下旬より産出し桃樹の新芽に止り之を蝕害す、五月下旬より老熟し其尾端を樹枝に固着して垂下し脱皮して化蛹し六月中旬より化して蛾となるものなり。

幼蟲の新芽を蝕するは主に夜間にして晝間は新芽の嫩葉間に止まる幼蟲の着色形狀共に新芽に酷似するが故に之を認むること容易ならずと雖ども嫩葉の虫害を受けたる新芽に就き幼蟲を搜索せば之を検出することを得るものなり。

加害狀況 新芽が虫害を受けたる時は其嫩葉は多く蝕害せられ新條の發育を妨碍すること多し。

豫防及驅除法 新芽の新條間に止まれる幼蟲は之を直接求むること容易ならざるも虫害を受けたる葉の有無を調査し之に依て驅蟲の手續きを爲すべし、但し虫害を受ける新芽を検出せば之を摘取り害虫を驅除し他の新芽に移



り害虫を及ばせしむるを要す。

四 桃イモムシ蛾 (第三十七圖)

學名 *Amphipyra pyramidea* L. var. *monolitha* Gn.

族名 夜盜蛾族

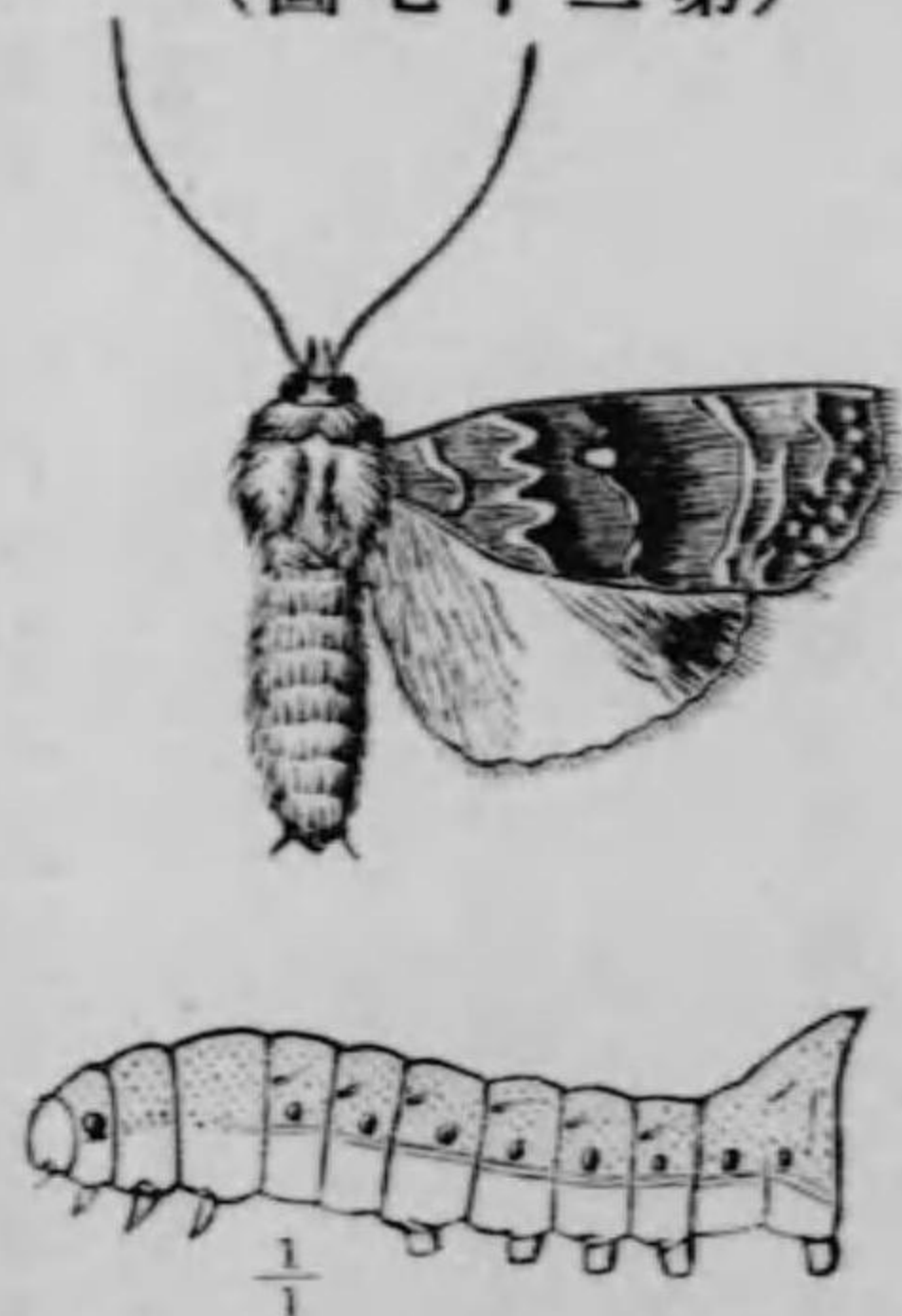
異名 シラガラス

形態

成蟲 中庸大の蛾にして雌蛾は肥へ頭胸の兩部は黒褐にして灰黄毛散生す腹部は鼠色にして背面は灰黒各腹節の側面には灰白毛を群生す又腹部の末端には灰褐の長毛を生ず前翅は殆ど長方形にして灰褐を呈したれども其内半の着色稍や薄く同翅の前縁より後縁に向ひ二條の灰黄波條を走らし波條の兩側は黒し中央には前縁より後縁に向ひ濁き黒褐條を走らし其外縁には

濃き白波線あり又同翅の外縁に近き處には二條の淡褐波條を走らせり尙ほ同縁は小波狀に凹凸す後翅は殆ど三角形にして内半は黄白色を呈し外半は橙褐色を呈し前縁部は灰褐縁毛に灰褐色灰黄色等の斑あり體長八分翅の開張一寸八分あり幼蟲の老熟せる者は長け一寸一二分ありて肥へ頭部は淡綠色にして二白條を存じ胴部も亦淡

(圖七十三第)



イ、成蟲  
ロ、幼蟲

綠色なるも青白く各軀節の背面には小白點を散布し且其左右兩側には各々一白線紋を存ず氣門下線は黄緑にして第十一及び第十二軀節の背部は著しく發達して平坦なる三角板をなし其尖端は黄緑を呈す

經過習性 幼蟲即蠋は四月下旬乃至五月上旬に産出し桃、梅等の葉を食とし五月下旬老熟し土中に入りて土粒を纏めて結繭し蛹となり六月下旬より化して蛾となる。



**加害状況** 幼蟲は一頭にても葉を貪食すること多きも其發生は普通多からざるが故に大害をなすことなし。

**豫防及驅除法** 幼蟲は着色葉に酷似するが故に之を捕殺すること容易ならざるも幸ひに多數の産出を見ざるが故に差したる虫害を餌植物に及ぼすことなし。

五 桃綠尺蠖蛾 (第三十八圖)

學名 *Alsophila membranaria* Christ.

族名 尺蠖蛾族

異名 ウスバフユシヤク

形態

**成蟲** 雌雄の蛾は全く其外形を異にし雌蛾は翅を缺き雄蛾は翅を具ふ雄蛾

(第三十八圖)



は體軀灰色にして翅を缺く體長二分五厘あり雄蛾は淡灰褐色にして翅は比較的太形にして濶く前翅は殆ど三角形にして淡灰褐色を呈し其中央には濃褐の濶帶紋を存じ同帶の上右側には一黒點を存じ外縁に沿ふては黒褐點を縦列す、後翅は帶黄灰白色にして其上縁に近く

一黒點を存じ外縁に沿ふては黒褐點を縦列す、體長三分、翅の開張一寸二分あり。

**卵子** 球狀にして綠色を帯び食樹の幹枝に五

六十粒宛一纏めに産卵し母蛾の軀毛にて之を

覆ふ、幼蟲の老熟せる者は體長七分前後あり、亞

背線及び氣門上下の兩線は淡黄を呈し第四及

び第五の腹脚は發達し他の腹脚は退化せるも

第三腹脚は不完全ながらも其痕跡を存じたり、

繭は小橢圓にして長け三分外面は土粒にて被はれり、蛹は殆ど紡錘形にして帶黄綠色なり。



**經過習性** 成蟲は十二月中に孵化し出で雌蛾は食樹に這ひ上り其幹枝に産卵す此卵子は越冬し翌年の四月上旬より孵化し幼蟲即ち緑尺蠖となり桃樹の新芽嫩葉等を食蟲す四月下旬乃至五月上旬漸々老熟し幹枝を降り土中に入り營繭化蛹するものなり。

**豫防及驅除法**

- 一、成蟲の羽化期に於ては桃幹の根際より少く隔りたる處にコールター、タンゲルフート等を帶形に塗付け雌蛾の根際より這ひ昇らんとする者を防ぐべし。
- 二、冬期落葉の時期に於ては幹枝に就きて卵子を搜索し之を取集めて潰殺すべし。
- 三、鳴禽類は多くは好んで此尺蠖を啄食するが故に右等の小鳥は可成愛護し其蕃殖を圖ること肝要なり。

六 桃ヤニ蟲蛾 (第三十九圖)

學名 *Sannin* sp?

族名 擬蜂蛾族

異名

**形態**

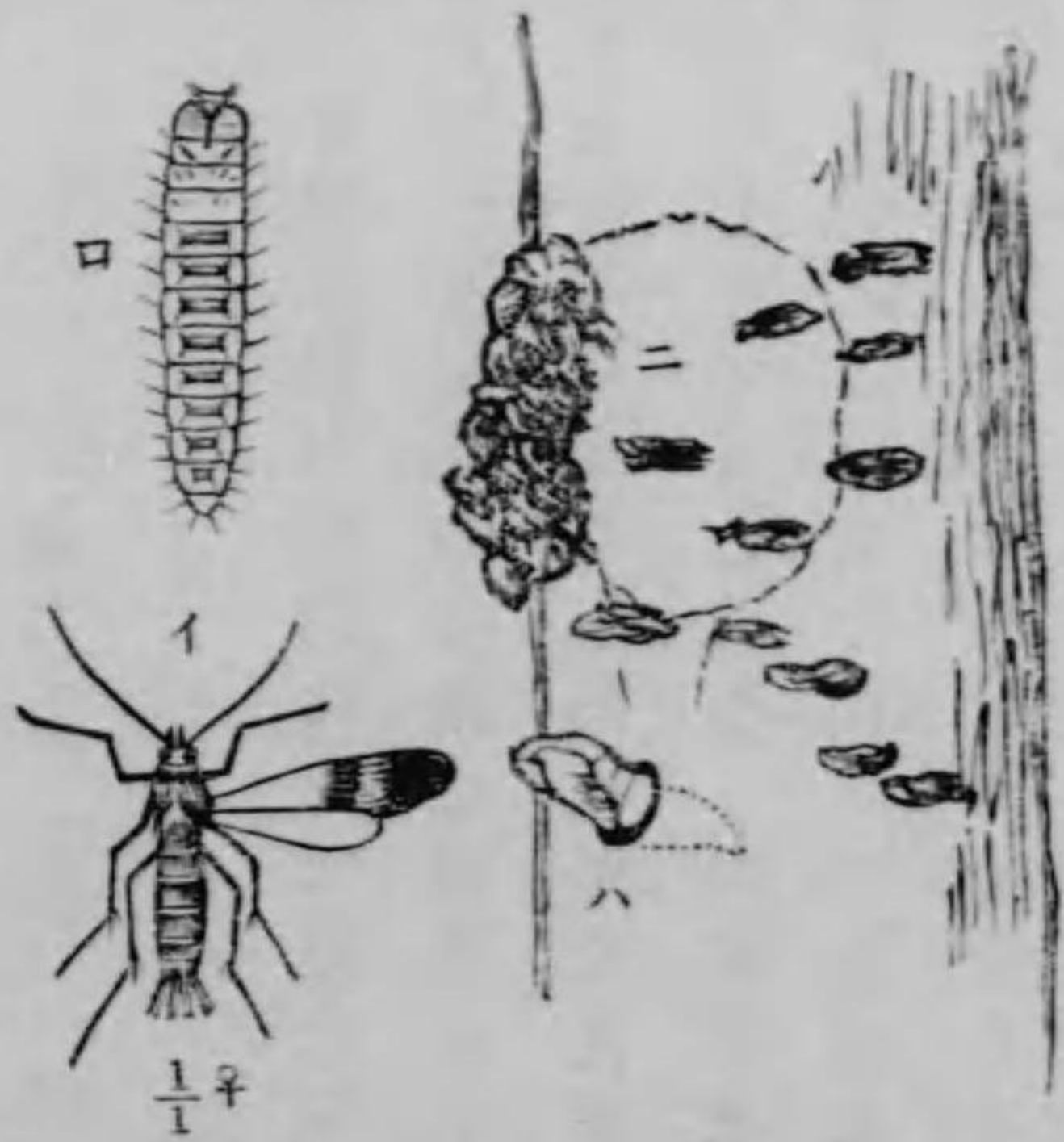
**成蟲** 雌蛾は體軀紺色にして黑色を帯び觸鬚及下唇鬚は黒きも下唇鬚の裏面は黄色なり、腹節の接線は黄色を呈し腹端には四本の毛束あり、四翅は透明なるも前翅の外半の中央は黒く此黑色部の左右は黒き紺色の帶紋あり後翅には斑紋を存することなし、脚は黑色なるも其環節の接線部は黄色を呈し且脛節の外端には二刺を具へたり、體長約五分、翅の開張約一寸あり。

幼蟲は圓筒形にして長け六七分あり、淡黄色にして皮膚には赤褐毛を散在す頭部は暗赤褐にして上顎は前面に伸出し其内側には齒狀の數凸起あり、第一軀節の背板は殆ど橢圓形にして二條の暗赤褐の斜線あり、第十一軀節の氣門は一層大にして同節の背面の側部に開きたり、胸脚及び腹脚は軀色と同様に



して腹脚の末端には暗褐の細かなる爪を環狀に均列す。  
繭は長く紡錘形にして繭層には多く木層を綴り込めたり蛹は褐色にして殆ど圓筒形なり。

(圖九十三第)



經過習性 幼蟲は六月上旬より現出し桃の幹又は太き枝又りに蝕入りて材部及カムビアム層を蝕害す其患部よりは常に蟲糞と多量の樹脂を漏出するが故に幹枝を衰弱せしむること少からず斯くて七月上旬頃幼蟲は老熟して加害部中に化

る栗樹の蟲孔に棲息するの特性あり。

豫防及驅除法 幼蟲が桃に發生したる時は其幹枝の被害部より蟲糞と樹脂の漏出するものなり小刀の尖にて此等蟲糞樹脂等を取除き續きて深く蟲孔を捜さば其奥に害蟲を検出すべし之を引出して殺すべし右の如く蟲糞と樹脂との漏出部より害蟲を除去すれば容易に蟲害を免かるることを得べし一度害蟲を除き去れば蟲糞及び樹脂の漏出は停止するものなり又右の漏出せる處より往々蛹は其前半身を出だし空蛹となりたる者は成蟲の産出せるものと見做して可なり固より害蟲は桃の幹枝に蟲孔を穿ちて之に侵入するものなるも若し幹枝の傷きたる處ある時は此傷口より幹内に侵出すること多し。

七 桃毛蟲蛾 (第四十圖)

學名 *Clisiocampa neustra*



族名 桃毛蟲蛾族

異名 テンマクケムシ蛾、ムメケムシ蛾

形態

成蟲 中庸大の蛾にして雌雄は其着色大さを異にす、雌蛾は雄蛾よりは稍や大形にして體軀翅共に灰黄にして前翅の中央には前縁より後縁に向ひ濃褐色の二線の平行して走れるものあり、此二線は互ひに相隔たりて一個の廣き帯紋を區畫す體長六分、翅の開張一寸六分餘あり、雄蛾は雌蛾よりは小形にして體軀及翅の着色稍や濃厚なり又前翅に存する帯紋は濃褐なり、體長四分餘、翅の開張一寸一分あり。

幼蟲の老熟せる者は長け二寸前後あり、頭部胴部共に淡灰青色にして亞背線は黄色氣門上線は亦黄色なるも其上側には每軀節黒斑を存じ第一軀節の背面には二個第十一軀節の背面には一個の大黒斑を存じたり、體軀の全面には灰黄各種の毛を雜生し且各軀節の背面には二個の毛瘤を存じ之に黒き長毛を生じたり。

繭は殆ど紡錘形にして長け一寸餘あり、淡黄色にして其面には白粉を被れり。卵子は圓形にして長け二厘あり、灰褐を呈し其一端の中央には黒點を存ず。

經過習性 幼蟲(モメケムシ)

又ムメケムシと云ふは四五

月より産出し薔薇、櫻、桃李

梅、ボケ、櫻其他數種の植物の

葉を蝕害す、通常絲繭を吐き

枝間に天幕様の巢を營み之

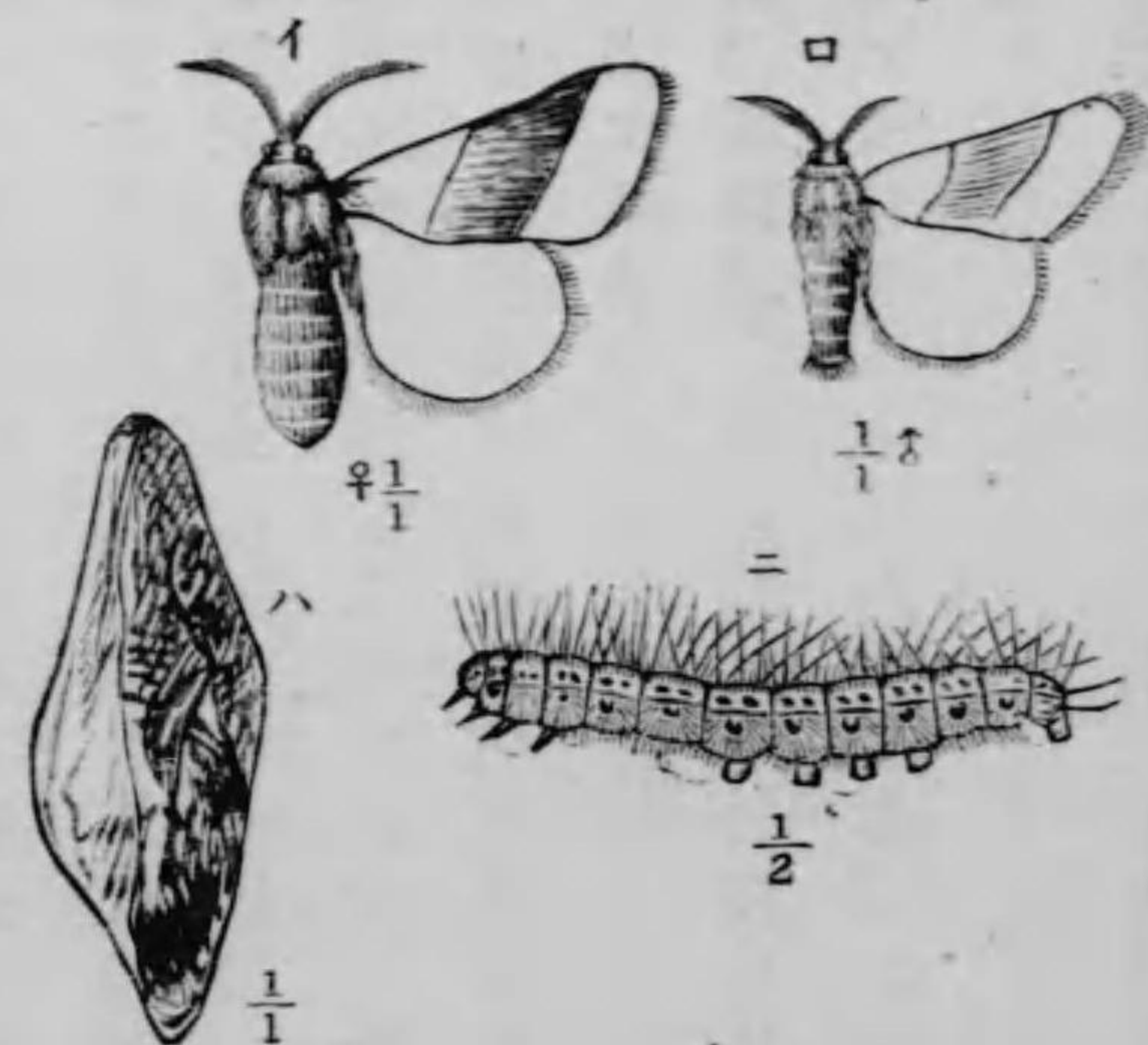
に群居し嫩芽、嫩葉類を食す

幼蟲は生長するに従て巢を

増大し夜間は巢内に匿れ居

り晝間は巢より出で枝を傳ひ歩るきて葉を食するも雨天若くは曇天なる時は晝間と雖ども巢を出づることなし、幼蟲の成長する時は各枝に散在し又巢

(圖 十 四 第)



イ、成蟲雌

ロ、同雄

ハ、繭

ニ、幼蟲



に入ることなし、五月下旬以來續々老熟し各所に這ひ行き絲縷を吐き繭を營み蛹となり、六月下旬以來化して、蛾となり幼蟲の食樹に産卵す、此卵子は冬日を經過し翌年四五月に至り孵化するなり、卵子は常に食樹の細き枝を選び之に帶形に産付するの特性あり。

**加害狀況** 桃毛蟲は往々多く産出し嫩條の葉を蝕して之を裸にすること敢て罕ならず斯く葉を失ひたる枝を検出することあらば其附近の枝又蟲巢の存するものなり、場合に依りては葉は悉く蝕ひ盡されて蟲害を受くること大なることあり。

**豫防及驅除法** 終日落葉後に於て被害樹を見廻り卵子の附着せる枝を蒐集し之を潰殺するを最も有效なりとす又幼蟲の産出したる時は其巢内に群居せる時期即ち早朝に於て巢と共に幼蟲



を燒殺するを便利なりとす、尤も之を燒

棄するには細き竹竿の先きに欄縷類を針金にて括り付け之に石油を浸し火を點し次て此竹竿の尖きを蟲巢に近づけ燒棄するを良しとす若し欄縷の燒

失したる時は更に欄縷を括り付前陳の如く之に石油を浸し火を點じて使用すべし。(第四十一圖)

### 八 桃鐵砲蠶蛾 (第四十二圖)

學名 *Hepialis* sp.

族名 燕蛾族

異名

形態

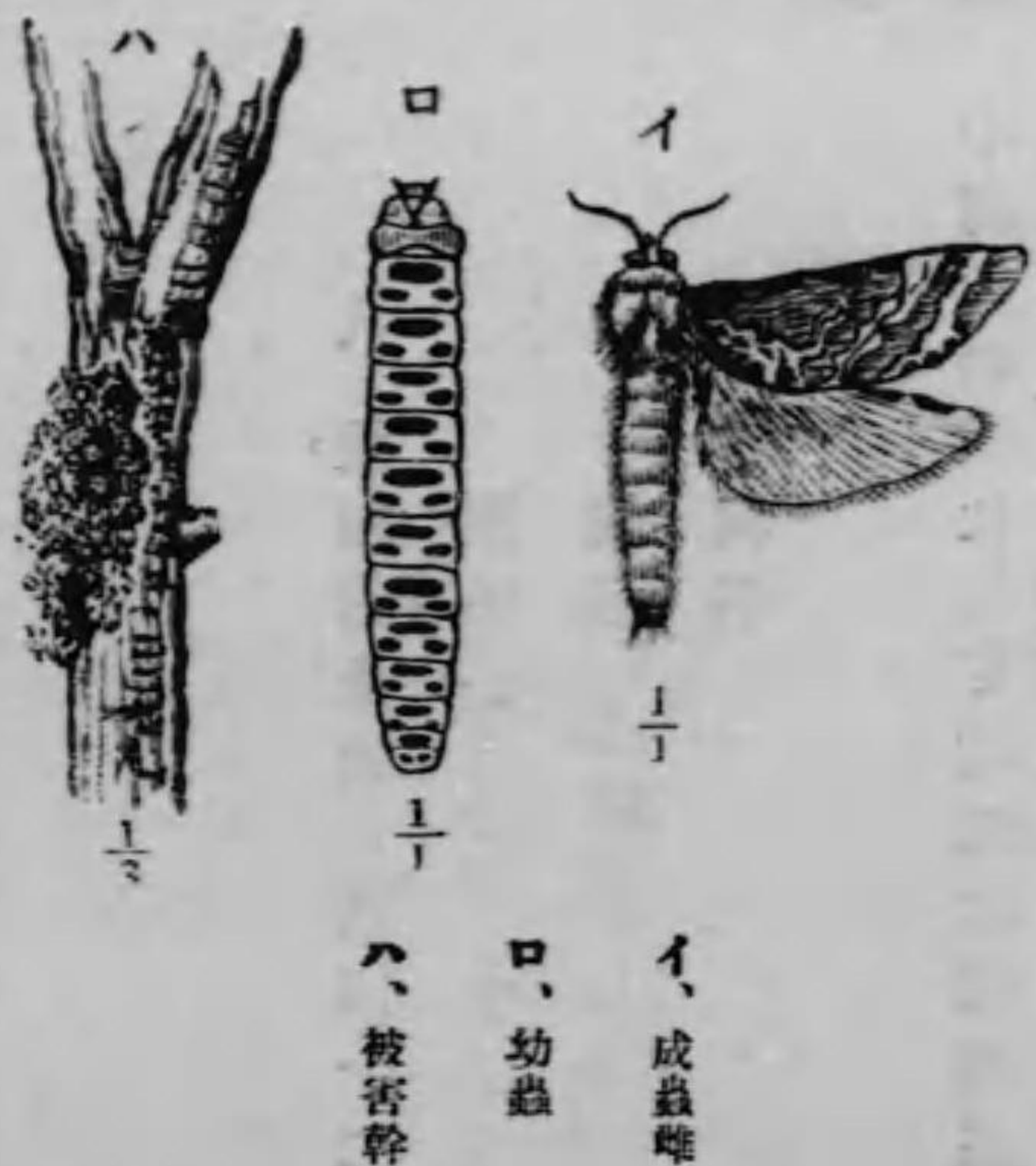
**成蟲** 中庸大の蛾にして雌蛾は體軀茶褐色を呈し頭部は小さく複眼は黒褐觸鬚は茶褐にして頗る短し胸部の後縁と同部に接する腹節には灰色の長毛を簇生す、翅は前後共に幅狭くして長く前翅は濃茶褐にして其前縁の内半には四黒斑を並列す、又翅面には前縁より後縁に向ひ三個の淡褐條を斜走し同



條の兩側には小黑點を散布し内縁の下半は淡灰褐を呈し二個の大なる黒點と二三の小黒點とを存じたり、後翅は濃灰褐にして其前縁に沿ひ二個の長翅を存ず、體軀は長け八分、翅の開張一寸五分あり。

幼蟲鐵砲蟲の體は殆ど圓筒形にして長け一寸一二分あり、頭部は大にして赤褐を呈し第一軀節の背板は淡赤褐を呈し胸部は淡綠褐にして尾端に向て稍や細まりたり、各軀節の前半には一個の大なる長橢圓の灰褐斑を存じ後半には二個の同色小斑を横列し氣門上線には一個の橢圓灰褐斑を又氣門の後側には大

(圖 二十四 第)



小二個の灰褐圓斑を存じ且各斑には單毛を生じたり。  
經過習性 幼蟲は桃の幹内に棲息するにして大抵八月下旬に到らば幹内の

蟲孔にて絲縷を吐き木屑蟲糞等を纏めて巢となし之に蟄して化蛹し十月上旬化して蛾となる、惟ふに雌蛾は桃幹の根際産卵し此卵は間もなく孵化し幼蟲となし幹内に蝕ひ入り翌年の八月まで此處に棲息するものならん。

加害狀況 幼蟲は大抵四五月より八月頃までは幹内の木質を蝕するものとして此間は幹面に開ける蟲孔より蟲糞木屑等を漏出す斯く蟲害に罹りたる幹は勢力衰へ或は枯死に類することあり。

豫防及驅除法 幼蟲産出の時期には被害樹を檢查すること肝要なり、雌蛾は往々樹面に止まるものなれば之を捕殺すべし、又幹面より新鮮なる蟲糞木屑等の漏出せる時は必ず同幹内には幼蟲の存在するものなれば其蟲孔より相當の藥液を注入し害虫を殺すべし、此藥液には種々ありと雖ども就中除蟲菊粉の火酒エキス或は魚藤の浸液を水銃にて蟲孔内に注入するを有效なりとす此法を施行する時は害虫は往々幹面の蟲孔より這ひ出でんとすることあり此際は鎌子の類にて害虫を摘出して撲殺すべし。



九 桃の豹紋蛾 (第四十三圖)

學名 *Astura punctiferalis*.

族名 髓蟲蛾族

異名

形態

成蟲 雌雄の兩蛾共に體軀細くして橙黄色を呈し黒點を散在す、複眼は黒く胸部には數個の黒點を存じ其中央に在る一點は稍や大なり、翅は體軀に均しく橙黄色にして其面には數多の黒褐點紋を散在し且其外縁には淡黄色の縁毛を並列す、體長約四分五厘餘ありて翅の開張八分五六厘あり、雌雄の主なる區別は腹部にあり即ち雌蛾の腹部の末端は稍や尖りて黒し雄蛾の腹部の末端は鈍頭をなし之に存する黒點は稍や小なり。

幼蟲 褐色裸蟲の老熟せる者は長け七分前後あり、頭部及第一軀節は黒褐胸部は赤褐にして少く紫色を帯び腹面は淡洋紅色なり、各腹節の亞背線には二個、氣門上線及下線には各二個基礎線には一個の橢圓紋ありて之に粗毛を生ず。

繭は長橢圓にして稍や平たく繭質粗惡にして灰白其面には木屑を着けるが故に灰黄色を呈す。

蛹は長橢圓形にして長け四分五六厘幅一分餘尾端尖れり。

卵子は橢圓形にして長け三四厘一面は洋紅色にて地面は黄色なり。

經過習性 幼蟲は大約六月下旬乃

至七月上旬に産出し桃果内に蝕入

り果肉を食し同月下旬より續々老

熟し數果を絲にて綴り巢となした

る者の内に營繭するか或は幹枝を

這廻り樹皮の剥れたる處或は裂目

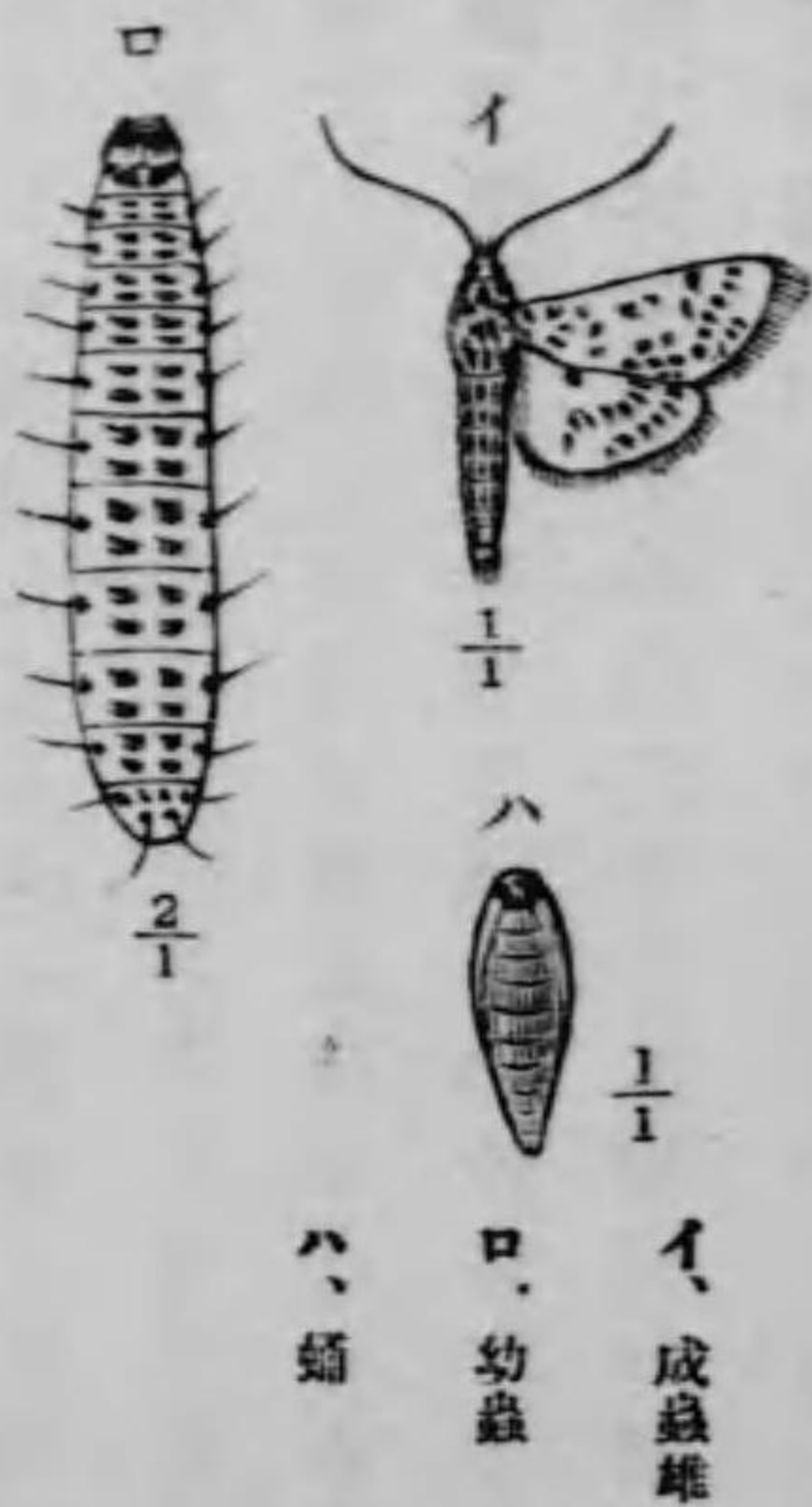
割目等に入り絲縷を吐き粗繭を營み繭面は木屑にて被はる幼蟲は繭内に蝕

したる後大抵三四日にして化蛹し後一週日(八月上旬)を経て蛾となり晩桃の

果又は栗果に産卵す此卵子は數日にして孵化し幼蟲となり九月下旬頃より

老熟し初め再び粗繭を營み之に蝨するも化蛹することなく其儘にて冬日を

(圖三十四第)





輕過し翌年の五月以後化蛹し次て蛹となり産卵するものなり故に此蛾は一ケ年に二回産出す、即ち二化蟲なり蛾は常に桃果面に縦走せる溝内に産卵するものなり。

**加害狀況** 此の害虫の發生したる時は多數の果は虫害を受け生長すること能はずして腐熟し食するに堪へざる時は他果に移り行き同く之を腐熟せしむるものなり、又果の虫害に罹りたる時は數果は絲縷にて綴られ蟲糞にて被はるが故に容易に被害果を認むることを得べし。

**豫防及驅除法** 虫害に罹りたる果を認めたる時は嚴く之を蒐集して害虫を驅除すべし、又化蛹期に於ては桃樹の裂目、破目等に就き繭を搜索し之を取集めて驅除すべし。

一〇 桃の心折り蟲蛾 (第四十四圖)

學名 *Laspeyresia molesta* Busck.

族名 葉捲蟲蛾族

異名 梨姫心食蟲

**成蟲** 頭胸の兩部は共に暗灰色にして腹部は灰白なり、複眼は暗赭色にして觸鬚は絲狀なり、前翅は灰色なるも其中央には三個の黒き灣條前縁より後縁に向て走れるものありて其外部に於ける一灣條は前縁に向ひ二又に分たる又同翅の前縁に沿ふては黒白の短線を互ひ違ひに均列し又外縁は灰色にして此處に數多の黒點と同色の短線紋を存ず縁毛は暗灰褐なり、後翅は濃灰色にして其縁毛は淡灰色なり、體長一分五厘、翅の開張四分あり。

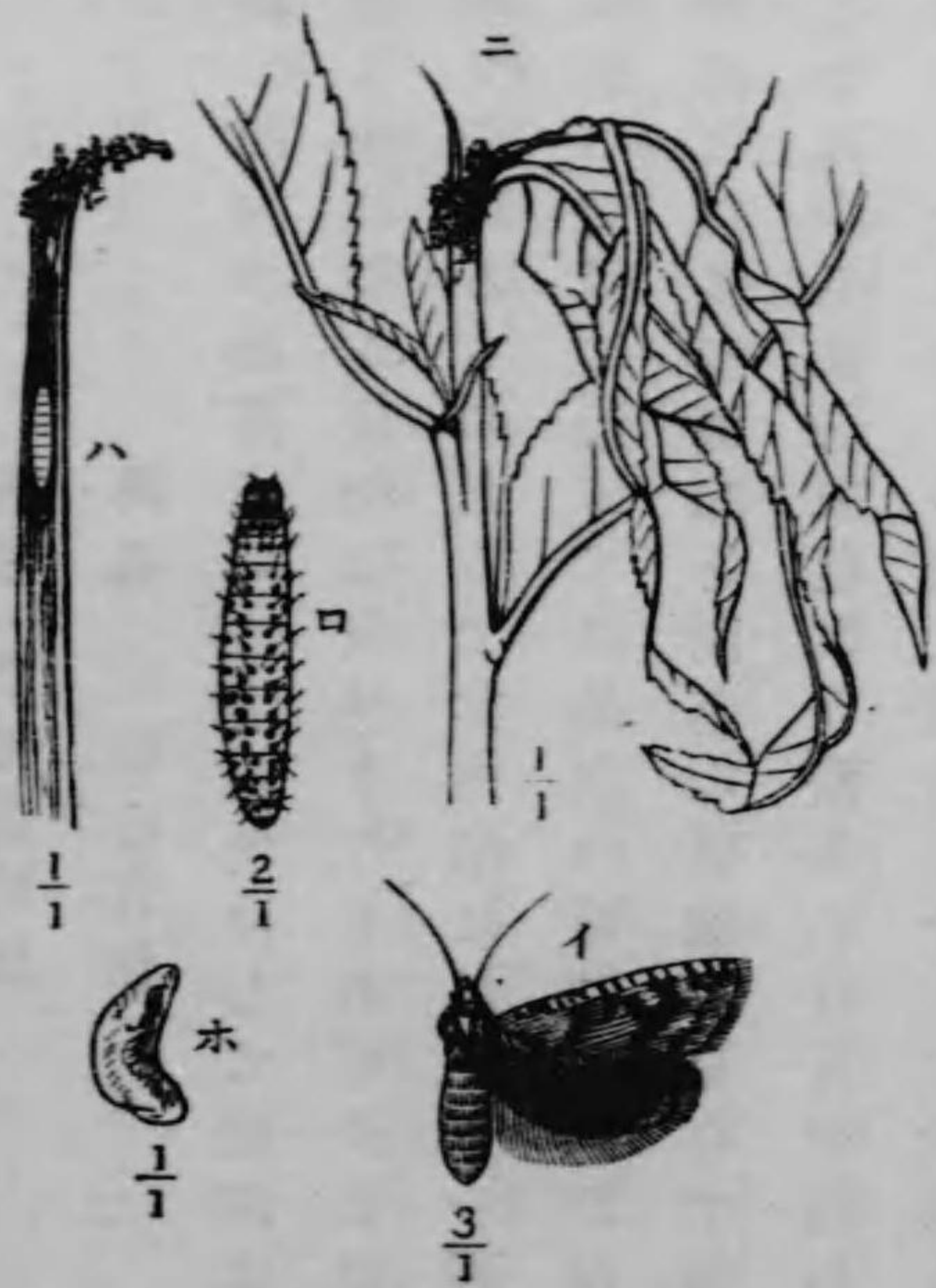
**幼蟲** 幼蟲老熟せる者は體長三分五厘餘あり、體軀は圓筒形にして前後の兩端は稍や細まり頭部は暗褐にして其後半には黒斑を存ず、胸部は暗橙黄色なるも其後半は紅色を帶ぶ、第一胸節と第九腹節の背面には淡褐板を存ず、各軀節には褐色板ありて之に毛を生ず。



蛹 蛹は長圓筒形にして赤褐色を呈し長け二分三厘あり、繭は紡錘形にして白く普通土粒にて被はれたり。

經過習性 幼蟲は五月上旬頃より産出し桃の新條内に棲息し其内容を蝕して溝を穿ち且條面

(圖 四 十 四 第)



イ、成蟲雌  
ロ、幼蟲  
ハ、新條内ノ幼蟲  
ニ、被害新條  
ホ、繭

て溝を穿ち且條面には小孔を穿ちて之より排泄物を漏出す、斯く虫害を受けたる部分より末端に至る迄は大抵衰弱し葉は萎縮し遂に枯死するものなり、虫害の甚しき

時は嫩條は悉く枯死し完全に生長するものなし、五月下旬乃至六月上旬には幼蟲は漸次老成し被害條を辭出で枝幹を傳へ下りて土中に入り結繭して蛹

となり後十日前後を経て化して蛾となるものなり。

豫防及驅除法 新條の虫害に罹りたる者は大抵被害部より折れて垂下するものなれば遙に之を望むも容易に被害條を認むべし、是等の條は可成蒐集して幼蟲を驅除し翌年發生の害虫を豫防すること肝要なり。

甲翅目

一 桃芽喰象蟲 (第四十五圖)

學名 *Scepicus insularis* Roelof.

族名 口廣象蟲族

異名

形態

成蟲 體は殆ど紡錘形にして暗赤褐を呈し短黄色毛にて厚く被はる、頭部は



小形にして複眼小さく觸鬚は長く脰形に彎曲し十節より成り基節の一節は頗る長形にして末端の一節は太くして紡錘形を爲す、前胸は殆ど紡錘形なるも後縁の幅は前縁の約三倍あり、翅鞘は亦殆ど紡錘形なるも其外縁は少く尖りたり、脚は何れも長大にして太腿節は頗る發達し第三蹠節は二片に分れたり體長二分餘。

イ、成蟲  
經過習性 未詳

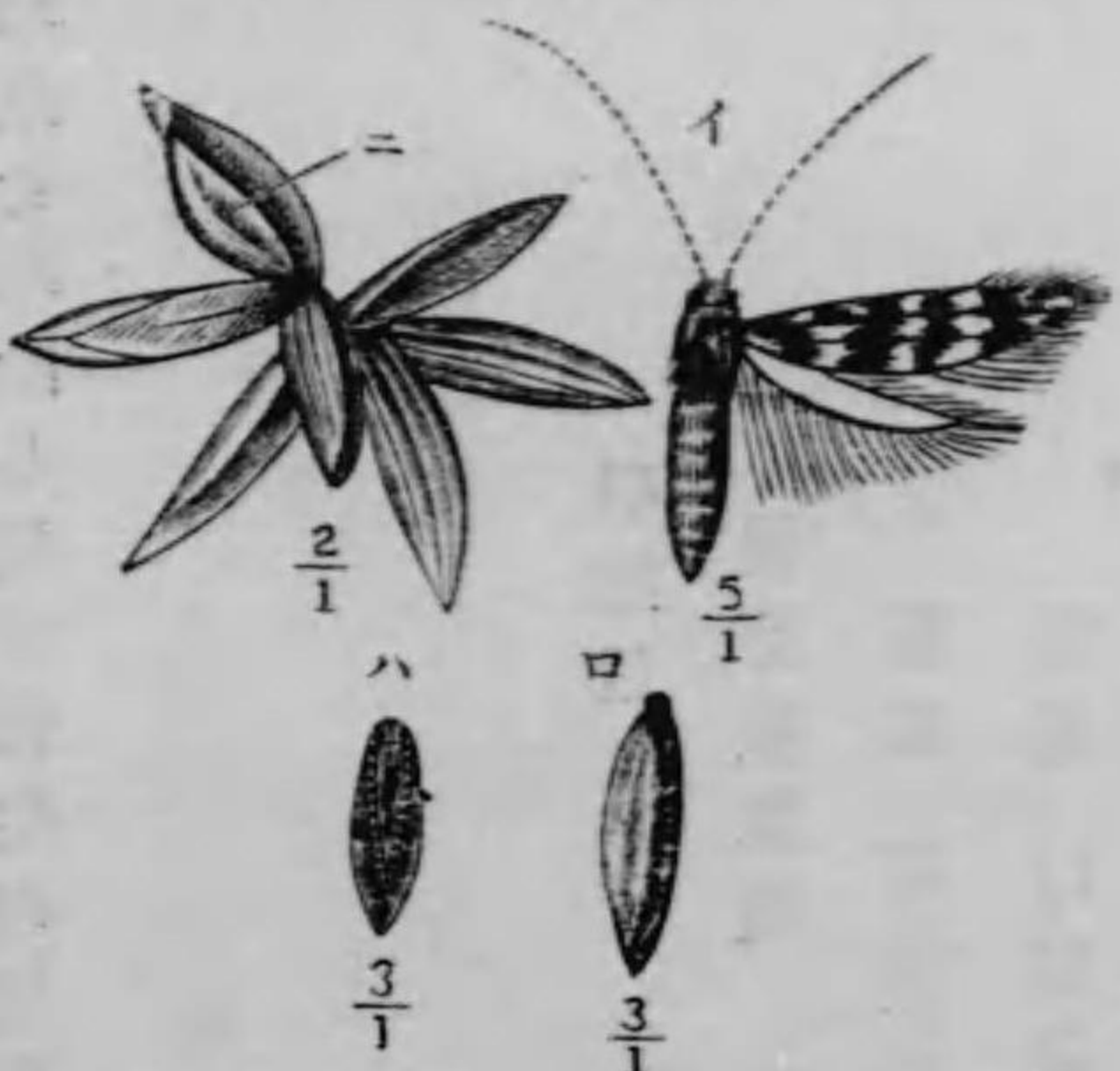
ハ、蛹  
加害狀況 四五月頃往々多く産出し

ニ、葉ニ着ケタ  
桃、梨等に襲來し其新芽、花蕾に止りて之を食害すること多し。

豫防及驅除法 害蟲が桃、梨に來襲せ

る時は早朝被害樹の下に薦の類を敷き幹枝を振り動かすべし害蟲は右薦の上に落下し脚を縮めて動かざるが故に之を取集めて驅除するを要す。

(圖五十四第)



半翅目

一 桃蚜蟲 (第四十六圖)

學名 *Myzus momonis* Mats.

族名 蚜蟲族

異名 桃こぶあふら

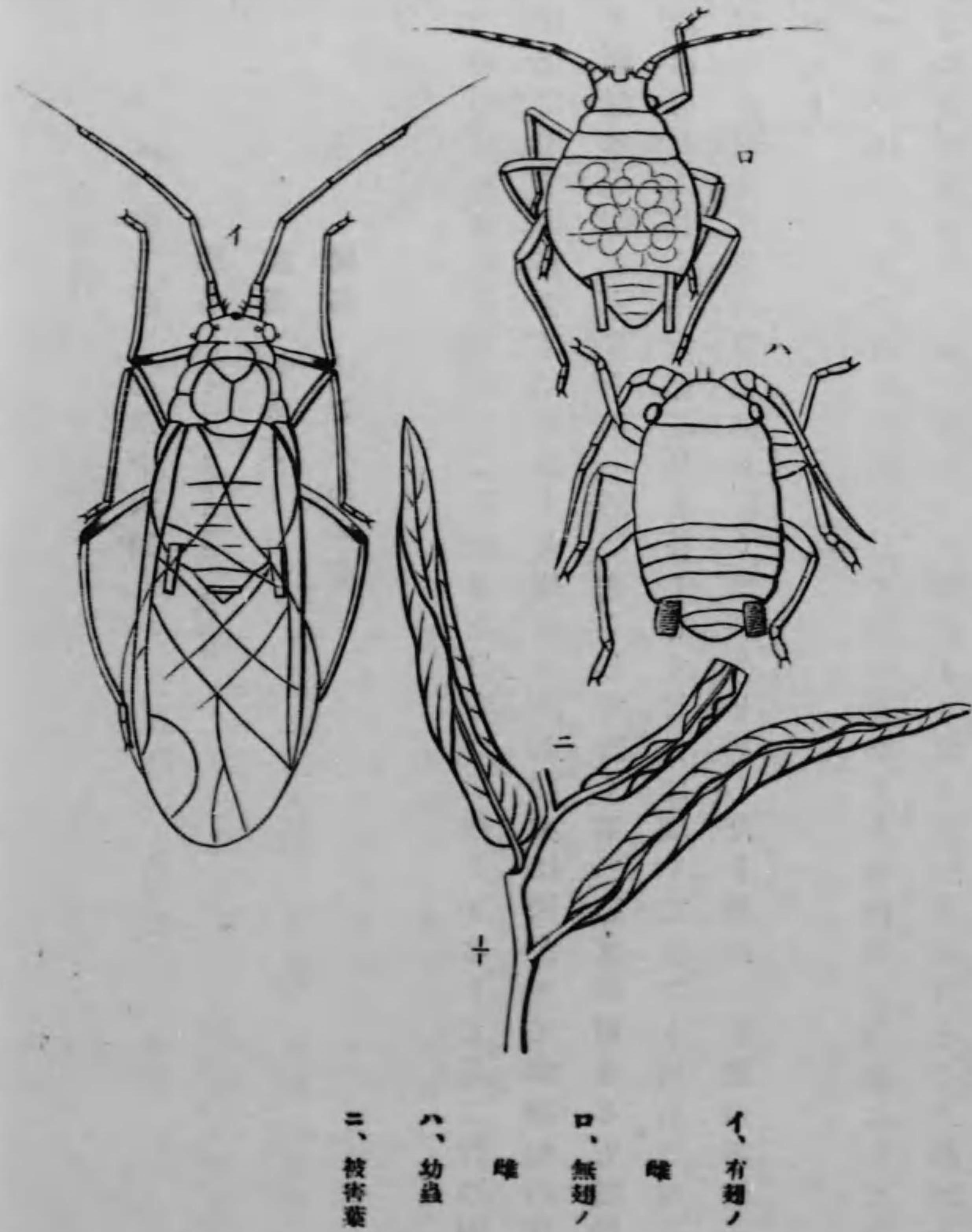
形態

成蟲 無翅雌蟲は紡錘形にして淡緑なり口吻は三節よりなりて第二對の胸脚の付元に達す、排蜜管は稍や長く黄緑色を呈し其尖は擴がりて橢圓盤の狀をなす、觸鬚は六節よりなり第一節は廣くして短く第二節は細短なるも殘餘の四節は何れも長く第六節は最も長くして其先は細く尖りたり其第三、四、及び第五の外端及び第六節(根部を除く)は黒色を呈したり、體長六厘、翅の開張一分六厘あり。

幼蟲の新たに産れたる者は橢圓にして稍や扁平なり、着色は淡黄緑にして複眼は暗赤褐、觸鬚は長さも丈夫にして五節より成り、第三と第五との二節は最



(圖 六 十 四 第)



も長し脚は比較的強大にして排蜜管は短くして太く灰色にして其面には輪紋を存じたり、體長は約三厘ありて幅二厘五六毛あり。

第二齡の幼蟲は長楕圓にして着色は淡黄緑なるも胸腹の兩部は暗褐色を帯ぶ複眼は濃紅にして其一側には腫起を存ず觸鬚は五節より成り着色は體と同様なりと雖ども第三と第四の環節の上端と第五節の全部は黒し、翅鞘は淡黄緑を呈し排蜜管は稍や長くして黒色なるも其付元は淡緑なり、體長六九厘幅一厘五毛餘あり。

経過習性 無翅雌蟲は六月上旬より現出し桃、梨等に棲息し其葉を縦てに長く捲き巢となし之に棲息し此内にて盛んに蕃殖す、七月上旬より有翅の雌蟲産出するものなり。

加害狀況 此蟲害に罹りたる葉は其兩側葉裏に向ひて縦に捲かれ長き巢をなす此巢内に於て無翅の雌蟲は盛んに幼蟲を産み増殖す、斯く蟲害を受けたる葉は早晩枯縮し遂に落下し幹枝の生長を防ぐることも多し。

豫防及驅除法 蟲害に罹りたる葉は枝と共に切取り燒棄し驅蟲するを良し



とす。

### 第十、サルスベリ害蟲

鱗翅目

一 栗蟲蛾 (第四十七圖)

學名 *Caligula japonica*

族名 天蠶蛾族

異名 シラカダユウ

形態

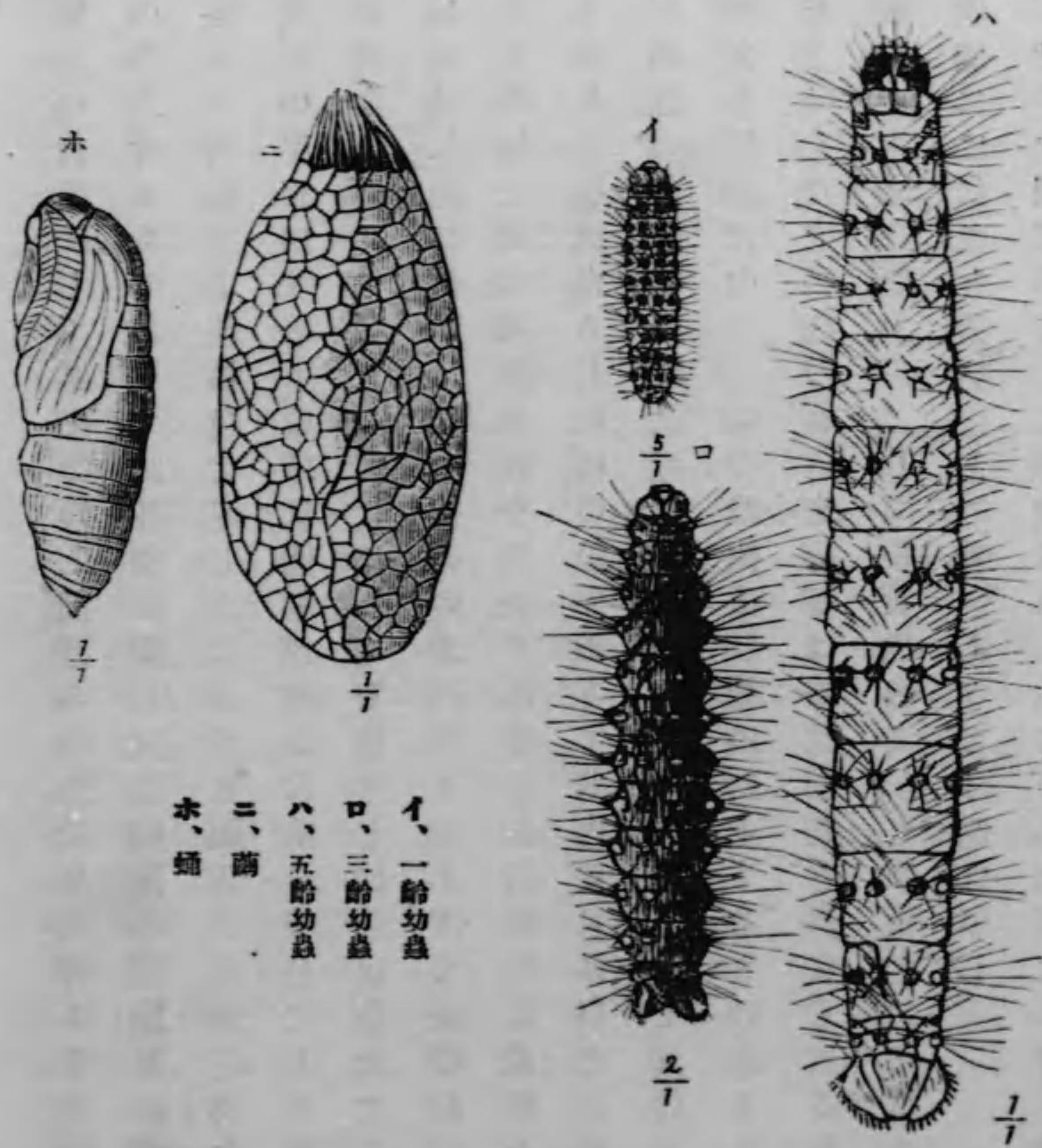
成蟲 栗蟲蛾は稍や大形にして雌雄は其大さ及び着色を異にす雌蛾は雄蛾より大にして體軀四翅共に灰黄茶色なるも胸部には特に灰黄綠色の毛を簇

生し觸鬚は黄色にして其櫛齒短し前翅の中央には前縁より後縁に向ひ淡褐帶紋の斜走せるものありて其外側に接し灰白橢圓の眼點を存す後翅にては其中央より内縁まで淡紫色を呈じ之に存する眼點は雄蛾と異ならず體長一寸四分、翅の開張四寸あり、雄蛾は體軀四翅共に灰黄褐色にして觸鬚は黄褐にして其櫛齒は極めて長し胸部には長毛を密生し四翅は濶大にして前翅の中央には前縁に向ひ斜めに淡灰褐帶の走れるものありて此帶紋は前縁にては幅廣さも後縁に向て次第に狭まりたり、此帶の左右兩側は濃褐を呈し其右側に接し灰色を帯びたる長橢圓の眼點ありて其内側には白色と褐色との條紋あり、又前翅の前縁の外縁に近き所には濃黒の長紋ありて其周りは白し、此濃黒長紋あり後縁に向ひ二條の濃褐波狀線の斜走するものありて尙ほ外縁は灰綠色を呈したり、後翅の着色斑紋等は略ぼ前翅と異ならざる眼點は圓く前翅の眼點よりは一層大形にして帶黄黑色を呈し灰黄色にて取巻かれ又同眼點の内側には白色と濃赭褐との着色ありて外側は黒し。

卵子 卵子は圓筒形にして卵殻は白くして堅し、卵面には濃灰褐の歪斑紋を



(圖七十四第)



イ、一齡幼蟲  
 ロ、三齡幼蟲  
 ハ、五齡幼蟲  
 ニ、繭  
 ホ、蛹

散在し又卵の一極には濃灰褐の斑紋あり、卵長は七厘餘ありて幅五厘あり。  
 幼蟲 幼蟲はクリ蟲又はシラガダユウと云ふ其初め出でたるものは長け一分六

なり、全軀及び胸脚は黒色なるも腹脚は淡灰緑なり、頭部には灰白色毛を生じ各節の亞背線氣門上下の兩線には一個づゝ大形の黒毛瘤を存じ亞背線及氣門上線の毛瘤には五六本の長き黒毛と數本の灰白毛を生ず、又氣門下線には灰白毛の外七八本の長き灰白粗毛を生じたり、氣門は圓形にして其輪廓は暗褐なり、第二齡の幼蟲は着色略ぼ第一齡の幼蟲に均し第三齡の幼蟲は長け一寸幅一分ありて全軀黒色なるも頭部の額板には一個の黃點あり、全軀には厚く短白色を生じ各軀節に於ける毛瘤は黒色なるも其尖きは藍色若くは淡褐色を呈す、亞背線に於ける毛は多くは短くして只だ一本の長毛を生ず、氣門上線の毛瘤に於ける毛も前者と異ならざるも氣門下線の毛瘤には只だ數本の長き黃毛を生ず、氣門下線は黒色にして腹面は黃綠なり、氣門は黒色にして其輪廓は淡藍色なり、胸脚は黒く腹脚は黃綠なるも第五對の腹脚(尾脚)には二個の黒條を存じたり。

第四齡及第五齡の幼蟲は其着色略ぼ同一なるも其大き異なりたり、第五齡の幼蟲は長け三寸六分あり、頭部は黒褐にして額板と後頭部は黃色を呈す、胸脚



は白色にして少く青味を帯び腹面は暗黄緑にして黒褐斑を存じ、第五及び第六の軀節の腹面の斑紋は大なるを常とす、氣門線は黒色を呈し氣門下線は黄色にして紅色點紋を散布す、亞背線及び氣門線に存する毛瘤には數本の刺毛と淡緑白の長毛を生じ、氣門下線の毛瘤には數本の刺毛の外に黄色の長毛を生ず、尙ほ全軀面に白長毛を生じたり、第一軀節の背板及び最後の軀節と尾脚は綠色を呈したり。

繭は長橢圓にして長け一寸四五分、幅七八分あり、繭層は恰も金網の如くに開孔するが故に繭内の蛹は透視することを得、故に此繭をすかしたからと云ふ通常繭は數葉を絲縷にて纏めたる者の内に營めるが故に直接繭を見ることを得ず。

蛹は濃褐にして長け一寸前後あり。

經過習性 幼蟲は四月下旬乃至五月上旬に産出し、栗、胡桃、七葉樹、ヤツデ、百日紅等に棲息し其葉を蝕害すること甚し、六月乃至七月に老熟し絲縷を吐き營繭し、後一週日を経て化蛹し、八月下旬乃至十月上旬化して蛾となり食樹の根

際を距る五六尺の幹部に數十顆つゝ纏めて産卵す、此卵は各日を経過し翌春に至りて孵化するなり。

加害狀況 幼蟲の産出は往々巨數なることありて食樹の葉は悉く蝕ひ盡され食樹を衰弱せしむること甚し、其産出多き時は樹下蟲糞の散在すること多し、斯くクリムシは諸樹に蟲害を及ぼすものなるも之を利用し或は其繭をも利用することあり即ちクリムシは俗にテグス蟲と稱し之よりテグスを製造するものなりと云ふ、左れど此蟲より製したるテグスは品質劣等にして釣魚の用となすに足らず故にクリムシよりテグスを製すると云ふは誤謬なり、普通漁人の使用するテグスは全部南支那方面より本邦に輸入するものにして此テグスは支那特有のテグス蟲即ちサテウルニアパイレーラム (*Saturnia pyretorum* Westw.) にして此幼蟲よりテグスを製するには先づ幼蟲の腹を割き所謂絹絲腺なるものを取出し之を暫時酢に浸し後之を酢より取出し右絹絲腺の一端を竹釘に括り付け壁に刺し込み他端を指にて摘み一度に引伸せば六七尺の長さ絲となる、品質の良き者にては長け九尺或は一丈位の長けとなる、之を



陰乾となし充分乾きたる時は數本の絲を一束となし之を環の如く捲き一夜清水に浸し後之を清水の中にて左右の手掌にて揉み絲に附着したる塵埃其他汚穢物を除き去り水より之を取出し環を解き伸し壁に吊下げ乾せば丈夫なるテグス(漁蠶絲)となるなり之と同法にて栗蟲よりもテグスを製することを得るも其力弱くして用をなさず又栗蟲の繭を苛性曹達の溶液に入れ暫時煮沸したる後水にて洗ひ之を紡げば一二尺許の絲縷を得べし之を繼ぎて釣魚具となし或は之を纏めて襟巻となし或は毛織物の材料に加へて其品質を強實ならしむると云ふ。

豫防及驅除法　クリ蟲を驅除するには第一冬間樹幹に産み付けたる卵を集めて潰殺するを良しとす又幼蟲發生後に於ては枝より幼蟲を打落し蒐集するを要す又害蟲の發生は樹幹の時ならずして葉を失へることゝ樹下に蟲糞の散在することにて了知すべし栗蟲の幼稚なるものは黒色にして老成せる者は白色に變ずるものなれば之等の點を就きても充分に注意し驅除に勉むるを要す。

ニイラムシ蛾 (第四十八圖)

學名 *Cnidocampa (monema) flavescens* Butl.

族名 イラムシ蛾族

異名 イラガ、コガネマルバ

形態

成蟲　雌蛾は體軀は中庸大にして肥へ頭胸の兩部は鮮黄にして腹部は黄褐なり觸鬚は絲狀をなし下唇鬚は頗る長く茶褐色を呈す前後の兩翅は幅廣く前翅は内半鮮黄にして少しく綠色を呈し外半は赤褐にして前縁の翅尖に近き處より二條の濃黒褐條の後縁に向つて斜走せるものあり後翅は淡灰黄にして斑紋なし體長五分翅の開張一寸二分。

幼蟲の老熟せる者は長け寸許ありて體軀は稍や扁平背面は濃褐にして其中央と側面は黄綠なり頭尾兩端の軀節には長凸起殘餘の軀節の側面には短凸起を具へ各凸起には數多の刺を具ふ。

繭は長橢圓形にして長け四分白色なるも上下の各極より中部に向ひ長短各

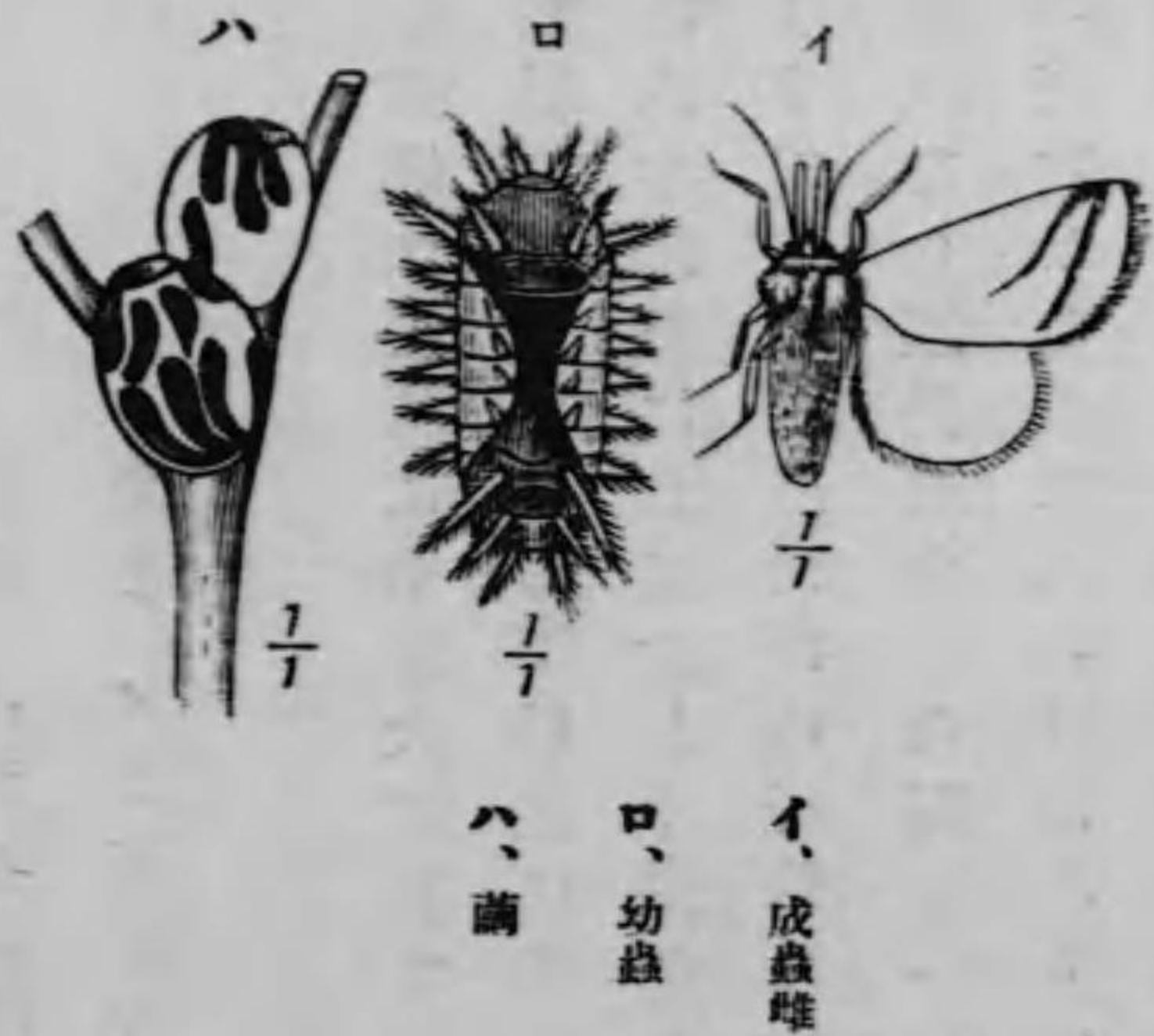


種の黒褐の幅廣き帯紋あり。蛹は長橢圓にして淡黄を呈し其皮膚には短き粗毛を點々群附し長け三分五厘餘あり。

經過習性

幼蟲は六月乃至九月に於て百日紅、紅葉、棗、梨、柿其他種々の樹木に棲息し其葉を食し九月下旬乃至十一月に老熟し橢圓の硬き繭を營み之に蟄して蛹となり翌年の六七月に化して蛾となり食樹に産卵す、繭は其質極めて硬く其上極を少しく隔てたる處に環狀線あり成蟲産れ繭外に出でんとする時は右環狀線より上極までの部は同線に沿ふて

(圖 八 十 四 第)



裂け取れ圓狀の蓋の如きものとなりて離れ取られ同極に一圓孔を除す、此孔より成蟲は産出するなり此孔明きたる繭をスズメノタゴ或はスズメノヲゴ

ケと云ふ。

**加害狀況** イラムシは常に其産出多からざるが故に諸植物に大害を及ぼすことなし、左れども幼蟲の體軀には所謂刺毛を生ずるに依り誤て之に手を觸る時は忽ち刺毛は手を整し酷しく疼痛を感ぜしむるものなり特に果樹頃に同蟲棲息する時は其果をもぎ取る場合には往々手指はイラムシの毛に蟄され甚しく疼痛を覺ゆるものなり。

**豫防及驅除法** 冬日落葉後には被害樹を檢查し繭を蒐集し其中に蟄する幼蟲若くは蛹を潰殺し之より成蟲産出を豫防すべし若し繭の上極に孔を開きたるものある時は之は既に成蟲の産出したる痕跡なれば之等は蒐集するの必要なし、又幼蟲即ちイラムシは葉上に止まる時は其着色葉に酷似するが故に其蒐集には一層注意を要するなり、又幼蟲を検出したる時は手指にて之を摘取すべからず若し手指を之に觸る時は忽ち刺毛に整され劇痛を生ずべし故に之を捕ふるには鑷子の先にて摘み取るか又は害虫の付きたる葉の如きは之を葉柄より切取るか又は其葉の付きたる枝を切取り害虫を驅除する



を要するなり。

半翅目

一 サルスベリフクロ介殼蟲 (第四十九圖)

學名 *Eriococcus lagenstroemiae* Kuw.

族名 介殼蟲族

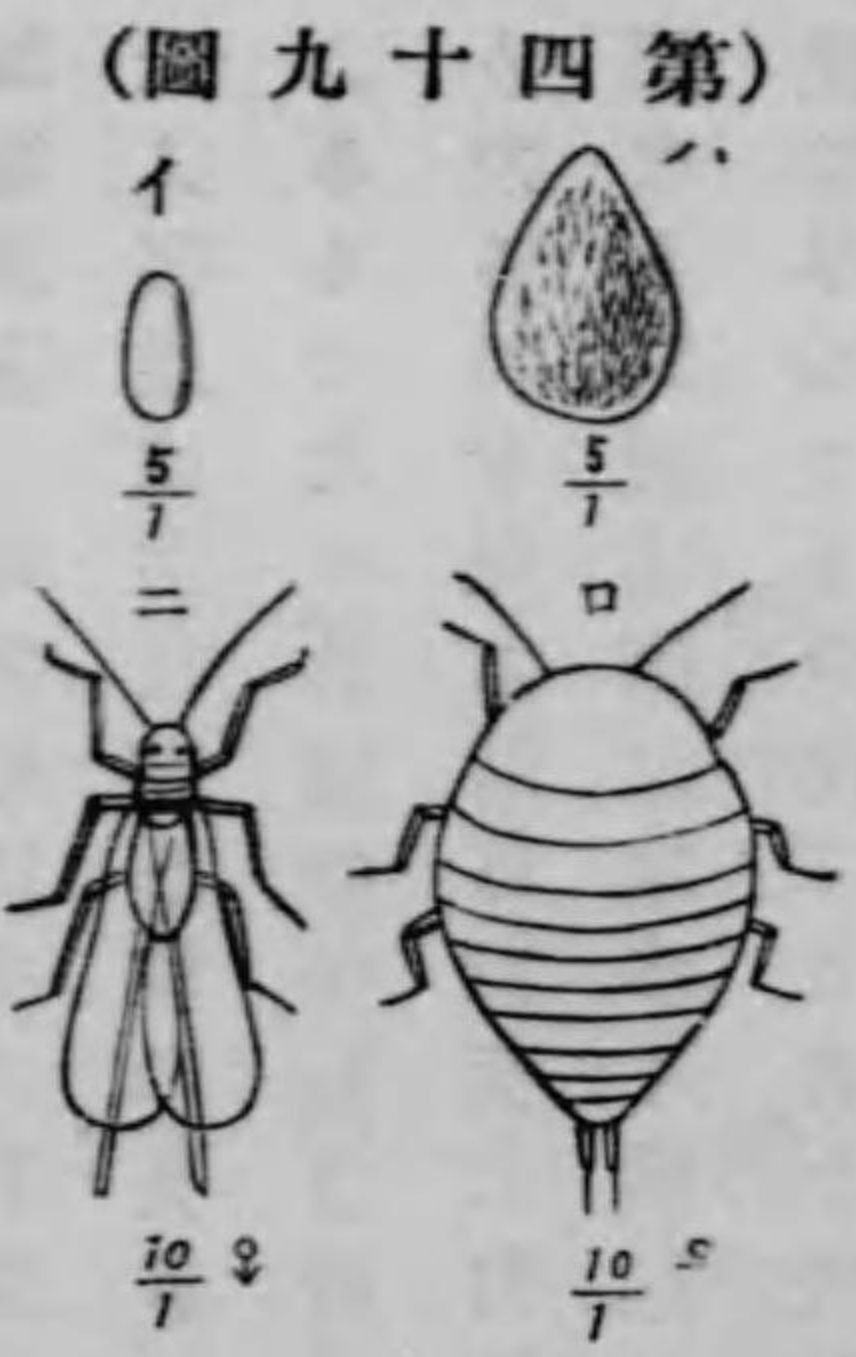
異名 サルスベリ介殼蟲

形態

雌蟲 體は長楕圓にして能く肥へ背面は腫起し腹面は扁平、着色は深紅色にして紫色を帯ぶ、頭部は胸部の下側に横はり眼は黒く口具は稍や長く觸鬚は六節より成りて淡橙色を呈す、脚は黄色にして其爪の付元には三本の擔球毛を生じたり、腹部は八節より成り其末端よりは一對の鈍頭凸起を出し其頂部

より一本の長さ粗毛と三本の短粗毛を生ず肛門環には八本の粗毛を生ず體長約七厘幅五厘あり。

雄蟲は帶紫色にして頭部は稍や小形にして觸鬚は長くして十節より成り眼は頭部の左右に各々二個ありて上眼は下眼より大なり、胸部は頭部よりは幅



(圖九十四第) イ、卵  
ロ、雄  
ハ、同上蠟被  
イ、雌

廣くして中胸には灰褐帶を横走す脚は普通にして翅は透明にして眞珠様の光澤あり、腹部は幅殆ど胸部に均しく其末端よりは二本の長さ蠟質の白絲を伸出す、體長三厘三四毛あり。

繭は雄蟲の營めるものにして長楕圓にして純白長け三厘八九毛ありて幅一厘四五毛なり。

雌蟲の老熟する時は其皮膚より白色の蠟質を分泌し之にて全軀を被へるが故に雌蟲は白色楕圓塊の如くに見ゆ此蠟被の下にて雌蟲は産卵し後には此



蠟被と雌蟲の體は産下したる卵子を被ひ保護す此蠟被を卵囊と云ふ。  
經過習性 此介殼蟲は年に二回發生するものにして第一回の發生は六月第  
二回の發生八月なり第二回發生の雌雄は九月上旬交尾し雌蟲は産卵して斃  
る卵子は越冬す。

加害狀況 此害蟲は主に百日紅に棲息するも亦無花果、石榴等に棲息すると  
云ふ、害蟲は主に細き枝の先きに近き處に集り之より養分を吸収し患害を加  
ふるものなり、其害の甚しき時は被害の枝は枯死するものなり、又蟲害に罹か  
りたる枝を見る時は其面に白斑の群着するを見るべし、是れ蠟被を生ぜる雌  
蟲なり、又被害樹には多く蟻類の頻りに往來するを見るべし、是れ蟻類は介殼  
蟲の尾端より分泌する者を吸収に來たるなり、故に蟻類の往來に依りて介殼  
蟲の發生を推定するに足る。

豫防及驅除法 害蟲は多く枝に發生したる時は其勢力衰へ枯死に類するも  
のなり、是等は切取りて燒棄するを要す、又蟲害少くして快復の見込みある時  
は魚油鯨油又は赤油(樟腦製造の際産出するものなり)乳劑を製し之を被害幹  
枝に振り撒き驅蟲するを便なりとす。

### 第十一、椿害蟲

#### 鱗翅目

#### 一 茶毛蟲蛾 (第五十圖)

學名 *Artaxa compersa*.

族名 ふらんこけむし族

異名 毒蛾

#### 形態

成蟲 體軀は稍や小形にして雌雄は着色及び大きさを異にす雌蛾は體軀、翅共に淡黄にして觸鬚の櫛齒短く前後兩翅の外縁には淡黄の縁毛を生じ前翅に



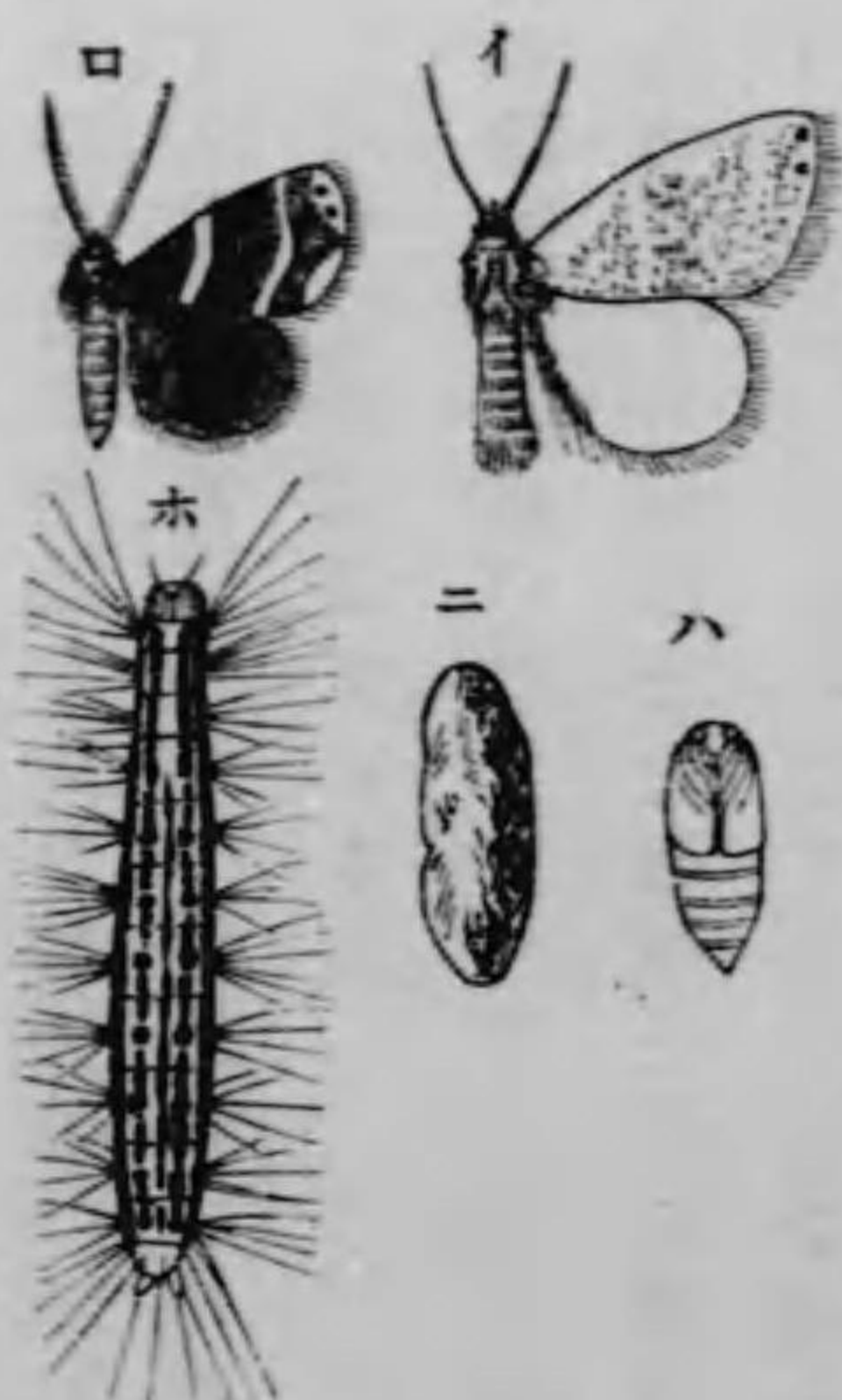
は黒褐の細點を多く散布するも其外縁に近き處には之を存することなし同翅の内外兩半には前縁より後縁に向ひ淡黄條の斜走するものあり、又外縁の上部には二個の黒褐點紋を存ず腹部は長大にして其末端は太く長毛を簇生す、體長四分餘、翅の開張一寸一分餘あり。

雄蛾は雌蛾よりは形小にして體軀、翅共に黒褐を呈し觸鬚の櫛齒は長く腹部は細小なり、前後兩翅の外縁には黄色縁毛を生ず、前翅の内外兩半には前縁より後縁に向ひ黄白條を斜走し、又外縁の上下には茶色の橢圓紋ありて上部の紋内には二黒褐點を存じたり、體長三分餘ありて翅の開張八分あり。

幼蟲第四齡は長け八分あり、頭部は赤褐、胸部は淡灰緑にして背線は薄墨色を呈し其左右兩側は淡褐なり、亞背線及び氣門上線は淡灰藍色にして各腹節の亞背線及び氣門上線には各々一個の黒毛瘤を存じ之に長短の白毛を生ず、特に氣門上線の毛瘤には長毛のみを生じたり、又亞背線と氣門上線との間には純白條を縦走し氣門下線に於ける毛瘤及び腹脚の付元には白き長毛を群生す。

繭は紡錘形にして暗黄綠色を呈し其質薄弱なり、長け五分、幅二分あり。蛹は圓筒形にして長け四分、淡黄褐にして黄毛を散生す。卵子は球形にして黄色なり。

(圖十五第)



イ、成蟲雌  
ロ、同上雄  
ハ、蛹  
ニ、繭  
ホ、幼蟲

經過習性 幼蟲は四月

中旬より産出し茶、椿等の葉を蝕害し六月下旬より老熟し土際に灰黄の繭を營み蛹となり七月上旬化して蛾となり産卵す、此卵子より孵化

し出でたる幼蟲は九月下旬に至り老熟し再び營繭して蛹となり十月中旬より化して蛾となり産卵す此卵子は冬日を經過し翌年四月に孵化するものなり依て此蛾は二化蟲なり、幼蟲は孵化し出づるや茶、椿等の葉裏に列をなして其組織を蝕害し葉面の表皮のみを除きして蝕することなし其蝕害を受けた



る葉は緑色を失ひて白色に見ゆるものなり、幼蟲の稍や生長したる時は列を亂して一二疋づ、散亂して葉を食するものなり、蛾は夜間に飛翔し食樹の葉裏に數百粒の卵を一纏めに産付け雌蛾は其軀毛を以て卵塊を被ふ故に卵塊は一塊の軀毛の如くに見ゆ、卵塊は橢圓にして灰褐を呈したり。

**加害状況** 幼蟲は往々多數發生し葉を蝕害すること酷しきことあり、此害虫の甚しき時は枝は全葉を失ひ勢力衰へ或は枯死することあり、此幼蟲には有毒の毛を生ずるが故に誤つて幼蟲に手の觸れることあらば毒毛は皮膚を蝕し著しく疼痛を覺ゆるものなり。

**豫防及驅除法** 幼蟲の發生したるは常に葉裏に列をなして止まるものなれば其害虫の存ずる葉は之を葉柄と共に掻き取り足にて潰殺するを良しとす、又一枝の葉に多く害虫の存する時は全枝を切り害虫を驅除するを要す、此驅除に便なるは幼蟲の並列する時期なり、此時期を失すれば幼蟲は各所に散亂するが故に之を驅除するに最も不便なり、又産卵の時期に於て被害樹を見廻り一塊軀毛の附着せる者あらば必ず卵塊なるが故に嚴しく之を鑷子に採

集して潰殺するを要す、又繭の如きは被害樹の根際を檢查し之を蒐集し繭内の蛹を潰殺すること肝要なり。

## 二 椿穿葉蛾 (第五十一圖)

學名 ?

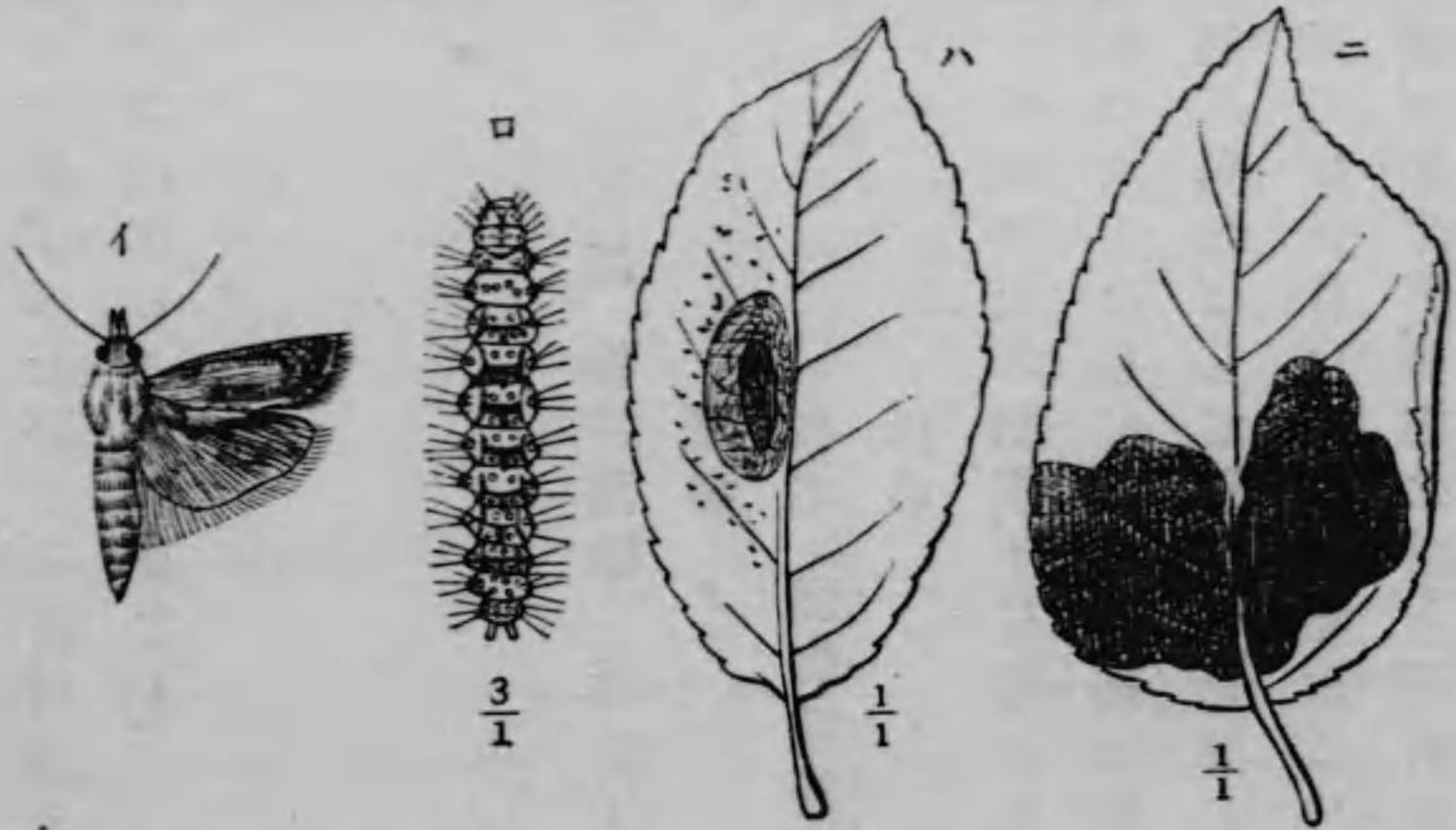
科名 髓蟲蛾科

異名

**成蟲** 雌蛾は頭部、觸鬚、下唇鬚何れも橙黄色にして下唇鬚は長く前面に伸出し複眼は大形にして黒し胸部は紫紅色を呈し腹部は濃灰色なり、前翅は長く二等邊三角形にして紫紅色を呈し其面には大小二個の楔形の黒斑を存じ其楔の基部は外縁に向つて横はり尖頭は内縁に向ひたり、又前翅の外縁には黒色の縁毛を生ず、後翅は殆ど三角形にして淡灰黄色を呈し其外、後兩縁には灰



(圖 一 十 五 第)



イ、成虫  
ロ、幼虫  
ハ、繭と蛹  
ニ、被害葉

色の長き縁毛を生じたり、雌蛾は體長三分、翅の開張五分、雄蛾は體長二分五厘、翅の開張四分五厘あり。  
變態 幼虫は七月下旬より現出し、椿葉に棲息し、絲繭を吐き、二三葉を綴りて巢となし、之に棲息し、葉裏の表皮を喰破りて、葉體を蝕すれども、葉面の表皮は餘して蝕することなし。斯く虫害を受けたる葉は、葉體を缺けるが故に、灰白色を呈するに至る。幼虫の老熟せる者は、被害の葉裏に薄き白繭を營み、之に

蟄して蛹となる。繭は極めて薄きが故に、繭内に蟄せる蛹は、繭面より透視することを得るものなり。幼虫の繭内にて化蛹するは、大抵八月中旬にして、九月上旬乃至中旬に化して蛾となるものなり。

幼虫 幼虫の老熟せる者は、長け三分三厘許ありて、暗黄綠色を呈すれども、頭部は灰藍色なり。第二胸節及び第一乃至第七腹節の背面には、山字形の黒き斑紋を存じたり。各腹節の亞背線には、各々二個、氣門上下の兩線には、各々一個の小凸起を存ず。此凸起に、橙黄色の斑紋ありて、其頂部には一本の灰色毛を生じたり。

蛹は灰褐にして、長け二分五厘許あり、普通葉裏に營める粗繭内に横はる。又繭面及び繭の傍らに、蟲糞の散在するを見るべし。

加害狀況 此虫害を受けたる椿葉は、灰白色を帯び、二三枚宛相纏れるが故に、容易に被害葉を認むることを得べし。固より此虫害は酷しからざると雖ども、點々虫害を受くることありて、被害葉を付したる枝は、花蕾を架すこと少し。

豫防及驅除法 被害葉を認めたる時は、之を蒐集し、一纏めとし、地面に横へ足



にて踏み付け害蟲を潰殺するを便法なりとす。

半翅目

一 椿の介殼蟲 (第五十二圖)

學名 *Diaspis camericæ*

族名 介殼蟲族

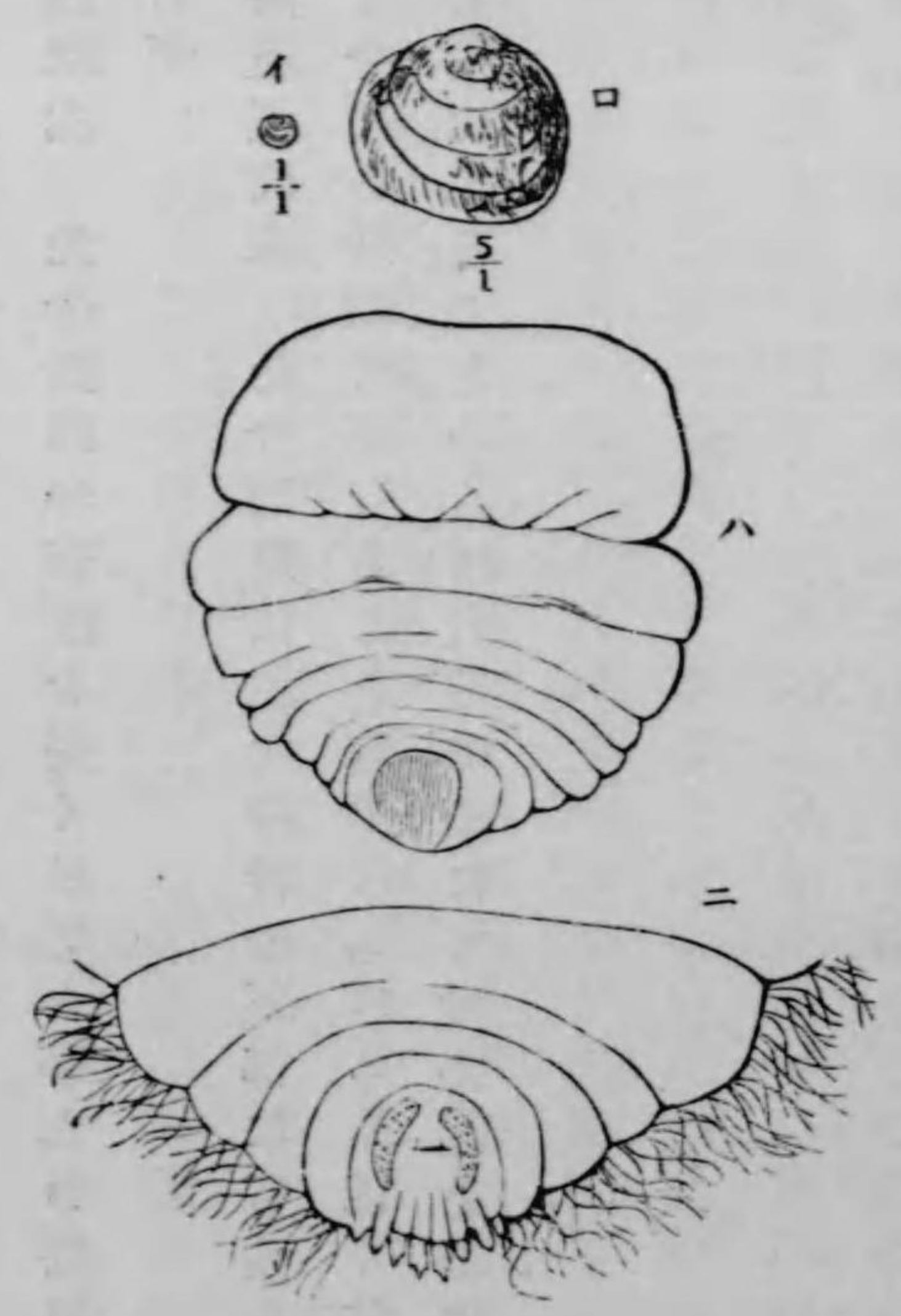
異名

形態

雌蟲 體は肥へ前端幅廣く厚く後端は稍や細まり鈍頭に終る、着色は薄紫色なるも鬚板は黄褐なり、同板には左右二群の分泌孔あり、各群は長形にして其前端は内方に曲る、又鬚板の遊離縁には四對の硬瓣あり、第一即ち中央の一對は他より一層長大にして其遊離端は稍や尖りて此尖頭を少しく遠ざかりた

る處の左右には各々一個の短き凸起を生ず、殘餘三對の硬瓣は何れも均しく其遊端は俄かに細まり凸起の狀をなす、腹節の兩縁よりは多數の透明なる蠟質絲を出したり。

(圖二十五第)



イ、介殼自 然大  
ロ、同上廓 大  
ハ、雌廓大  
ニ、同雄廓 廓大

雌蟲の介殼は殆ど圓形にして扁平なるも其中央は少しく凸となり、其介殼の前端は少しく凸起せり、此凸起を少く隔たりたる處に暗橙色の

殼嘴あり、介殼は灰色にして常に椿の表皮下に横はる。



經過習性 雌蟲は大約五六月に老熟し介殼の内に産卵す、此卵は間もなく孵  
化し幼蟲となり冬日を經過するものゝ如し。

加害狀況 此介殼蟲の寄生を受くること夥しき時は椿の勢力を減じ被害尠  
からず。

豫防及驅除法 此介殼蟲は主に椿幹の下部に寄生し常に表皮下に存ずるに  
依り介殼の所在を認むること容易ならざるも能く注意して搜索し若し其寄  
生を検出することあらば竹筥の類にて被害部を剝取り驅除するを良しとす。

## 第十二、ヒメコブシ害蟲

鱗翅目

一 オホアヤ尺蠖蛾 (第五十三圖)

學名 *Pseudopteryna superans* Bull.

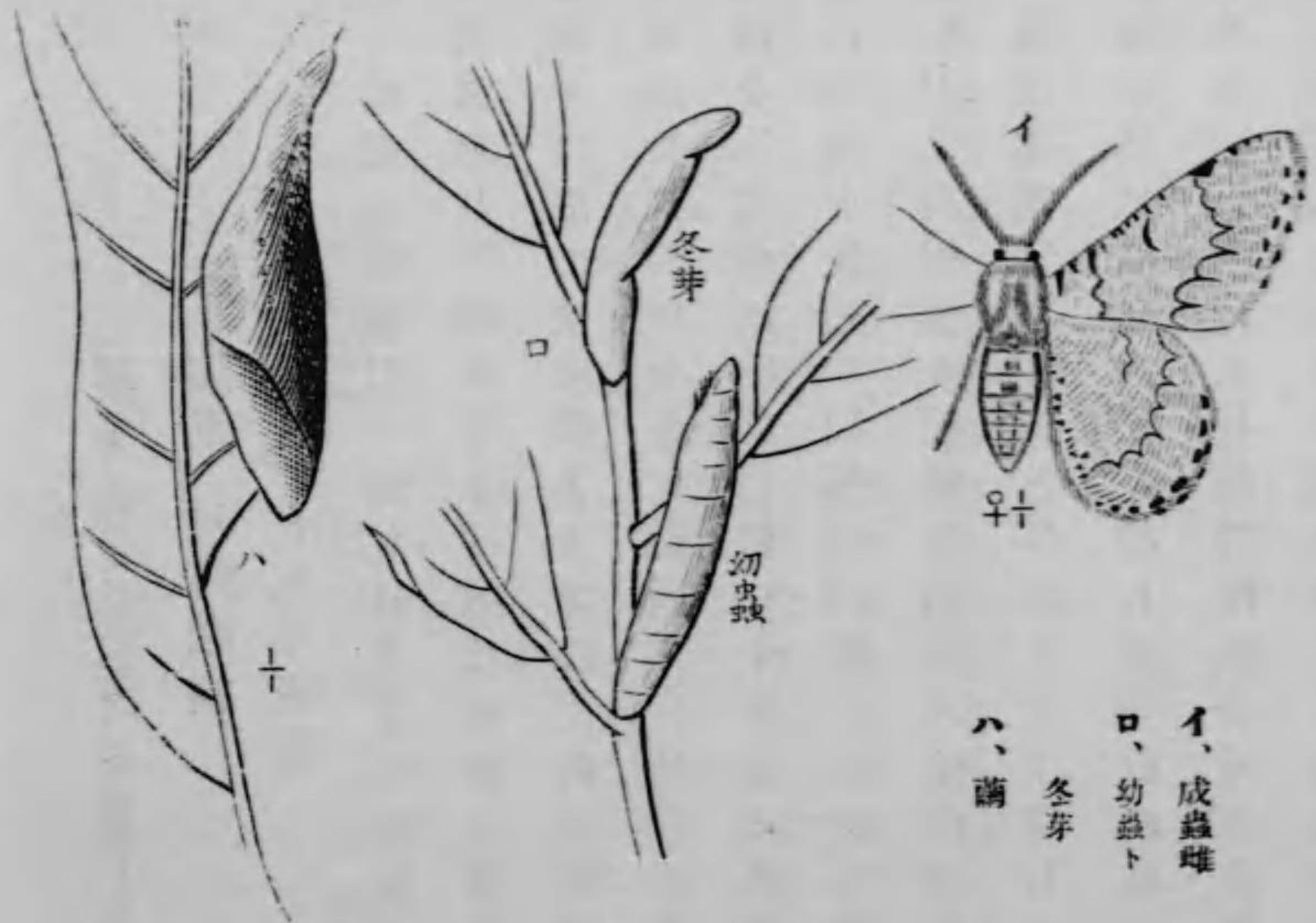
族名 尺蠖蛾族

異名 トチ尺蠖蛾

形態 雌蛾は體軀肥へ淡灰緑なるも腹面は橙黄色なり、眼は黒褐色にして觸  
鬚は櫛齒を具へ暗褐なり、四翅は幅廣く其面に密に短き細線を横走す、前翅の  
内外兩半に於ては前縁より後縁に向ひ波狀の黒線を走らし各波線の前縁に  
接する處には黒斑を存じ、又内半に於ける波狀線の左右には少しく間を隔て  
て黒斑を存じ尙ほ前縁に沿ひ十數個の小黒點紋を並列す、又外縁に接しては  
六個の黒點を並列す、又外縁の縁毛上にも亦數個の黒點を並列す、後翅の中央  
には同じく前縁より後縁に向ひ二條の黒き波狀線を走らす、但し内方に於け  
る一線は甚だ短し後縁と外縁とは同じく數個の小黒點を並列す、前後兩翅  
の裏面に於ては其内縁に接し橙黄色の斑紋を存じ且つ内外兩縁には黒斑を  
存じたり、體長六分五厘、翅の開張一寸五分許あり。  
卵子は橢圓扁平にして淡綠色を呈し長け六厘餘あり。



(圖 三 十 五 第)



イ、成虫雌  
 ロ、幼虫ト  
 冬芽  
 ハ、葉

幼虫の老熟せる者は圓筒形にし  
 て長け一寸四分餘あり體軀は淡  
 黄緑にして其全面には白波線を  
 存ず脚は何れも淡黄緑なるも尾  
 脚の先は赤褐色を帯ぶ氣門は褐  
 色にして氣門下線は白し又頭部  
 には二本の淡黄緑を呈せる角あ  
 り、兩角の付元は互に相接す。  
 經過習性 此蛾は年に二回の發  
 生を營むものにして第一回の蛾  
 は四月に産出しヒメコブレ、トキ  
 ノキ、ムクロジの葉裏の縁に沿ひ  
 十數個の卵子を一系列に産附す、此  
 卵は間もなく孵化し幼虫となり

右記植物の葉を蝕害し七月下旬に老熟し被害樹の葉縁の一部を葉裏に向つ  
 て折曲げ巢となし之に蟄して化蛹す、此蛹は八月上旬乃至中旬に化し成虫(蛾  
 となり再び葉縁に産卵す、此卵子も暫時にして孵化し幼虫(尺蠖)となり再び葉  
 を蝕し十一月、二月頃には長け八九分までに生長し爾來食を止め冬芽の側に同  
 芽と同位置に止りて動くことなし、斯く靜止せる幼虫は其形狀着色等冬芽に  
 酷似するが故に之を検出すること容易ならず、即ち保護色と擬態とを兼ねる  
 ものなり。

加害状況 害蟲は葉の一縁より蝕初め漸々中央脈に向つて蝕進み同脈を殘  
 し更に他縁より蝕初む故に被害の葉は中央脈のみを殘留するに到る固より  
 此蟲害は敢て尠からずと雖ども其蕃殖甚しからざるが故に著しく蟲害を及  
 ぼすことなし。

豫防及驅除法 害蟲發生期に當ては時々被害樹を見廻り蟲害を受けたる葉  
 を檢出することあらば其芽を檢査すべし、必ず同芽の側に芽と同じ位置をな  
 して靜止するものなり之を嚴く蒐集驅除すべし、又被害樹の下に蟲糞の散在



するものあらば其上方に横はれる枝葉に害虫は止まるものなれば之を搜索して害虫を集め驅除すべし。  
産卵の時期に於ては葉裏を檢查し其縁に沿ひ産付せる卵子を取集めて潰殺するを要す。

膜翅目

一 ヒメコアシ葉蜂 (第五十四圖)

學名 *Tenthredo sifui* Marl.

族名 葉蜂族

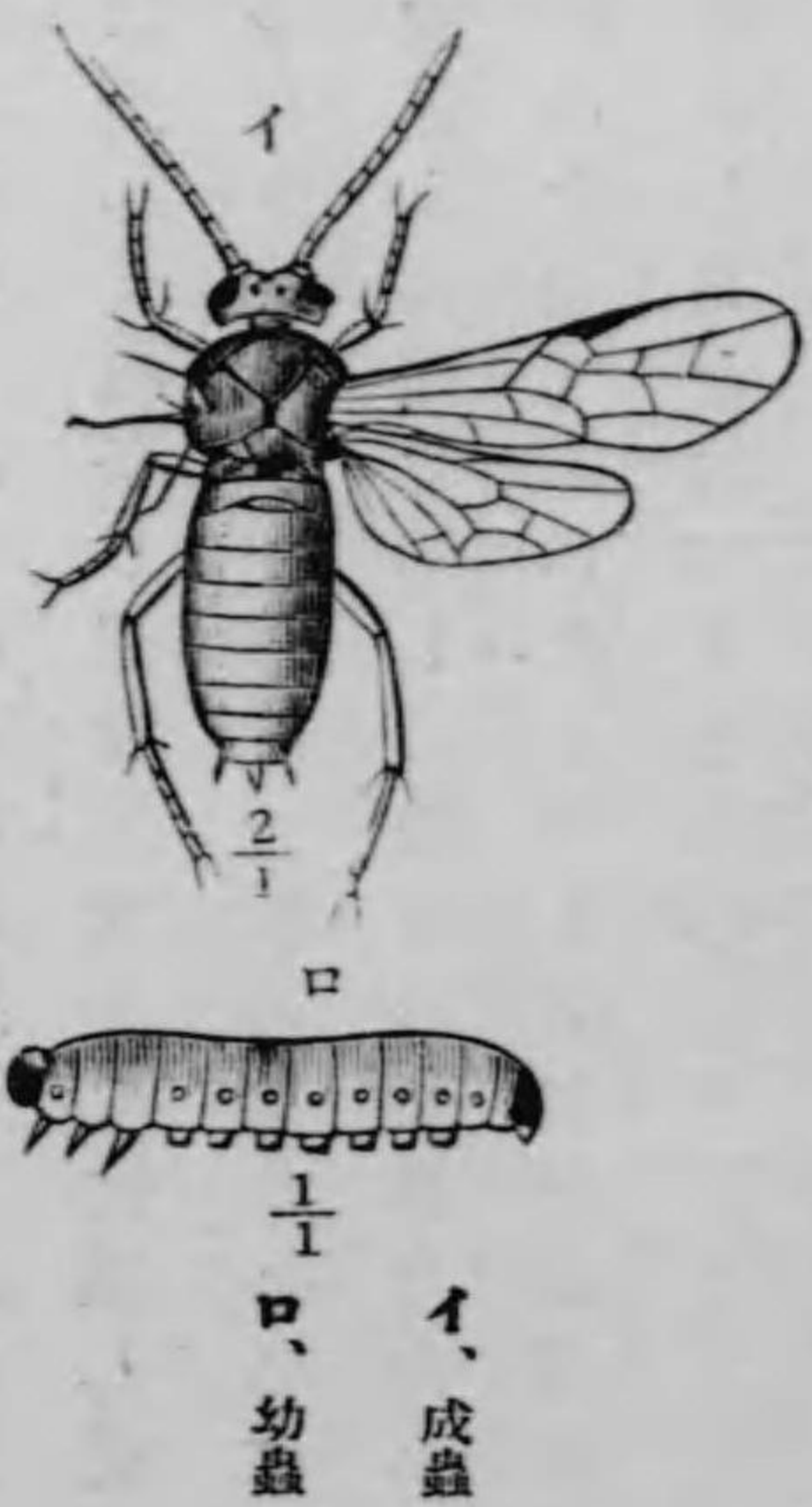
異名

形態

成蟲 雌蟲は體軀扁長にして黒し頭部は幅殆ど長けに三倍し複眼黒し觸鬚

は同じく黒くして九節より成り第二節は極めて短し前翅は透明なるも淡灰色を帯び縁點は長く紡錘形にして黒し脚は黒さも腰節と大腿節の内端は白し體長は四分、翅の開張九分。  
卵は殆ど圓形にして透明なり、徑約二厘。

(圖四十五第)



イ、成蟲

ロ、幼蟲

軀は橙色なるも頭部は黒く體の背面は薄墨色を呈し最後の軀節の背面は黒し胸脚は薄墨色にし腹脚は橙色各軀節には數條の細線を横走す、幼蟲の老熟したる者は長け九分餘ありて全軀橙色を呈すれども背面は灰色を帯ぶ、頭部は深黒にして體末の一節の背面は薄墨色を帯ぶ、胸脚は薄墨色、腹脚は橙色を



呈す。

**經過習性** 成蟲は五月中旬頃より産出しヒメコブシの一枚の葉裏に八九十顆の卵を産入るるなり、其産入れたる處は淡綠色の圓點の如くに見へ又葉面にては卵の産入れられたる處は圓く膨起したり、卵子は一週間前後にて孵化し幼蟲となり六月中旬より老熟すれば加害樹を降りて土中に入り土繭を造り之に蟄して越冬し翌春に至りて化蛹し従て成蟲となり産卵するものなり幼蟲の若き時は數十頭許一枚の葉に止りて一方の葉縁より蝕初め中脈に向つて蝕進み同脈を除して他方の葉縁に向ひ蝕進み遂に殆ど葉體を蝕盡して葉脈のみを残すものなり但し老熟せる幼蟲は一葉に多く止まらずして各方面に散在し葉を蝕害するものなり。

**加害狀況** 此幼蟲の多く發生したる時は葉體を失ひ葉脈のみとなりたる葉を多く見るに至る、斯く葉を失ひたる枝は勢力を失へども後には更に新芽嫩葉を出すも先きに出でたるものよりは大約小形なるを常とす。

**豫防及驅除法** 産卵期に於ては葉を調査し葉面に小腫起の散在せるものあ

らば是れ卵子を産入れたる處なれば此等の葉は總べて切取り卵子を潰殺するを要す、又幼蟲の穉若なる時は一枚の葉に群棲するが故に葉と共に害蟲を蒐集し驅除すべし、又老熟したる者は一葉に多く止まらずして八方に散在するも體は鮮橙色を呈するが故に容易に検出することを得るなり斯く幼蟲の止まれる枝は之を振動せば幼蟲は容易に地上に落下するものなり、之を掃き集めて驅除するも可なり、又害蟲の發生したるや否やを査定せんと欲する時は被害樹の下を調べ其處に蟲糞の散在することあらば其上方に横はれる枝には必ず害蟲の存するものなれば之を蒐集潰殺するも亦可なり。

## 半翅目

## 一 ヒモワタカヒガラムシ (第五十五圖)

學名 *Takahashia japonica* Ckll



族名 介殼蟲族

異名 カメノコウ介殼蟲

形態

雌蟲 體は橢圓にして肥へ淡黄色にして暗褐の點紋を散在す背線は橙赤色を呈し腹端には凹陥あり觸鬚は七節より成り體長約二分五厘あり。卵囊は白色環狀にて幹枝に垂下す往々一枚に十數個の卵囊の附着することあり卵囊環の徑の大なるものは一寸前後あり其着色は純白なるが故に容易に檢出するに足る雌蟲が卵囊を造くる有様を見るに同蟲が附着せる幹枝に其尾端より分泌せる蠟質の絲縷にて短かなる管を拵へ此中に卵子を産入る爾來卵子を産出すに従て右管は伸長し雌蟲の尾端は幹枝を離る卵子を産み終る頃に至らば管は増々引伸彎曲し雌蟲は仰向きとなり腹面は幹枝を離れ背面を之に接するに至る此際卵囊は環狀を爲すものなり一個の卵囊内に存する卵數(桑名氏に據る)は三千顆以上なりと云ふ。

雄蟲(桑名氏に據る)體は細長くして黄色を呈し眼三對ありて觸鬚は十節より

(圖 五 十 五 第)



イ、雌  
 ロ、群着ノ卵囊  
 ハ、卵囊ヲ生ズル雌

成る腹部は殆ど圓錐形にして其末端より伸出せる交尾器は長大にして尖りたり體長四厘許ありて翅の開張一分弱なり。

經過習性 雌蟲は四五月に交尾し産卵す、卵子は産下後二週日前後にて孵化

し幼蟲産出す此者は葉裏枝幹等に止まり冬日を經過し翌春に至り雌雄兩蟲に化生するものなり。

加害狀況 幼蟲及び雌蟲はヒメコブシを初めとし桑、合歡、萩等に寄生し之より養分を吸収し生活す故に被害の植物は多少其勢力を減ずるものなるも之が爲めに枯死することなし。

豫防及驅除法 固より被害植物の葉裏枝幹等に寄生するものを驅除するも可

なれども最も便法と思はるるは雌蟲産卵の時期に於て卵囊を生ず、同囊は純



白なるが故に容易に認め易ければ之を嚴く蒐集し囊内に充ちたる卵子を潰殺せば害蟲の發生を豫防するに有効なるものなり。

### 第十三、槭害蟲

#### 一モミチ白裸蠶蛾 (第五十六圖)

學名 *Brachionycoides atrovittatum* Brem.

族名 ノトトンチ族、天社蛾族

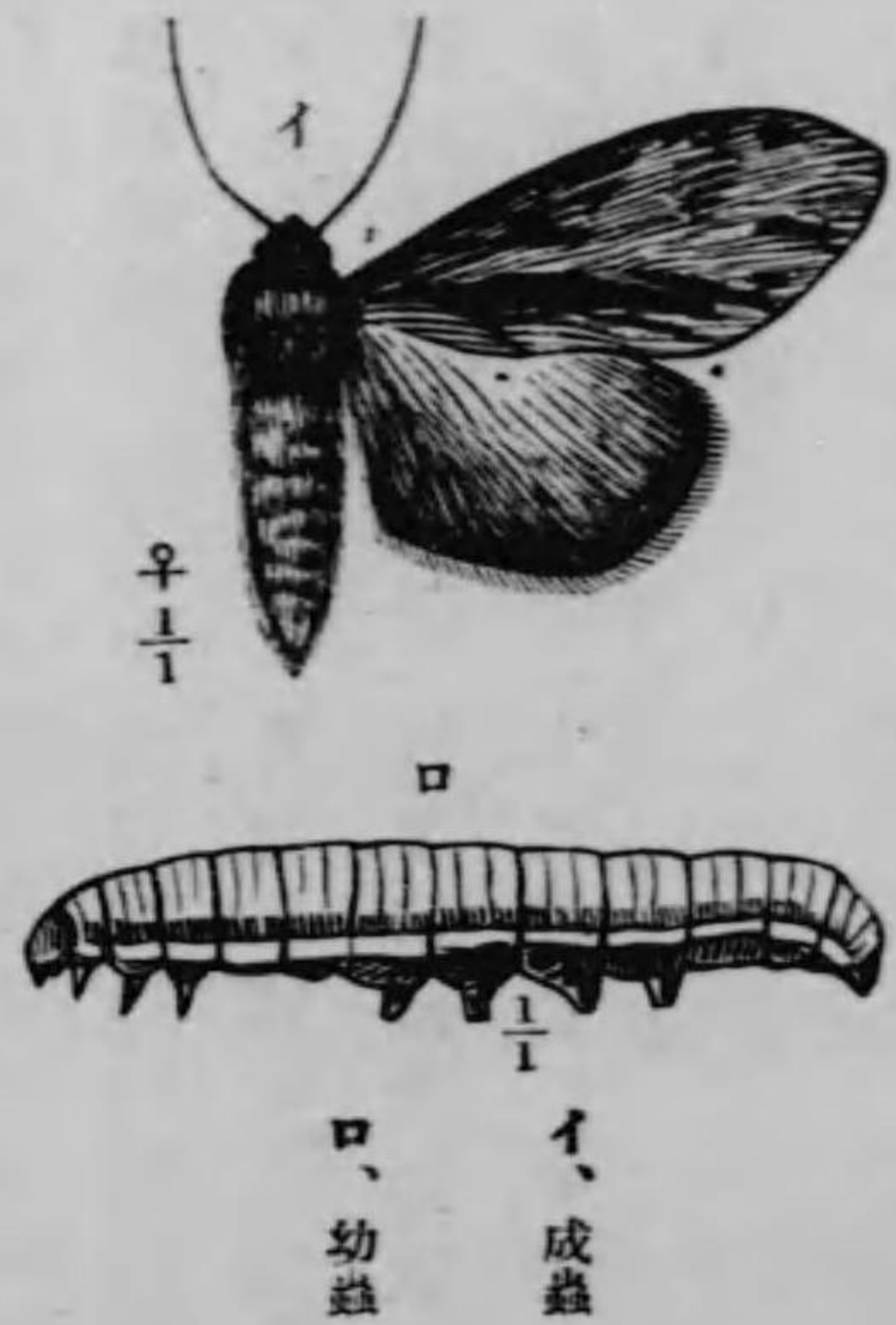
異名

形態

成蟲 雌蛾は體軀肥へ暗灰褐にして複眼は黒く觸鬚は灰褐なり、胸部の前縁と兩側に存する黒條は馬蹄形をなす、前翅は淡灰褐にして其前縁には六個の

黒斑を存し後縁に沿ふては一個の大なる長き黒斑あり、此斑の外半に接し一個の長き黒點斑と一黒點とを存じ尙ほ翅の中央には内半に一個外半に一個の長黒點斑を存したり、後翅は淡灰褐なるも其外半は灰褐色を呈したり、體長七分六厘餘、翅の開張約二寸あり。

(圖六十五第)



イ、成蟲  
ロ、幼蟲

幼蟲の老熟せる者は長け一寸五六分あり、體軀は圓筒形なるも頭尾兩端に向つて稍や細まる、頭部は淡綠色なり、胴部の背面は白色にして腹面は暗綠色なり、氣門線は濃黃綠にして同線の上縁は濃藍色を呈し、下縁には毎節一個の濃藍色の橢圓斑を存じたり、胸脚及腹脚は何れも暗赤褐を呈したり。

經過習性 幼蟲は六七月頃現出し槭葉を食とし七月下旬老熟し土中に入り化蛹し八月上旬化して蛾となる幼蟲は舉動不活潑なるも其着色は槭葉に酷



似するが故に之を検出すること容易ならず。

**加害状況** 幼蟲は槭葉を貪食すること甚しく特に其嗜食するは新條の嫩葉なり、加害の劇しき時は新條は多く葉を失ひ只だ枝條のみを餘すに至る、又被害樹の下に蟲糞の散在することにも害蟲の發生を知るべし。

**豫防及驅除法** 幼蟲發生の時は枝條は多く葉を失へるが故に容易に其所在を認め易きも之を捕ふる時に當ては害蟲の着色葉に酷似するが故之を心得おき搜索に勤むべし、又樹下に蟲糞の散在するも害蟲發生の徴候なれば其散在するものあらば其上方に横はれる幹枝に就き害蟲を搜索驅除するを要するなり。

半翅目

一 槭介殼蟲 (第五十七圖)

學名 *Diaspis* Sp.

族名 介殼蟲族

異名

形態

雌の介殼は圓形若くは橢圓形にして暗綠褐色を呈し其面には十個前後の皺様縱線あり、殼點は圓形にして綠色を呈し少しく褐色を帶ぶ、雌蟲は稍や扁平にして腹部の幅廣く暗紫色を呈すれども醫板は暗橙黃なり、觸鬚は短小にして少しく彎曲す、口具は絲形にして長し、醫板には左右各二對の分泌孔群を存じ各群に存する分泌孔は十六個乃至十七個なり、醫板の游離縁には三對の黃褐の扁長板あり、各二扁長板の間には二個の棘狀板あり、第一對の扁長板の游離端は稍や擴がりて其左右に各々一個の截痕を存じ、第二及び第三對の扁長板にも左右に一個の截痕を存す、各棘狀板の游離縁は二三刺に分たれ或は九個乃至十個の刺に分たることあり、體長約五厘あり。  
卵子は長橢圓にして長け〇・二七ミ、メ、幅〇・一二ミ、メあり。



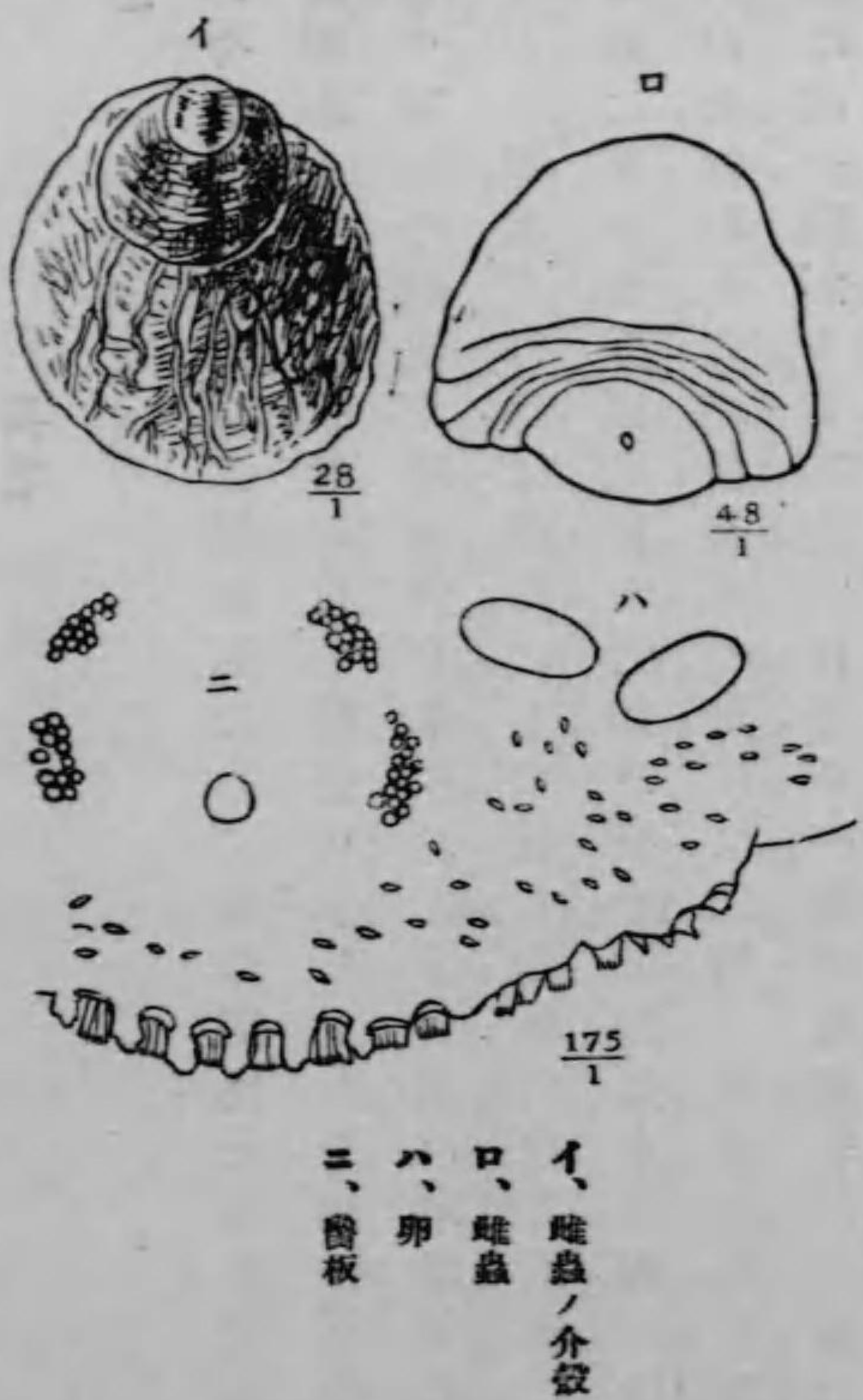
經過習性 ● 此介殼蟲は械類(イタヤ類)の幹枝に寄生するものにして四月下旬乃至五月に産卵し、之より孵化し出でたる幼蟲は六七月頃成蟲となり、交尾し雌蟲は越冬し翌春に至り産卵するものなるべし。

加害狀況 此介殼蟲は楓の幹枝に寄生し蟲害を及ぼすものなり。

豫防及驅除法 此介殼蟲は械の樹皮に酷似するが故に能く注意搜索すべし、若し之を検出し

たる時は小刀の尖き又は竹筥の類にて之を樹皮より搔取り驅除するを要す。

(圖七十五第)



二もみじのわたかひがらむし (第五十八圖)

學名 Pulvinaria Horii Kuw.

族名 介殼蟲族

異名

形態

雌蟲は體軀扁平殆ど圓形背面は灰黄色にして其脊線には二條の暗黒線あり

(圖八十五第)



は四本の擔球毛あり、體軀は長け約四分五厘あり。

雄蟲(桑名氏に據る)は黄赤色にして觸鬚及び脚は淡黄、翅は無色透明なるも翅脈に沿ひ淡紅色を帶ぶ、單眼は三對觸鬚は九節より成り、腹部の末端には四個の肉質凸起ありて其中央に交接器を存ず、體長は三厘五六毛ありて翅の開張約一分あり。



**經過習性** 一化生にして六月中雌蟲は其體の後部より蠟質の白色絲狀の分泌物を出し之にて卵囊を製し中ちに多數の卵を産入るものなり、此卵は暫時にして孵化し幼蟲となり、八月中雌雄出で交尾し雌蟲は冬日を經過し翌年に至り産卵するものなり。

**加害狀況** 此介殼蟲は槭、梨等に寄生し蟲害を加ふ、蟲體の着色は樹皮に酷似するが故に少しく注意せざれば之を検出すること能はず(但し雌蟲の産卵期には白き卵囊を生ずるが故に之を検出すること容易なり)固より此害蟲の寄生を受けたる樹幹は其養分を失ひて衰弱するに相異なきも之が爲めに枯死することなし。

**豫防及驅除法** 此害蟲を驅除するは産卵の時期を最も適當なりとす、此際には雌蟲は充分に成長し且つ白き卵囊を生ずるが故に之を検出すること容易なり、右等の雌蟲は竹筥にて搔取り一纏めとし潰殺するを要す。

## 第十四、ムクゲ害蟲

鱗翅目

### 一むくげ蛾 (第五十九圖)

學名 *Cosmophila mesogona* Wlk.

族名 夜盜蟲蛾族

異名 アカキリバ

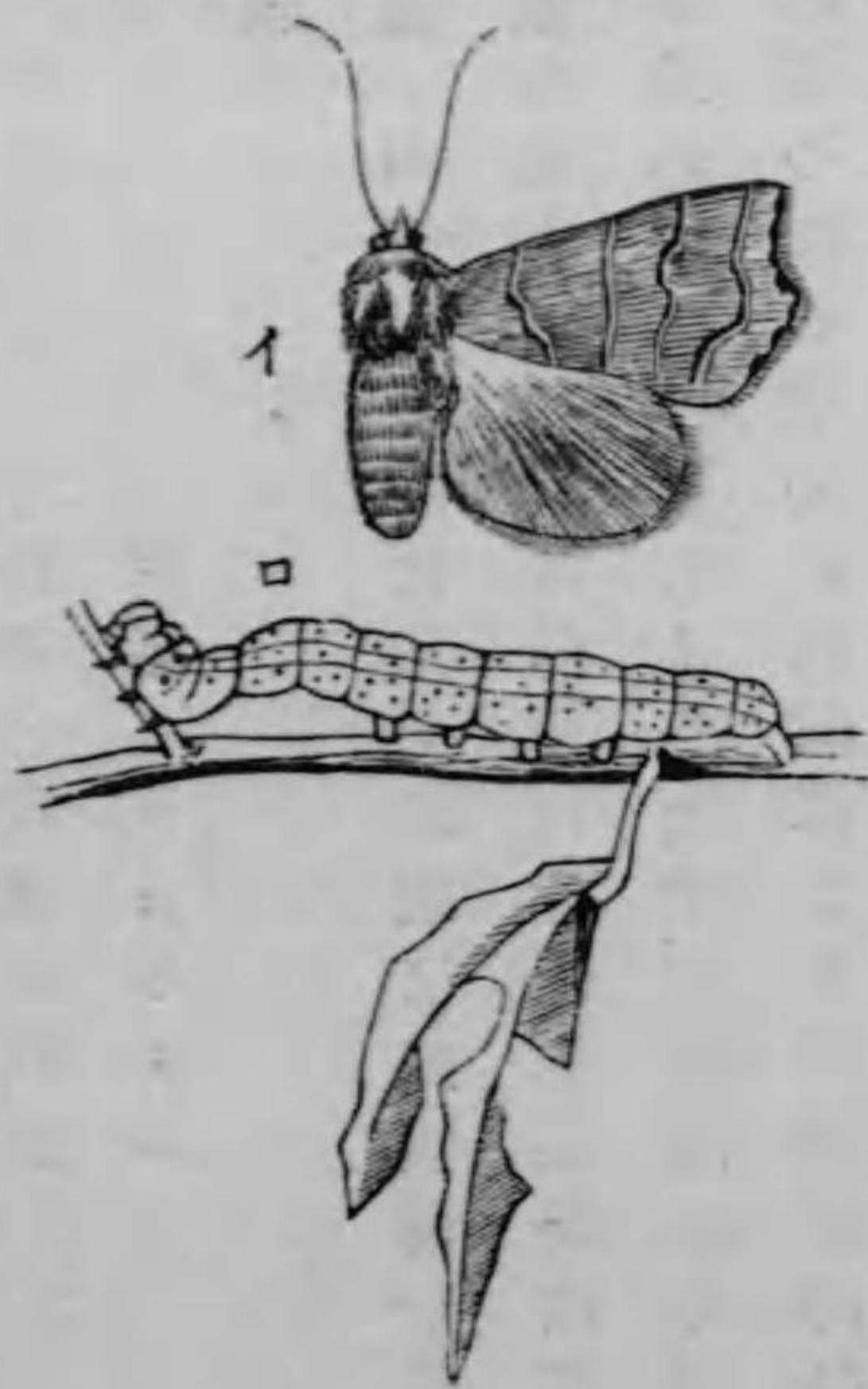
形態

**成蟲** 中庸大の蛾にして雌蛾は體軀稍や肥へ頭胸の兩部は赤褐にして腹部は蠟色なり、下唇鬚は前面に伸出し複眼は茶褐色なり、前翅は殆ど長方形にして外縁の中央は著しく凸出す、翅面は灰赤褐を呈すれども内半は稍や赤色を帯び且つ翅の中央には前縁より後縁に向ひ一條の灰白線の走れるものあり、又内半には一條、外半には二條の灰白曲線の前縁より後縁に向ひ走れるものあり、縁毛は灰黄にして之に濃褐點紋を並列す、後翅は殆ど三角形にして濃鼠色を呈すれども内半は稍や淡薄なり、體長六分、翅の開張一寸四分餘あり。



幼蟲の老熟せる者は長け一寸四分餘あり、體軀は圓筒形にして長く頭部は淡綠藍色を呈し後頭には二個の橙色斑を存じ觸鬚は絲狀、下唇鬚は頭部の前面に伸出す、胸部は帶綠灰藍にして背面は着色稍や濃厚なり、背線は灰白破線の

(圖 九 十 五 第)



イ、成蟲雌  
ロ、幼蟲

狀をなし亞背線は黄色にして幅廣く稍や波狀をなす、氣門上下の二線は鮮黄を呈し各軀節の背面には二對の黒點ありて黄環にて圍まる氣門上下の兩線は各々其

上下の兩縁に接して小黒點の存するありて同じく黄環にて圍まる、腹脚の根部には黄環にて圍まれたる黒點ありて之に單毛を生ず、第一對の腹脚は發育不完全なるも以下次第に發育す。

經過習性 幼蟲(むくげ蟲)は一年に二回産出する、所謂二化蟲にして主にむく

げの葉を蝕害す、第一回の幼蟲は六月中旬産出し七月上旬老熟し兩三葉を絲縷にて綴り繭となし之に蟄して蛹となり八月中化して成蟲となり産卵す、此卵子は九月上旬頃孵化して幼蟲となる之れ第二回の幼蟲なり、十一月上旬老熟し再びむくげの葉を絲縷にて綴り繭となし之に蟄して蛹となり冬日を經過し翌年四月上旬頃化して蛾となり産卵するものゝ如し、幼蟲の腹脚は全部完全ならざるが故に其歩行の状態は普通の尺蠖に能く似たり。  
加害狀況 幼蟲は「むくげ」に棲息し往々其産出多くして蟲害少からざることあり、其産出の多寡は被害の樹下に散在する蟲糞に依て知るべし。  
豫防及驅除法 幼蟲が加害の時期に於ては時々見廻り地上に散在せる蟲糞に注目し若し蟲糞を検出することあらば其上方に横はれる枝葉を搜索し害蟲を蒐集し潰殺するを要す。



### 第十五、ネムノキ害虫

#### 鳞翅目

#### 一 ネムノキ毛蟲蛾 (第六十圖)

學名 *Hypopyra dulcinea* Fel.

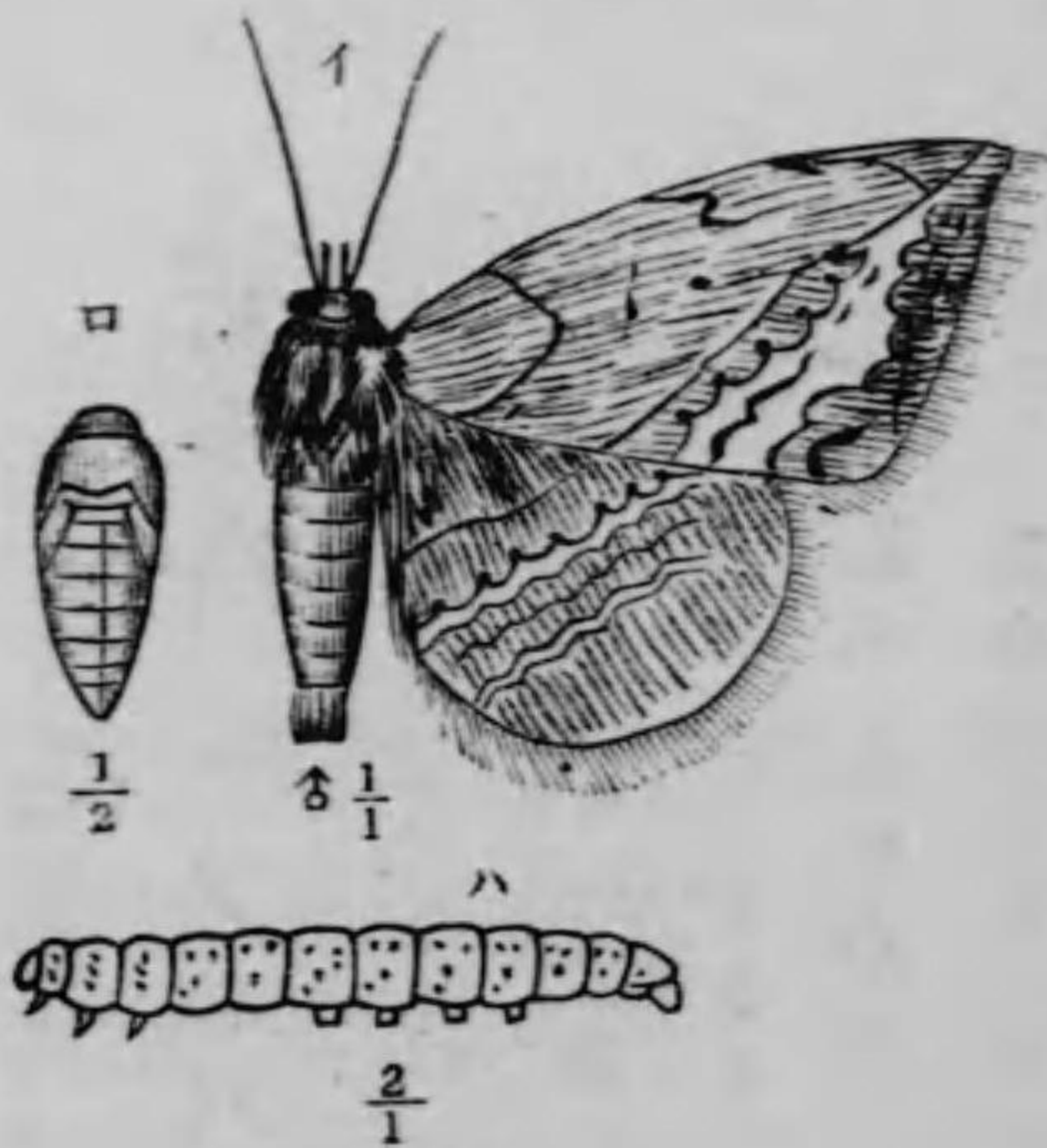
族名 夜盜蛾族

異名

#### 形態

雌蛾は體軀中庸大にして灰黄褐色を呈し觸鬚は絲狀にして下唇鬚は前面に伸出す胸部は幅廣く其前縁は赤褐を呈し腹部の下半は朱色を呈せり翅は前後共に幅廣くして帶黄橙色を呈し前翅の外縁は少しく綠色を帶ぶ其外縁の上部は少しく絞れ同翅の中央には一個の黒點と翅尖より斜めに後縁の中央に向へ走れる赤褐條ありて其外側には一列に黒點を均列し又前縁よりは斜めに短き灰褐の三條を出だせり後翅は其着色斑紋等前翅と異なることなき

(圖十六第)



イ、成蟲  
ハ、幼蟲

も其前縁に短條を存することなし前後兩翅の裏面は橙赤色にして各翅其前縁より後縁に向ひ太き三波條を走らせり體長七分、翅の開張二寸あり。幼蟲の老熟せる者は長け二寸二三分ありて帶黄灰色を呈し各軀節に存する毛瘤には黒粗毛を生ず蛹は圓形濃褐にして長け一寸一分あり。經過習性 幼蟲は九月上旬より産出し「ねむのき」に棲息し其葉を食とす十月中旬より老熟し絲糞を吐き數葉を纏めて繭を營み之に蟄して蛹となり冬日を經過し翌年七八月化して蛾となる。

加害狀況 幼蟲は「ねむのき」の葉を蝕害すること多きも其産出多からざれば大害を及ぼすことなし。

豫防及驅除法 「ねむのき」に害虫を發生したる時は其葉は多く蝕害せらるる



が故に其徴候を調査し害蟲を驅除し又數葉の綴られたる者は藪なれば之を取集め藪内に蟄せる蛹を驅除すべし。

### 第十六、ナツツバキ害蟲

半翅目

#### 一 ナツツバキ介殼蟲 (第六十一圖)

學名 *Lecanium* sp.

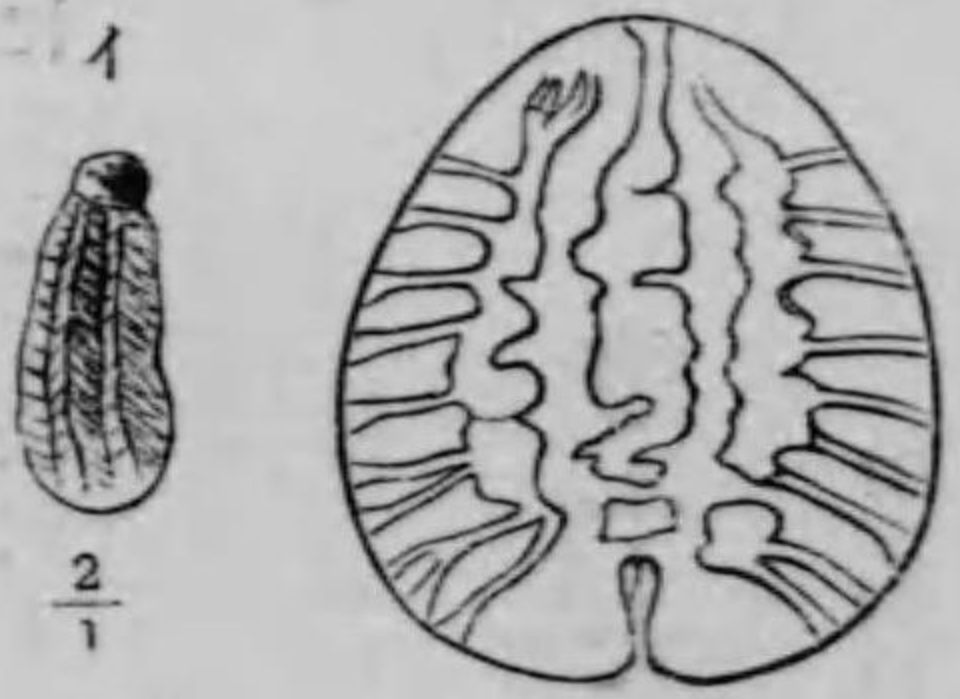
族名 介殼蟲族

異名

形態

成蟲 雌蟲は扁平橢圓なるも其尾端は頭端よりは一層幅廣し着色は暗淡褐にして背面は稍や腫れ其中央と左右とに多少高まりたる歪の畝を存じ左右

(第十六圖)



イ、卵囊器具フル  
口、雌(廓大)

兩側に於ける畝の外側より體縁に向ひ更に數條の横線を出す、後端に於ける凹陥は稍や深く其止まる處には二個の三角板を並列す、觸鬚は口部の位置よりは遙に前方に生じ七節より成り第三と四の二節は他より一層長くして第七節は末端に向て次第に細まりたり前脚は口具と同じ水平線に生じ、爪は短大にして其付元より二本の擔球毛を生じたり、皮膚は常に僅少の白粉にて被はる體長一分あり産卵の時期とならば雌蟲は其皮膚より純白の蠟質を分泌し之にて扁長の卵囊を造る之と同時に卵囊の中に多數の卵子を産入る卵囊には二條の畝ありて且數十條の屈曲せる皺を並列す、卵囊は長け二分六七厘あり、卵は橢圓形にして薄き橙黄色を呈し長け三厘前後あり。

經過習性 雌蟲は四月中旬乃至下旬に老熟し卵囊を造り盛に此中に卵を産入る、此卵は間もなく孵化し幼蟲となる幼蟲は冬日を經過し翌春に至て成蟲



となるものなり。  
**加害状況** 此介殼蟲は主にナッツバキの幹枝に棲息し之より養分を攝取するも其蟲害は敢て著しからず。  
**豫防及驅除法** 被害樹は時々之を檢查し幹枝に介殼蟲の附着せる時は竹筥の類にて之を搔取り除蟲することを要す。

### 第十七、サング樹害蟲

甲翅目

一 サング樹ハムシ (第六十二圖)

學名 ?

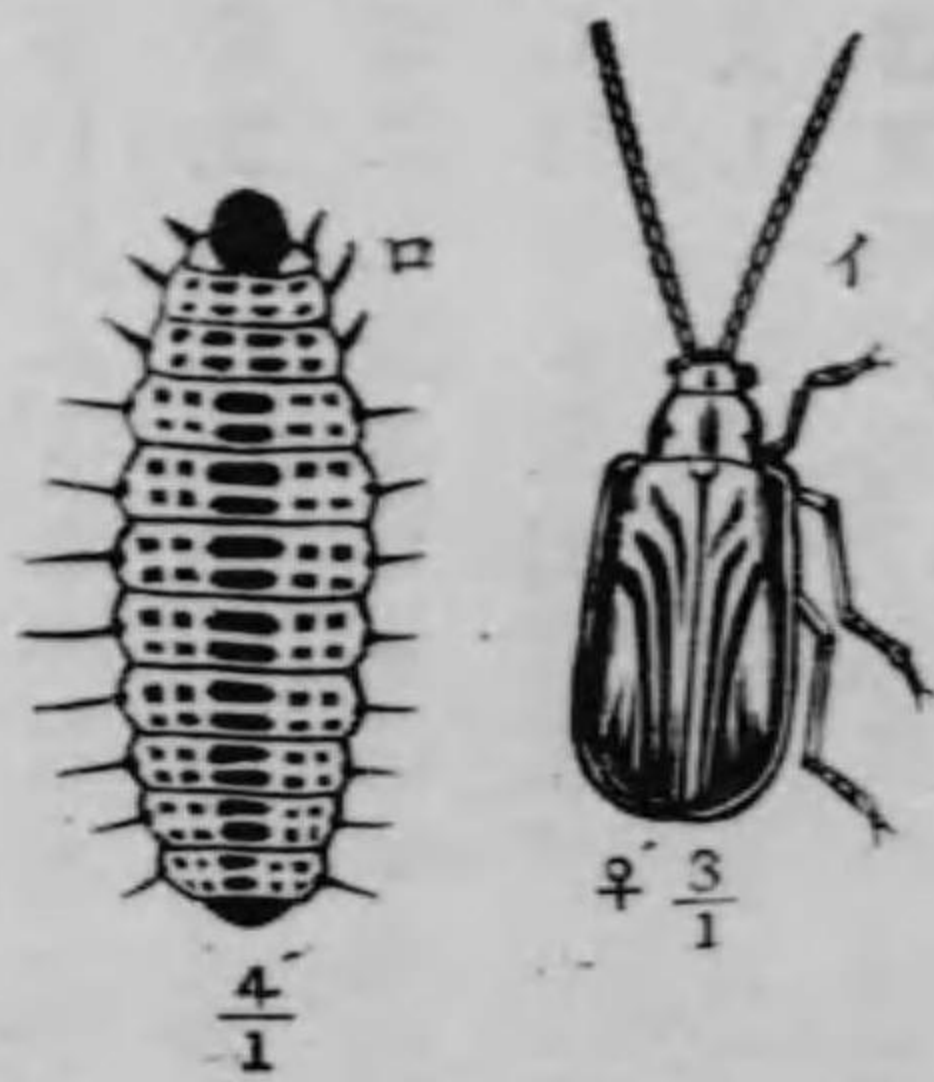
族名 葉蟲族

異名

#### 形態

**成蟲** 雌雄は着色略ぼ同一なるも大さを異にす、頭胸の兩部は幅殆ど均しきも翅鞘は頭胸に倍す體軀は淡黃褐にして頭部と前胸との前縁は同幅なるも後者は其後縁に向つて次第に幅廣し翅鞘は幅前胸に倍し頭部の背面、前縁及び後縁の左右に灰黒色の斑紋を存じ翅鞘の前縁の左右兩隅及後縁は灰黒色を呈し中央には左右平等に灰黒色の數斜條を存したり、複眼は黒く觸鬚は長け體長の約三分二あり、雌蟲は長け二分三厘、雄蟲は一分五厘あり。

(圖二十六第)



イ、成蟲  
 呈し中央には左右平等に灰黒色の數斜條を存したり、複眼は黒く觸鬚は長け體長の約三分二あり、雌蟲は長け二分三厘、雄蟲は一分五厘あり。

ロ、幼蟲

雄蟲は一分五厘あり。

**幼蟲** 體長約二分稍や扁長にして幅廣し着色は淡黃にして頭部及第一と第十二軀節の背板は黒し、第二及第三軀節の背面には前後一對宛の黒條の横走するものあり、第四軀節乃至第十一軀節の各節には前後二條の黒斑を横走し氣門下線には亦一個の黒斑あり、右等の黒斑には短毛を生じたり。



徑過習性 幼蟲は六月上旬より産出しサンゴジュに棲息し其新芽、嫩葉等を蝕し七月中老熟して土中に入り化蛹し八月乃至九月化して成蟲となり再び同樹の葉を蝕害す、冬日は土中に蟄伏し翌年六月に至らば其潛伏所より出てサンゴジュに飛來り新芽嫩條に産卵す、此卵は間もなく孵化し幼蟲となり蟲害を加ふるものなり。

加害狀況 幼蟲は専ら新芽嫩條の葉を蝕すること夥しく爲に新芽は枯死し嫩葉は蝕盡され或は嫩葉は多く蟲孔を穿たれ甚しく衰弱し時ならずして落葉し同樹の美觀を損すること多し、又蟲害の一層甚しき時は被害の幹枝は衰弱甚しく或は枯死を免れざるものなり。

豫防及驅除法 害蟲の現はれたる時は被害樹の新芽、嫩葉は著しく貪食せらるゝが故に容易に害蟲の現出を知るべし斯く被害の徴候を呈したる時は低樹なれば害蟲を摘殺するも宜しきも高樹なる時は之を摘殺すること能はず、斯ゝる場合に於ては鯨油乳劑を噴霧器にて振り掛くるか或は苛性曹達の稀簿液(但し一乃至二プロ)に少量の除蟲菊粉末を加入し之を振り掛くるも驅蟲

の効あり又た魚藤の粉末を水に浸し之を振掛くるも驅蟲の効あり。

### 第十八、ヒキラギ害蟲

甲翅目

一 テントウハムシ (第六十三圖)

學名 *Orgopistes coccinelloides* Baily.

族名 葉蟲族

異名

形態

成蟲 成蟲は其外形恰も瓢蟲の如くなるも其後脚を見る時は容易に瓢蟲ならざることを知るべし、體は殆ど圓形にして深黒色を呈し各翅鞘には一個の



濃紅色の橢圓紋を存ず觸鬚は十一節より成り根基の節は他節よりは一層長大なり、脚は黒色にして後脚は能く發達し其大腿節は極めて扁平にして丈夫なり之にて巧みに跳行す、脛節の外端には二刺を具ふ、體長雌約一分あり。

卵子は圓筒形にして淡黄色を呈し卵殻は薄くして軟かなり、卵長は約三厘あり。



イ、成蟲



ハ、成蟲後脚



ニ、被害葉

(圖三十六第)

一節の側部は多少隆起し胸部は黒色なり。

徑過習性 成蟲は五月中旬より現出しヒキラギに棲息し其葉を蝕し次で化蛹す六月中旬より化して成蟲となる、其産卵は一定せざるが故に幼蟲の成長も甚だ區區なり、故に同時に幼蟲、蛹、成蟲を見るべし、成蟲は冬日を経過し翌春

至り産卵するものなり。

加害狀況 成蟲は幼蟲と共にヒキラギの葉を蝕害するものにして成蟲は常に個々葉裏に産卵す、成蟲は葉裏の表皮及び組織を蝕害するものにして其蝕害したる所は葉裏に輪狀、線紋或は短線紋を呈す、幼蟲は葉裏より葉内に蝕入り其組織を食す、其蝕害を受けたる表皮の部分は暗黄褐色を呈し少しく腫れ上がる、又葉組織内に入込みたる幼蟲は其尾端を先きに蝕ひ入りたる孔より挺出すること多し。

豫防及驅除法 ヒキラギを檢查し若し其葉に點々褐色斑を存する時は必ず其葉の組織内に幼蟲を寄生するものなり、而して幼蟲の寄生する處の表皮は多少腫起するものなれば此腫起部を指にて摘み幼蟲を潰殺するを良しとす、又成蟲は網にて捕へ殺すも可なり。